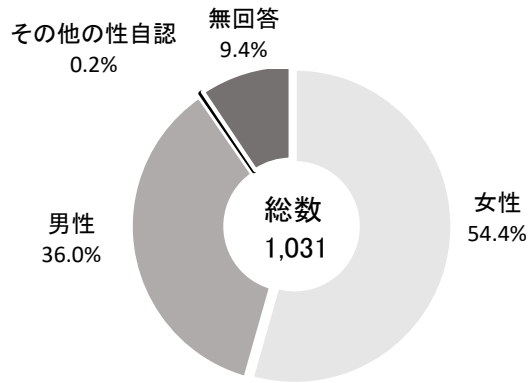


# 文京区男女平等参画計画に関する区民意識調査 調査結果の概要

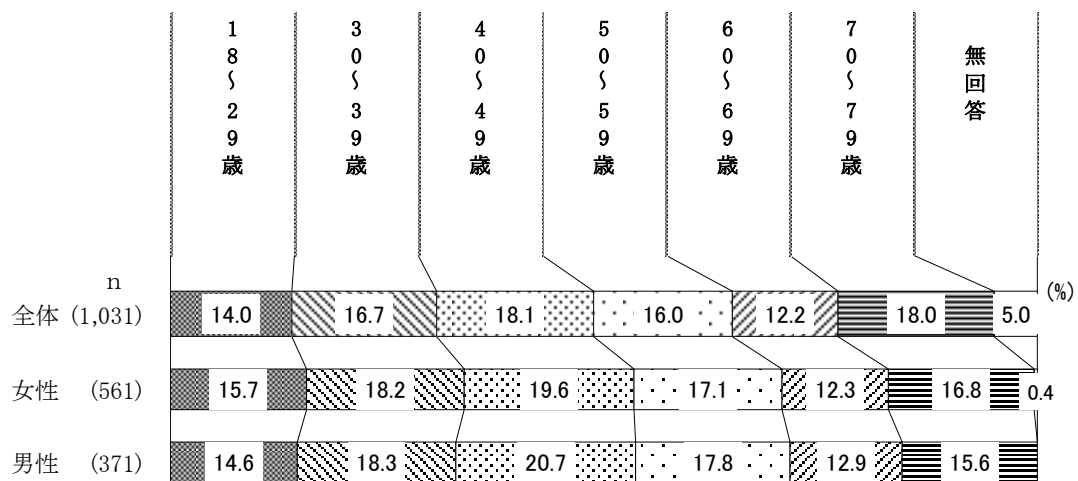
## 1 回答者の属性

### (1) 性別



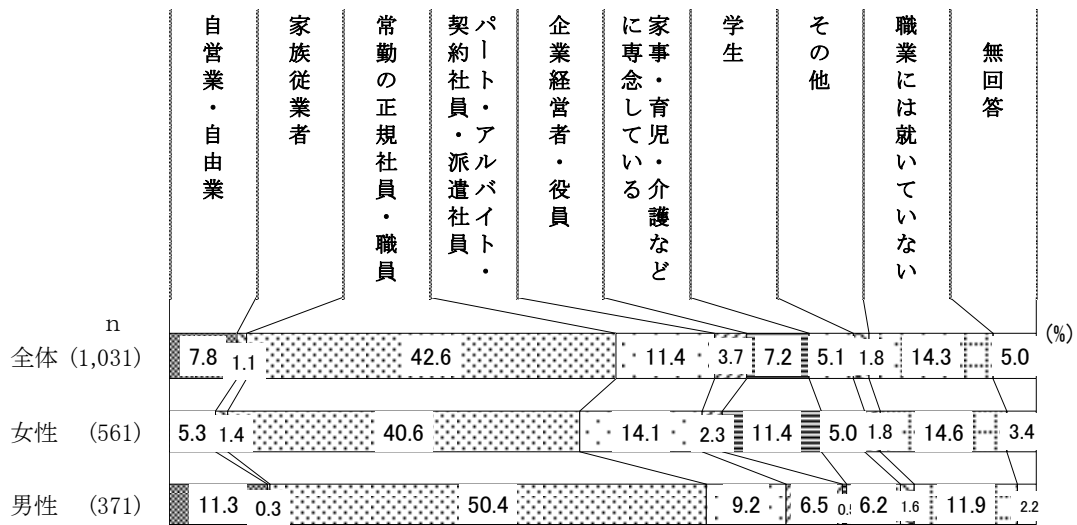
図表1 性別

### (2) 年齢



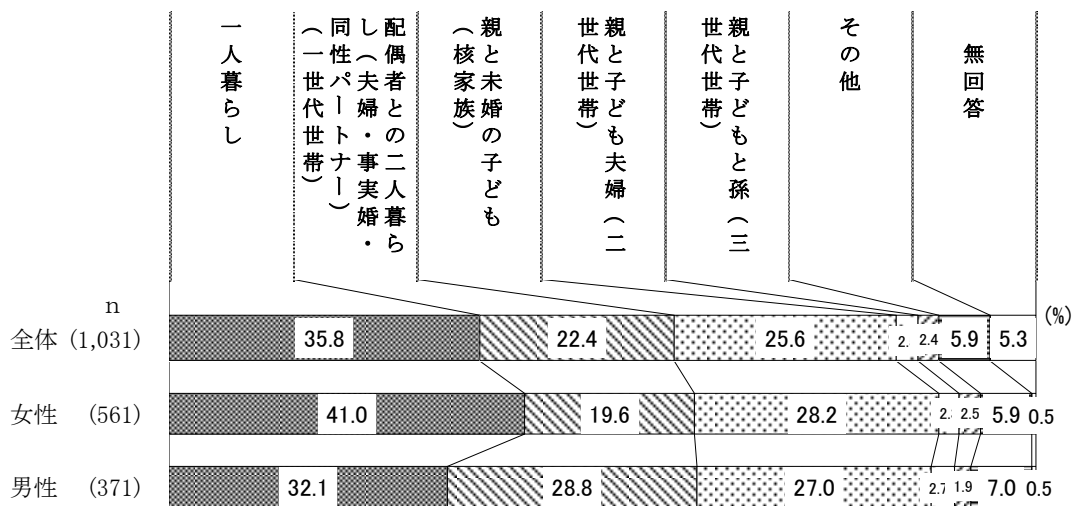
図表2 年齢

### (3) 職業 (問8)



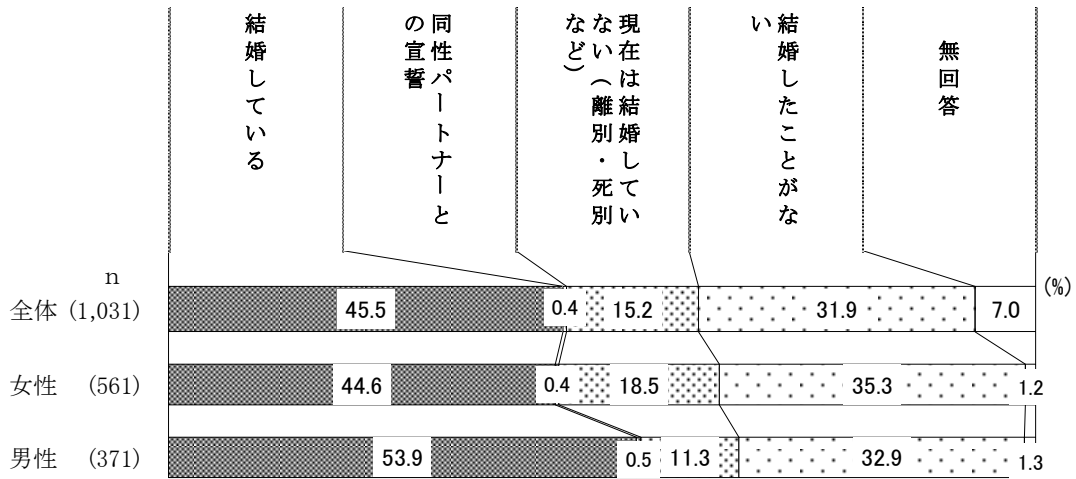
図表3 職業

### (4) 世帯構成

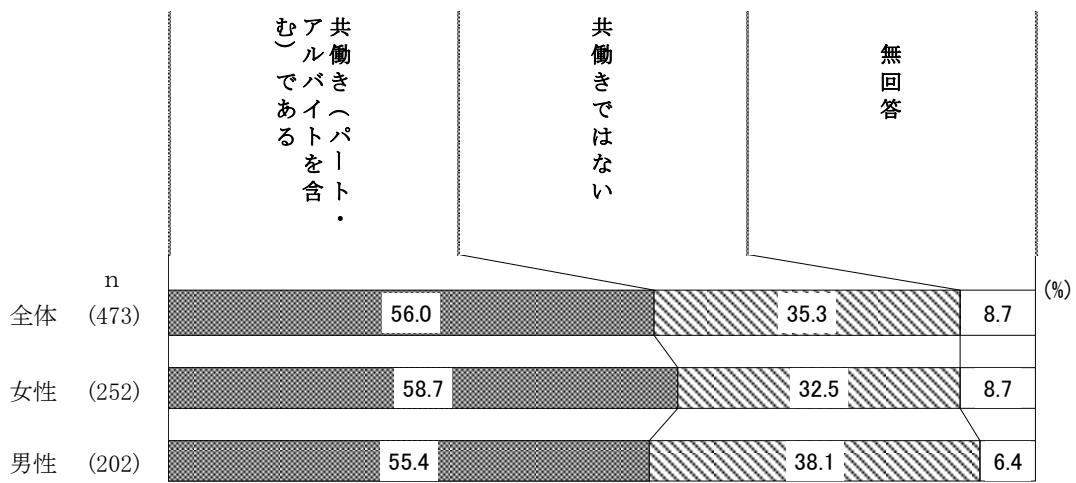


図表4 世帯構成

(5) 婚姻状況、共働き状況

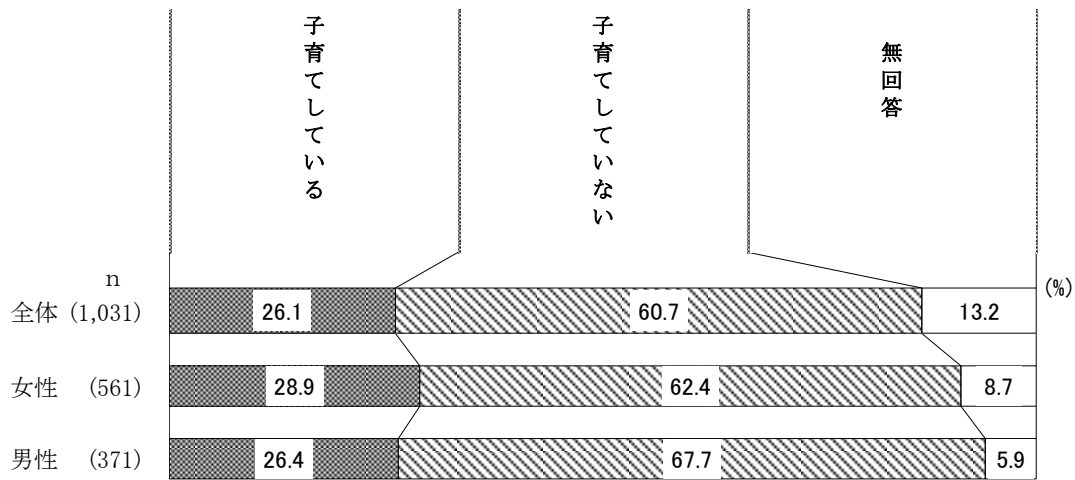


図表5 婚姻状況

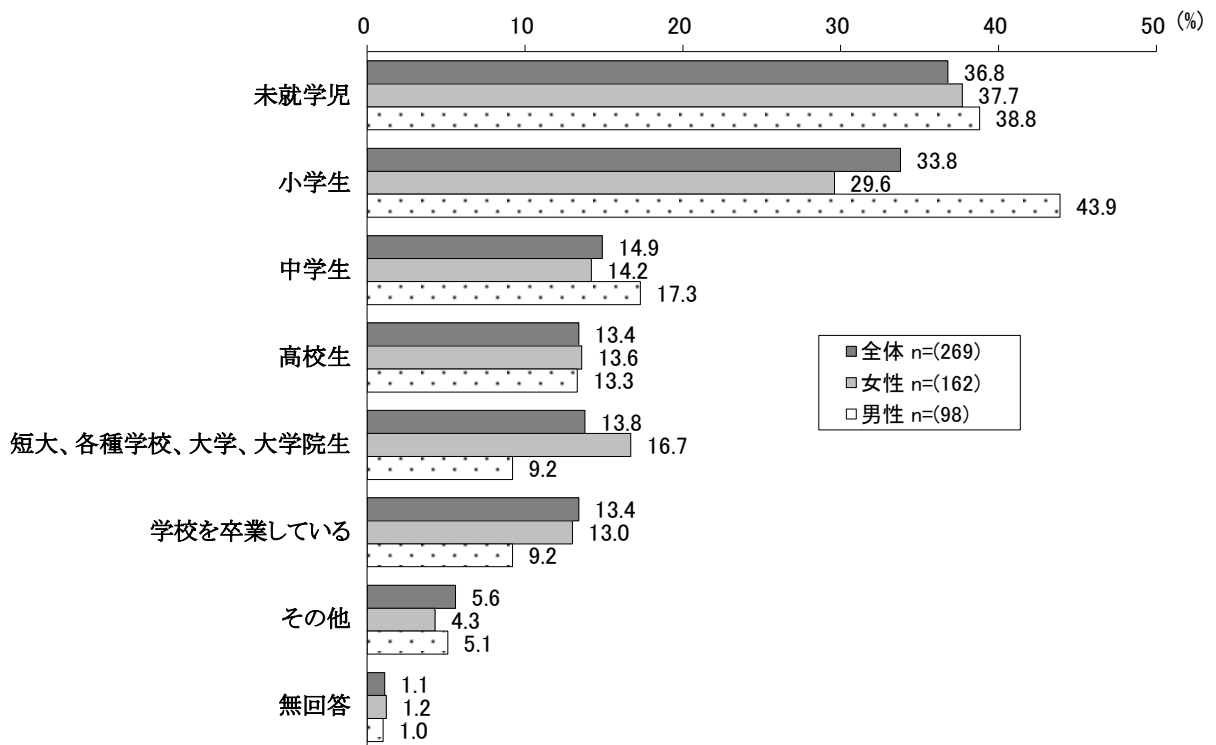


図表6 共働き状況

(6) 子育ての有無

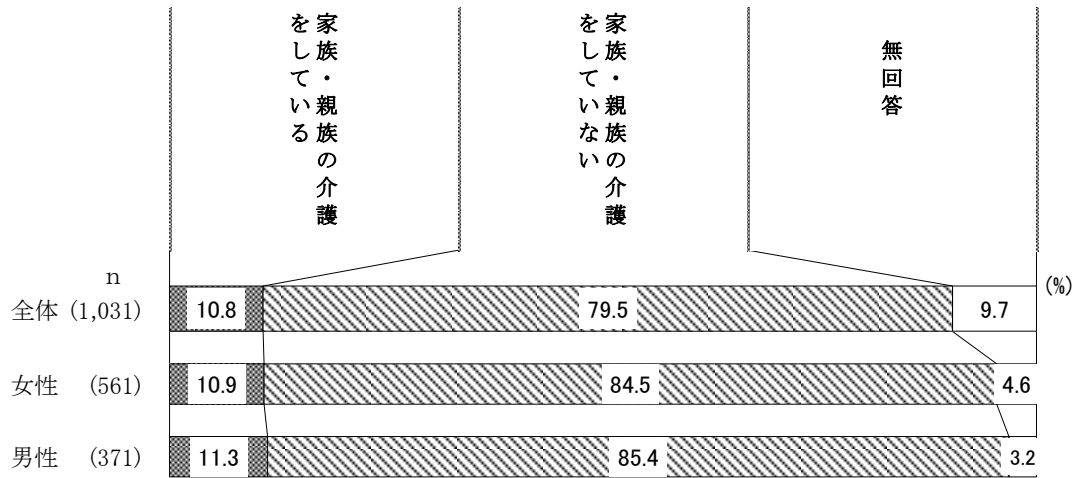


図表7 子育ての状況

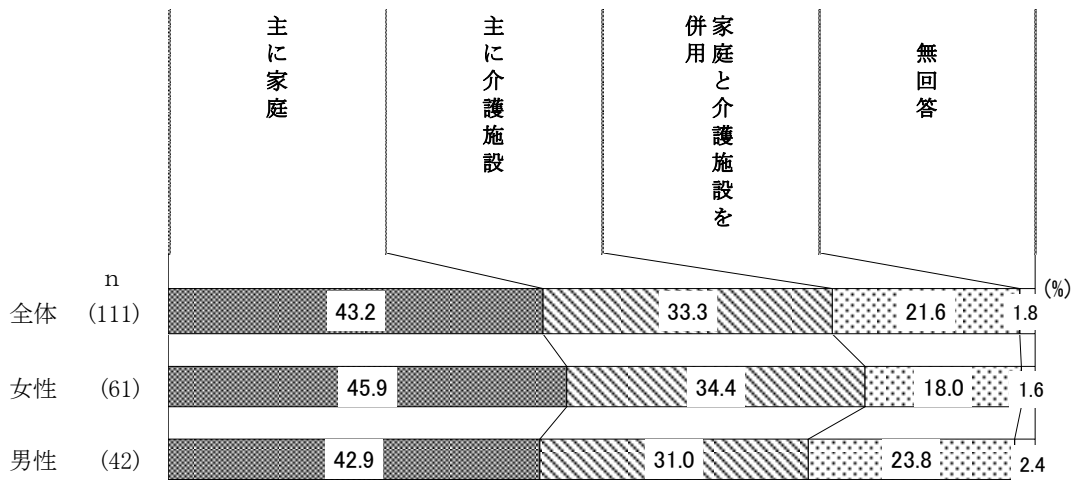


図表8 子育て中の子ども

(7) 介護の有無

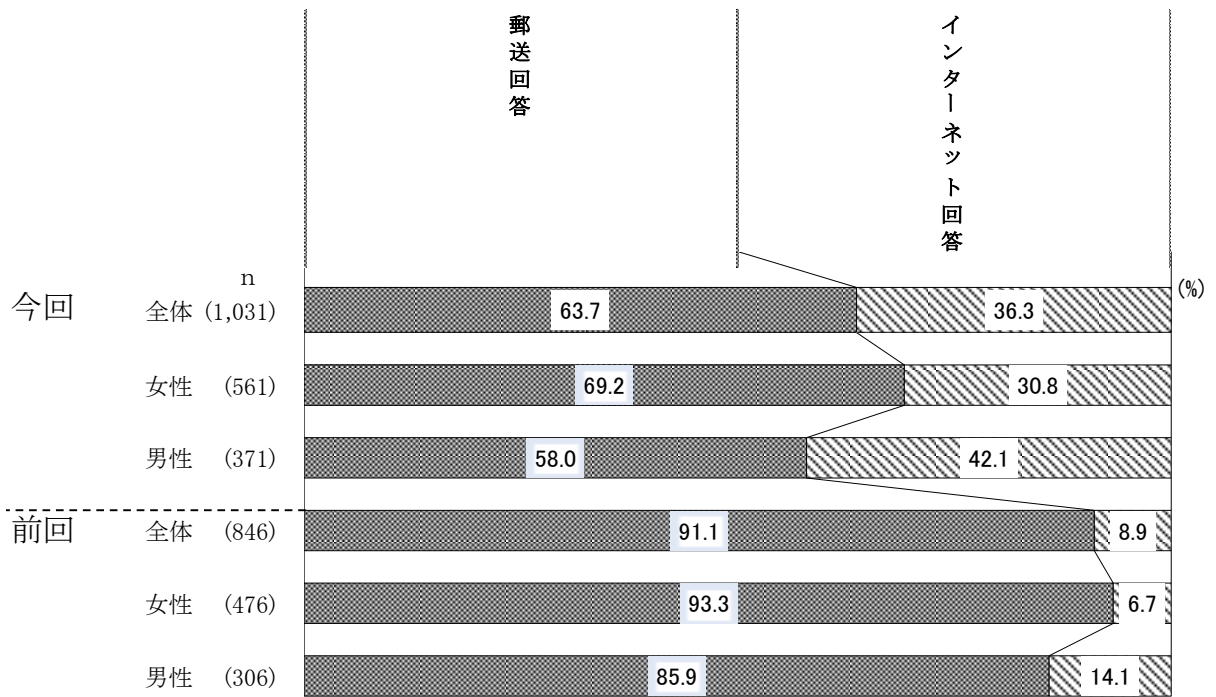


図表9 介護の有無



図表10 介護が行われている場所

(8) 回答方法

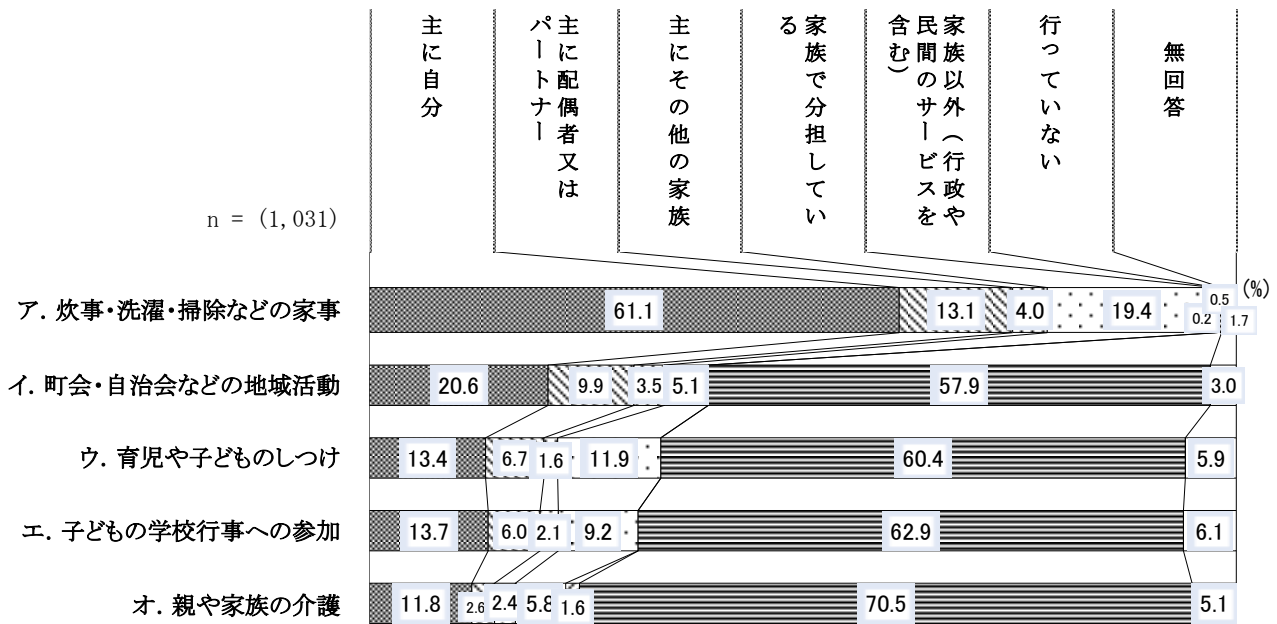


図表11 回答方法

## 2 家庭生活について

### 問1 家庭における役割分担

あなたの家庭では次のことがらを、主にどなたが行っていますか。(ア～オのそれぞれについて、当てはまる選択肢に○を1つ)



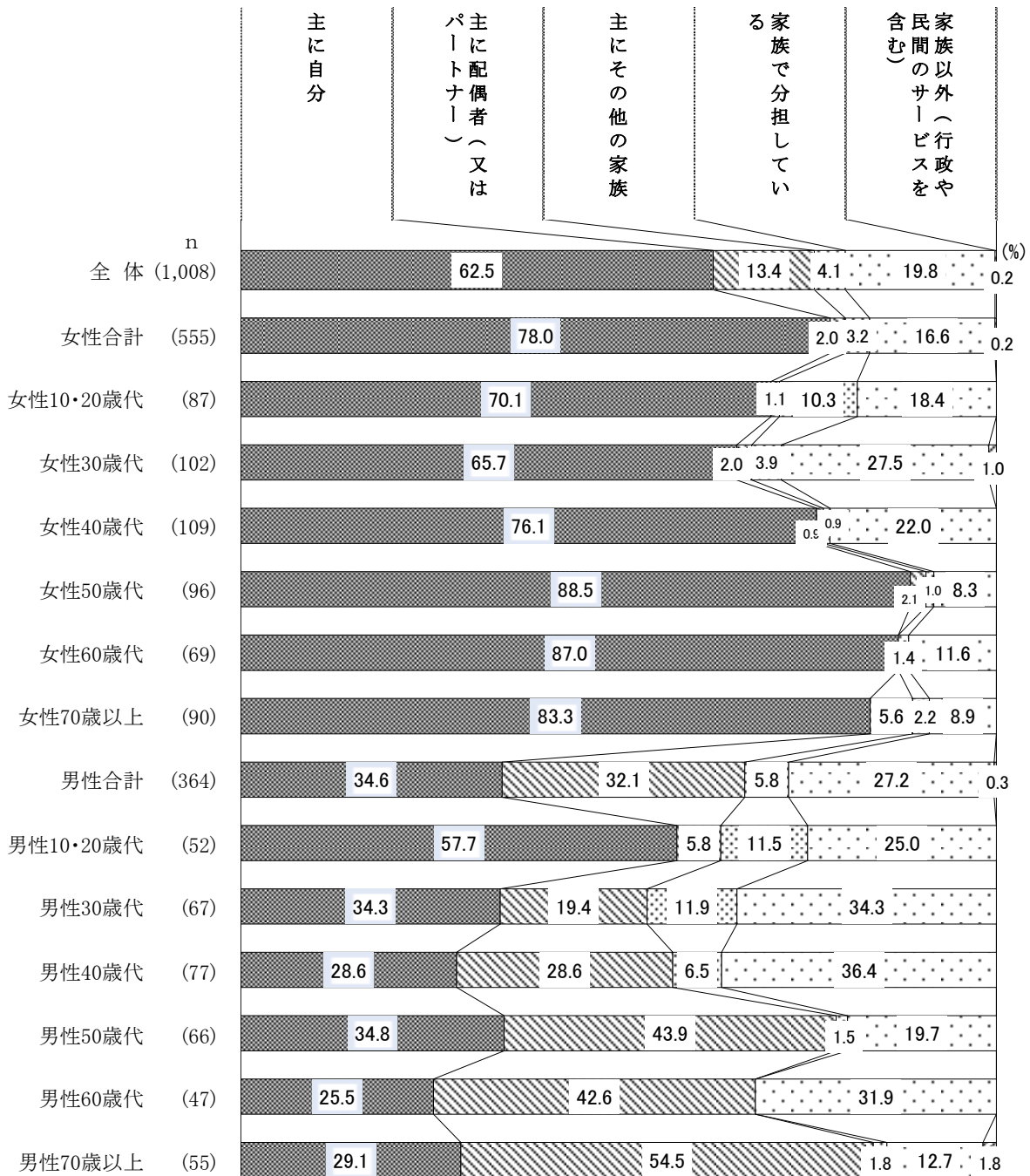
図表12 家庭における役割分担

#### ○全体の傾向

家庭での役割分担のうち、“炊事・洗濯・掃除などの家事”は「主に自分」が61.1%であり、「主に配偶者又はパートナー」が13.1%、「家族で分担している」が19.4%となっています。

なお、“町会・自治体などの地域活動”、“育児や子どものしつけ”、“子どもの学校行事への参加”、“親や家族の介護”については、5割以上が「行っていない」となっています。

ア. 炊事・洗濯・掃除などの家事



図表13 家庭における役割分担『家事・洗濯・掃除などの家事』(男女・年代別)  
【行っていない、無回答を除く】

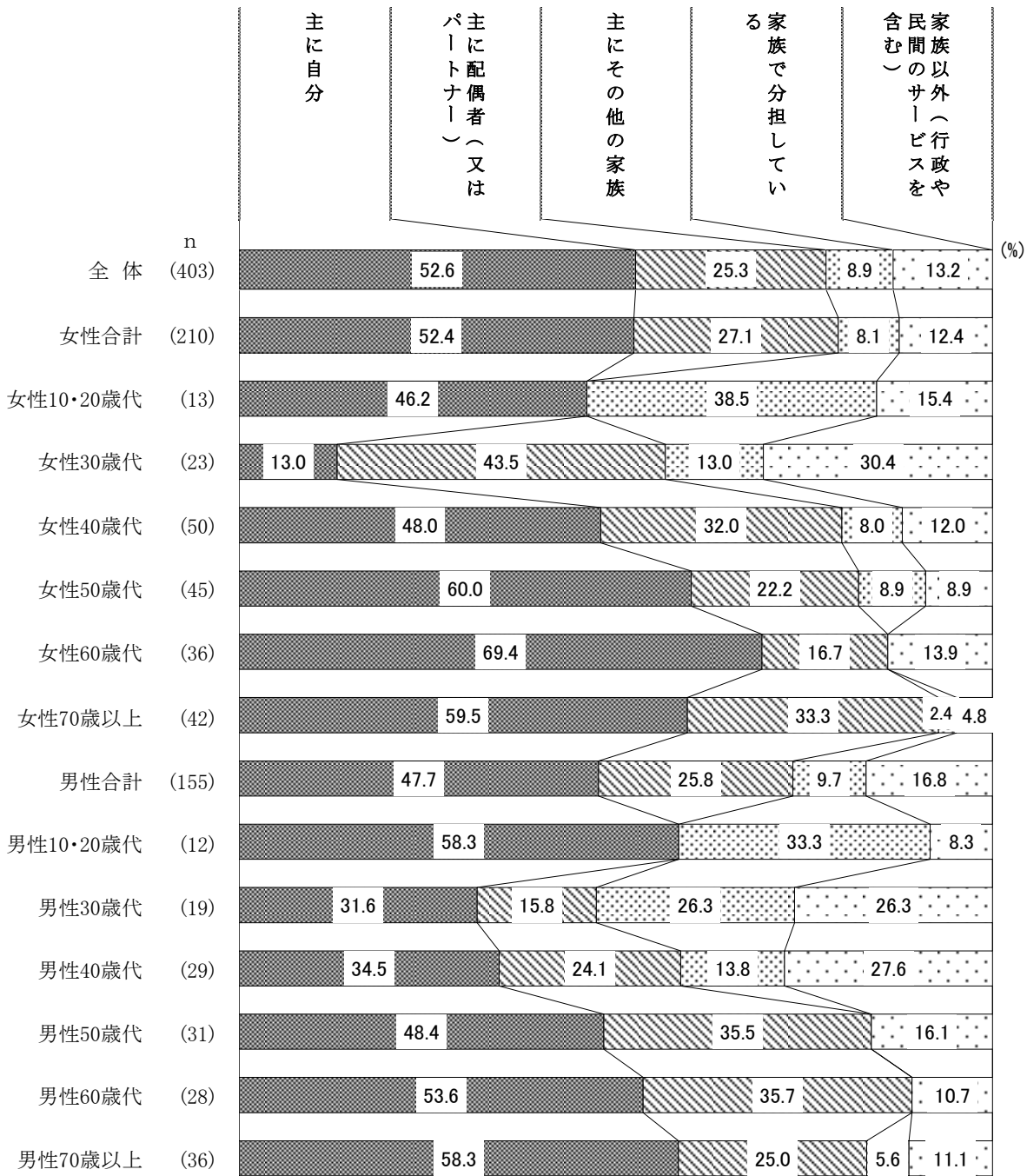
○男女・年代別の傾向

「主に自分」では、女性50歳代以上が8割以上と高くなっています。それ以外の女性が7割前後となっています。また、男性30歳代以上は4割以下と低くなっています。

「主に配偶者(又はパートナー)」では、男性70歳以上が54.5%と最も高くなっています。



イ. 町会・自治会などの地域活動



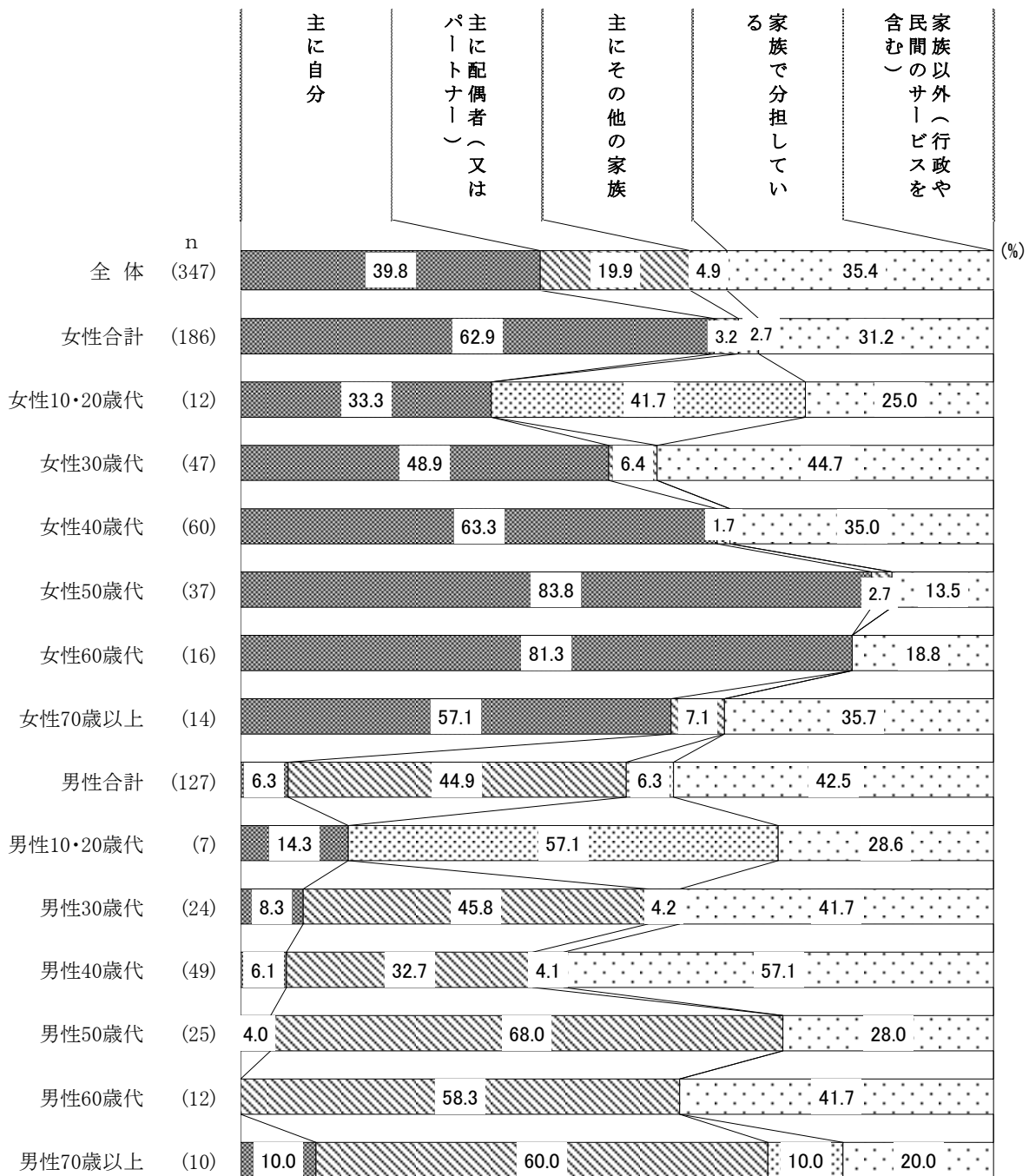
図表18 家庭における役割分担『町会・自治会などの地域活動』(男女・年代別)  
【行っていない、無回答を除く】

○男女・年代別の傾向

「主に自分」では、女性50歳以上、男性10・20歳代が6割弱と高くなっています。また、女性30歳代は13.0%と低くなっています。

「主に配偶者(又はパートナー)」では、女性30歳代が43.5%と最も高くなっています。

ウ. 育児や子どものしつけ



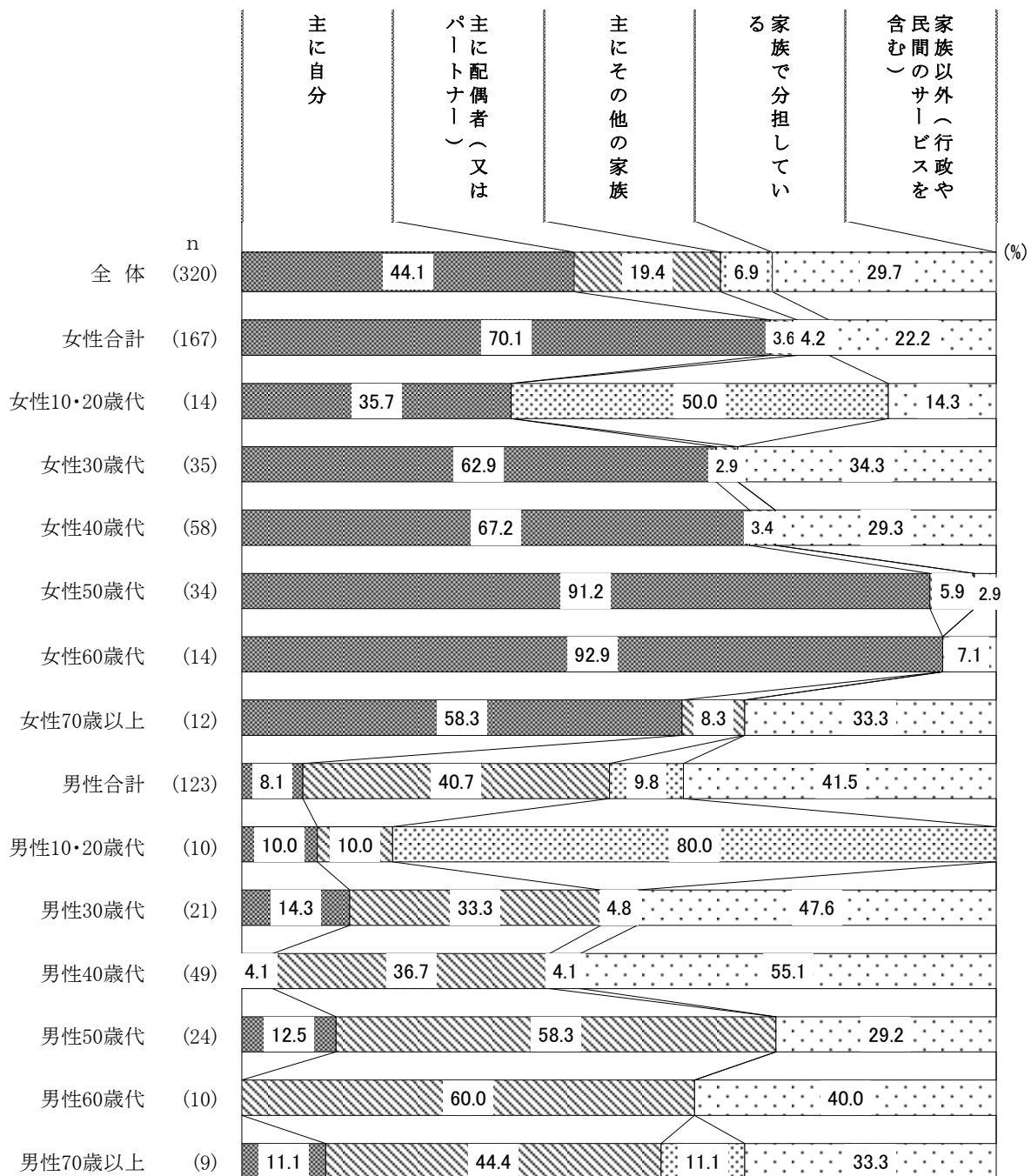
図表21 家庭における役割分担『育児や子どものしつけ』(男女・年代別)  
【行っていない、無回答を除く】

○男女・年代別の傾向

「主に自分」では、女性50歳代、女性60歳代が8割以上と高くなっています。

「主に配偶者(又はパートナー)」では、男性の50歳代が68.0%と男性全体よりも23.1ポイント高くなっています。

工. 子どもの学校行事への参加



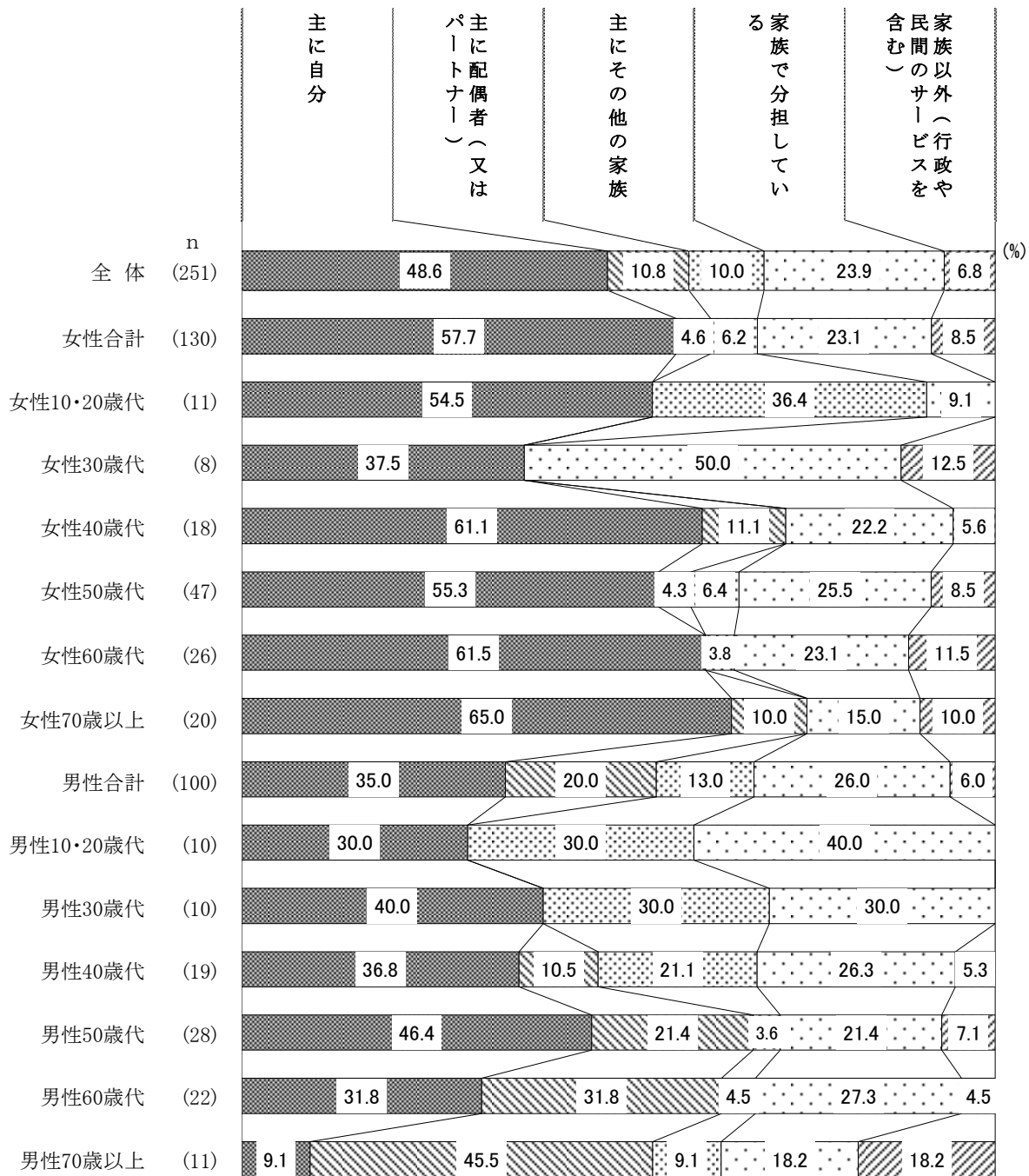
図表24 家庭における役割分担『子どもの学校行事への参加』(男女・年代別)  
【行っていない、無回答を除く】

○男女・年代別の傾向

「主に自分」では、女性50歳代、女性60歳代が9割以上を占めており、女性全体よりも2割以上高くなっています。

「主に配偶者(又はパートナー)」では、男性50歳代と60歳代が6割前後と高くなっています。

才. 親や家族の介護



図表27 家庭における役割分担『親や家族の介護』(男女・年代別)  
【行っていない、無回答を除く】

○男女・年代別の傾向

「主に自分」では、女性40歳代、女性60歳代、女性70歳以上が6割以上と高くなっています。また、男性70歳以上は9.1%と低くなっています。

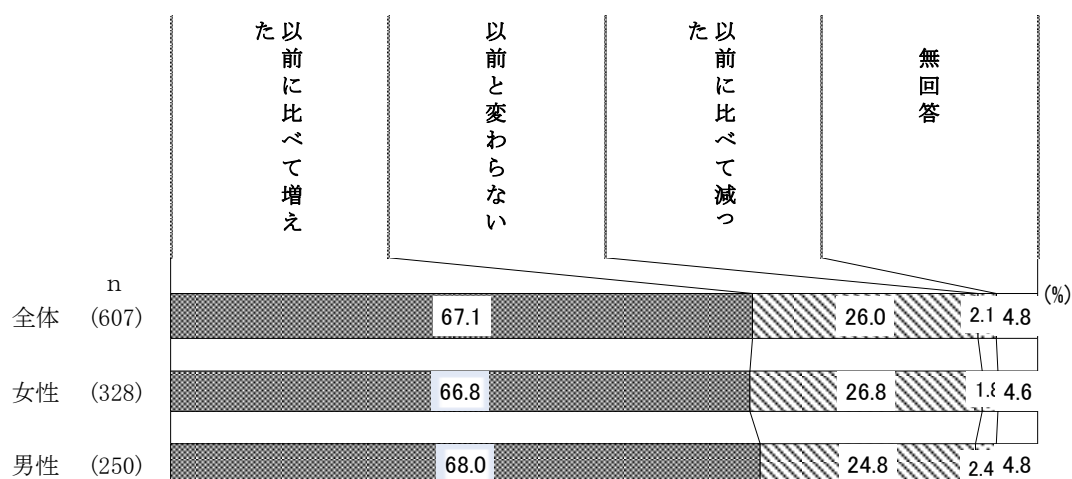
「主に配偶者(又はパートナー)」では、男性70歳代が45.5%と最も高くなっています。

## 問2 新型コロナウイルス感染拡大の影響による在宅時間の変化

【現在、2人以上でお住まいの方のみご回答ください】

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、在宅時間に変化はありましたか。（それぞれ〇は1つ）

あなた（回答者本人）



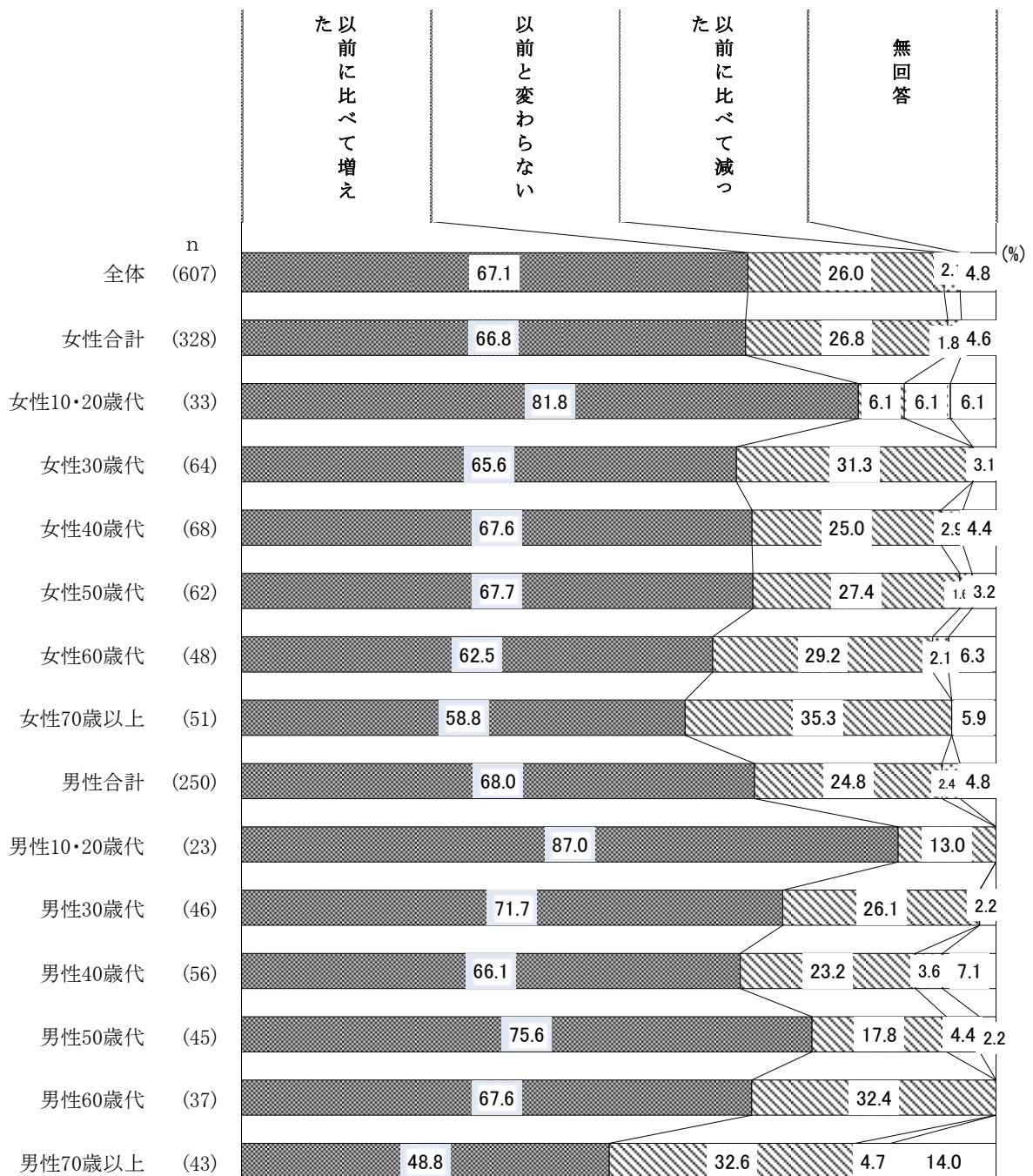
図表31 新型コロナウイルスの影響による在宅時間の変化（本人）

### ○全体の傾向

「以前に比べて増えた」が67.1%と最も高くなっています。

### ○男女別の傾向

「以前に比べて増えた」では、女性が66.8%、男性が68.0%と1.2ポイント男性が女性よりも高くなっています。



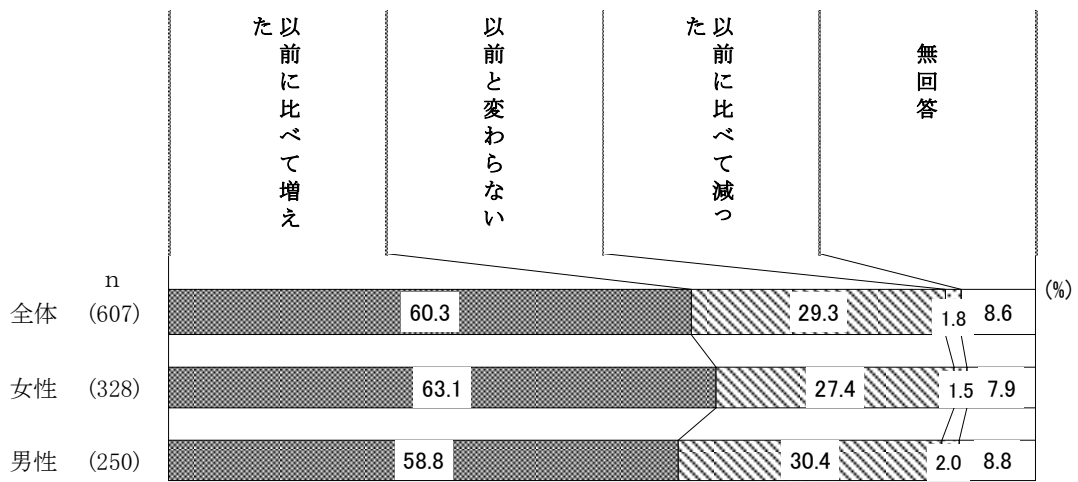
図表32 新型コロナウイルスの影響による在宅時間の変化（本人）（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「以前に比べて増えた」では、男女とも10・20歳代が8割以上と高くなっています。また、男性70歳以上は48.8%と低くなっています。

「以前と変わらない」では、男性70歳以上が32.6%と高くなっています。

自分以外の家族（同居人）



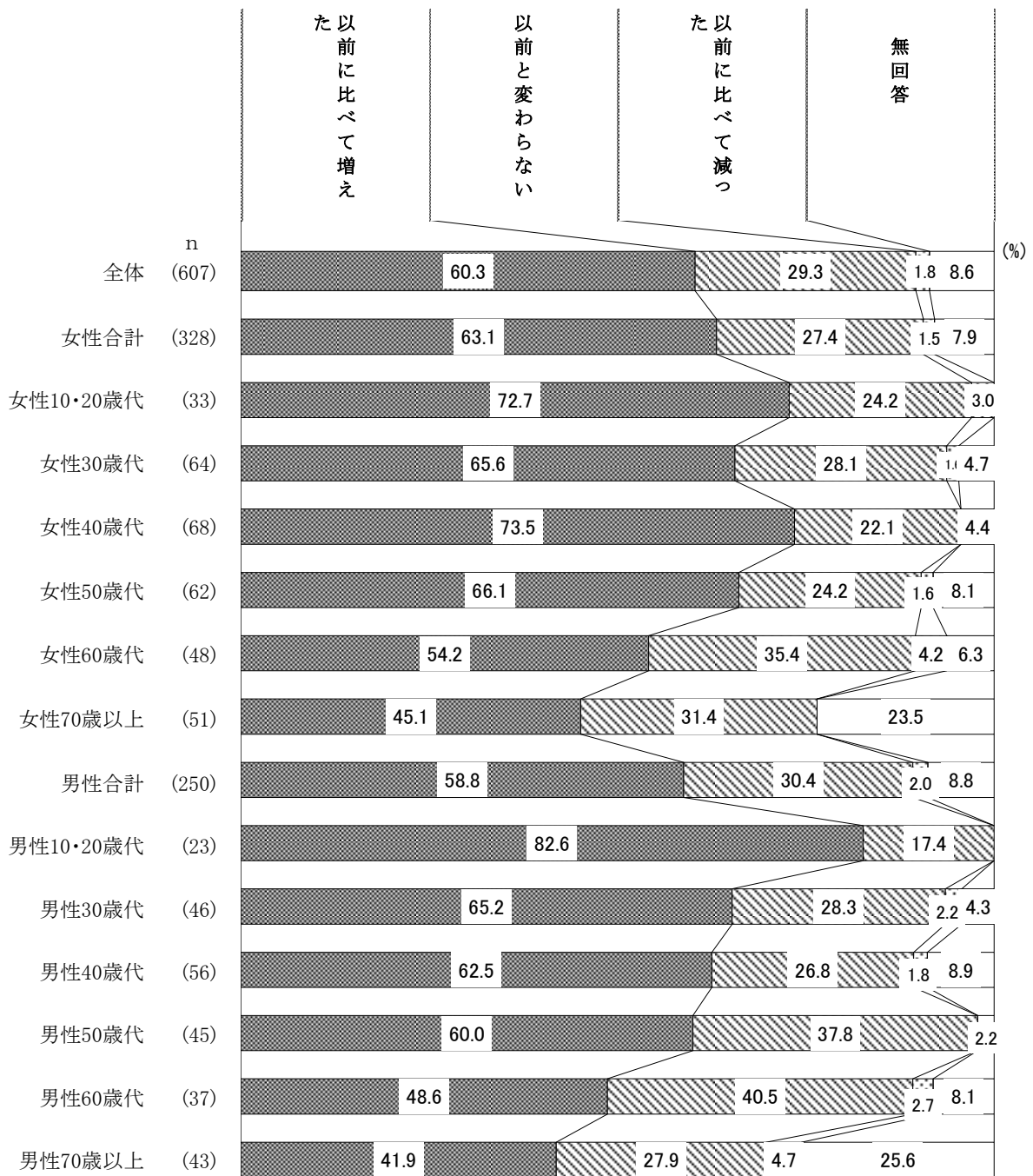
図表33 新型コロナウイルスの影響による在宅時間の変化（同居人）

○全体の傾向

「以前に比べて増えた」が60.3%と最も高くなっています。

○男女別の傾向

「以前に比べて増えた」が女性では63.1%、男性では58.8%と4.3ポイント女性が男性よりも高くなっています。



図表34 新型コロナウイルスの影響による在宅時間の変化（同居人）（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「以前に比べて増えた」では、男性10・20歳代が82.6%と最も高くなっています。また、男性70歳以上は41.9%と低くなっています。

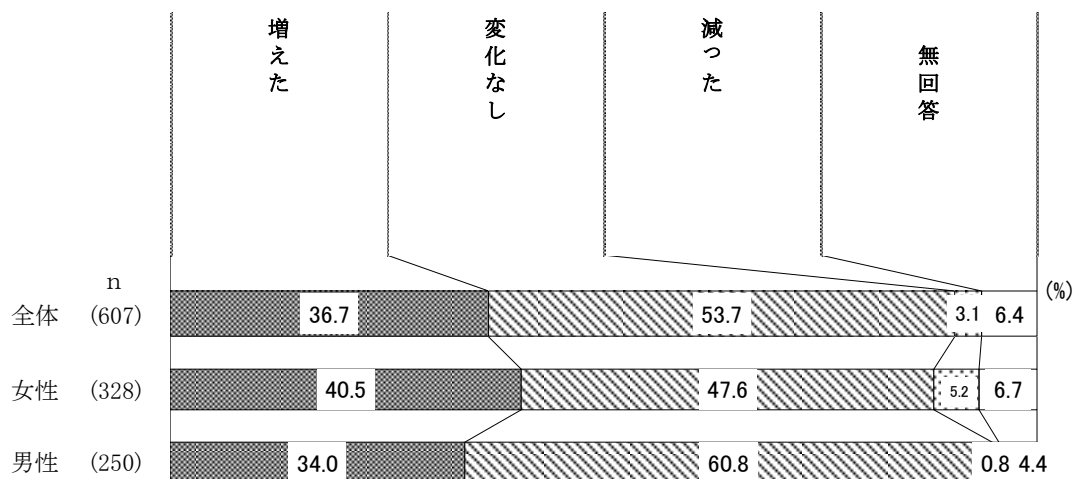
「以前と変わらない」では、男性60歳代が40.5%と最も高くなっています。



### 問3 新型コロナウイルス感染拡大の影響による家事の量の変化

【現在、2人以上でお住まいの方のみご回答ください】

新型コロナウイルス感染拡大以降、あなたの家事の量に変化はありましたか。(○は1つ)

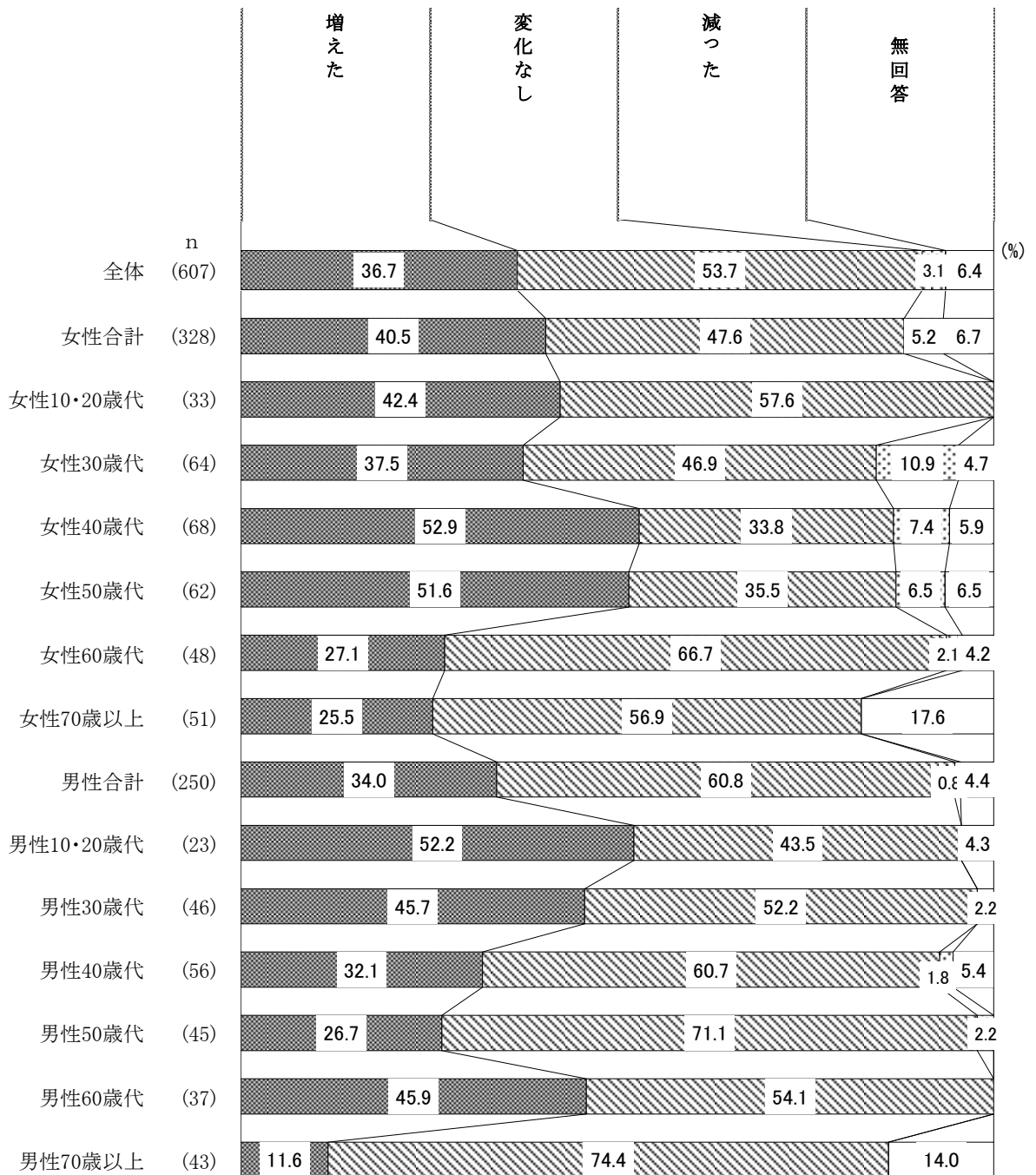


図表35 新型コロナウイルスの影響による家事量の変化

#### ○全体の傾向

「変化なし」が53.7%と最も高くなっています。

「増えた」では、女性が40.5%、男性が34.0%と、女性の方が男性よりも6.5ポイント高くなっています。



図表36 新型コロナウイルスの影響による家事量の変化（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

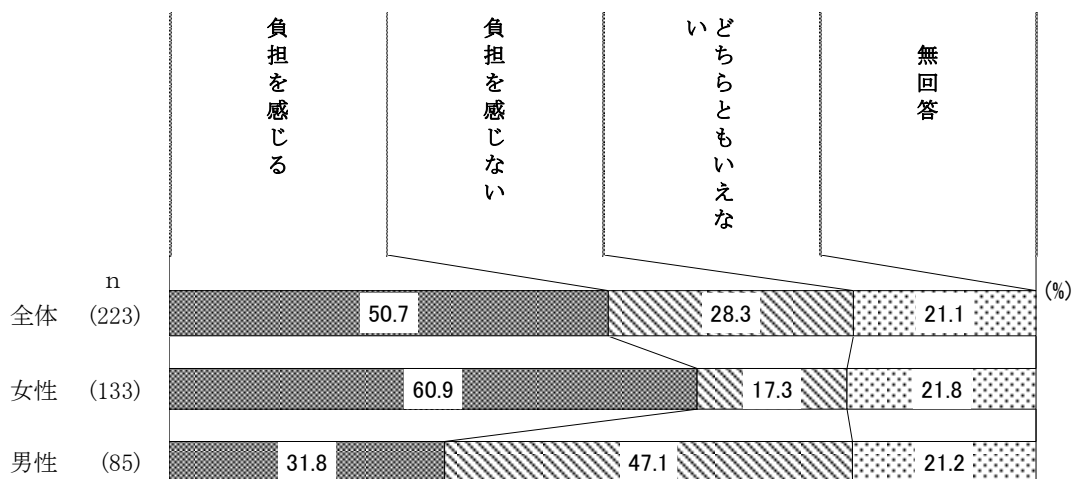
「増えた」では、女性40～女性50歳代、男性10・20歳代が5割以上と高くなっています。また、男性70歳以上が11.6%と低くなっています。

「変化なし」では、男性70歳以上が74.4%と最も高くなっています。

### 問3-2 家事への負担感の変化

【家事の量が増えた方（問3で1を選んだ方）のみご回答ください】

自身の家事が増えたことについて負担を感じますか。（○は1つ）



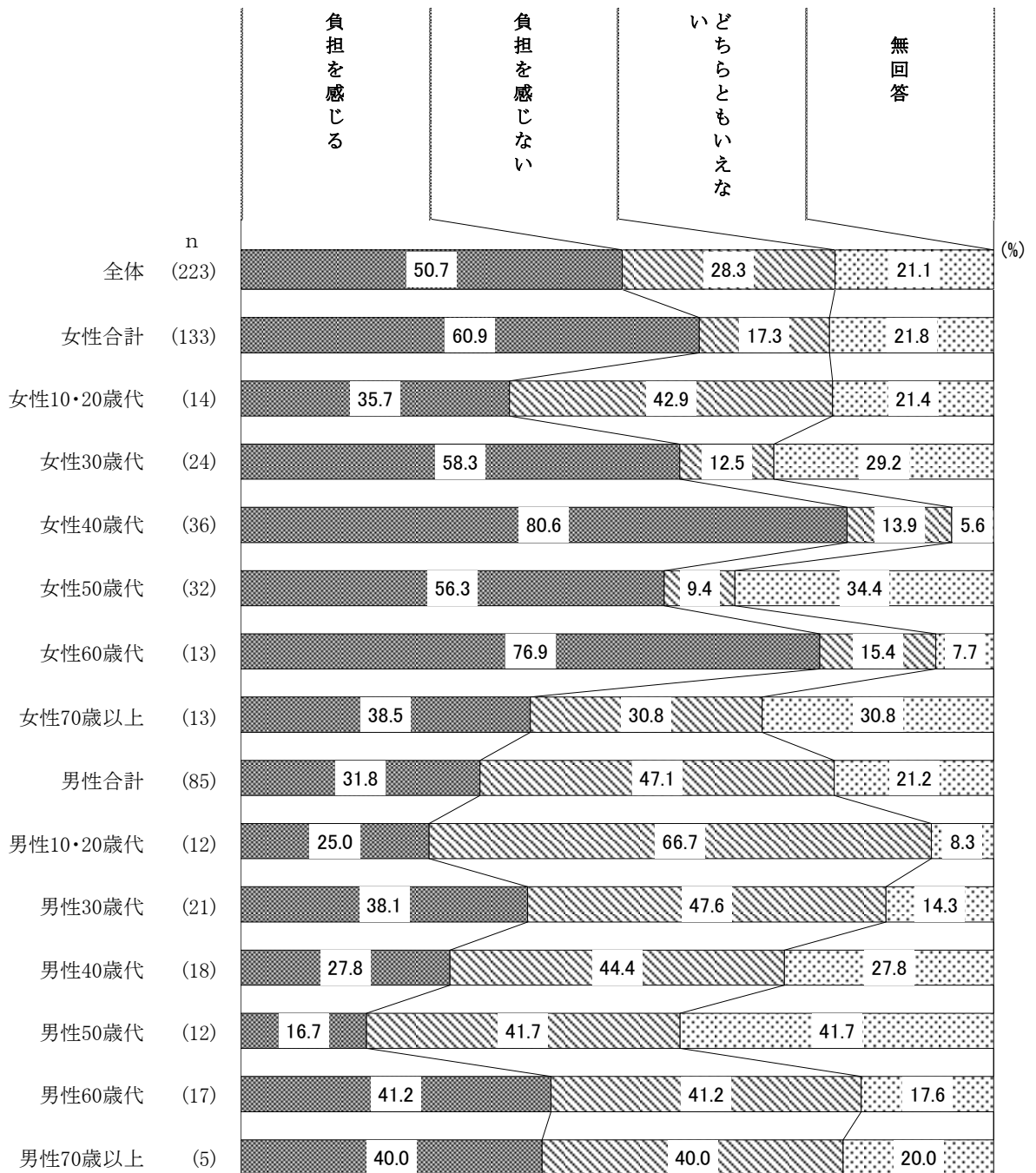
図表37 家事量の増加による負担感の変化

#### ○全体の傾向

「負担を感じる」が50.7%と最も高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「負担を感じる」では、女性が60.9%、男性が31.8%と女性の方が男性よりも29.1ポイント高くなっています。



図表38 家事量の増加による負担感の変化（男女・年代別）

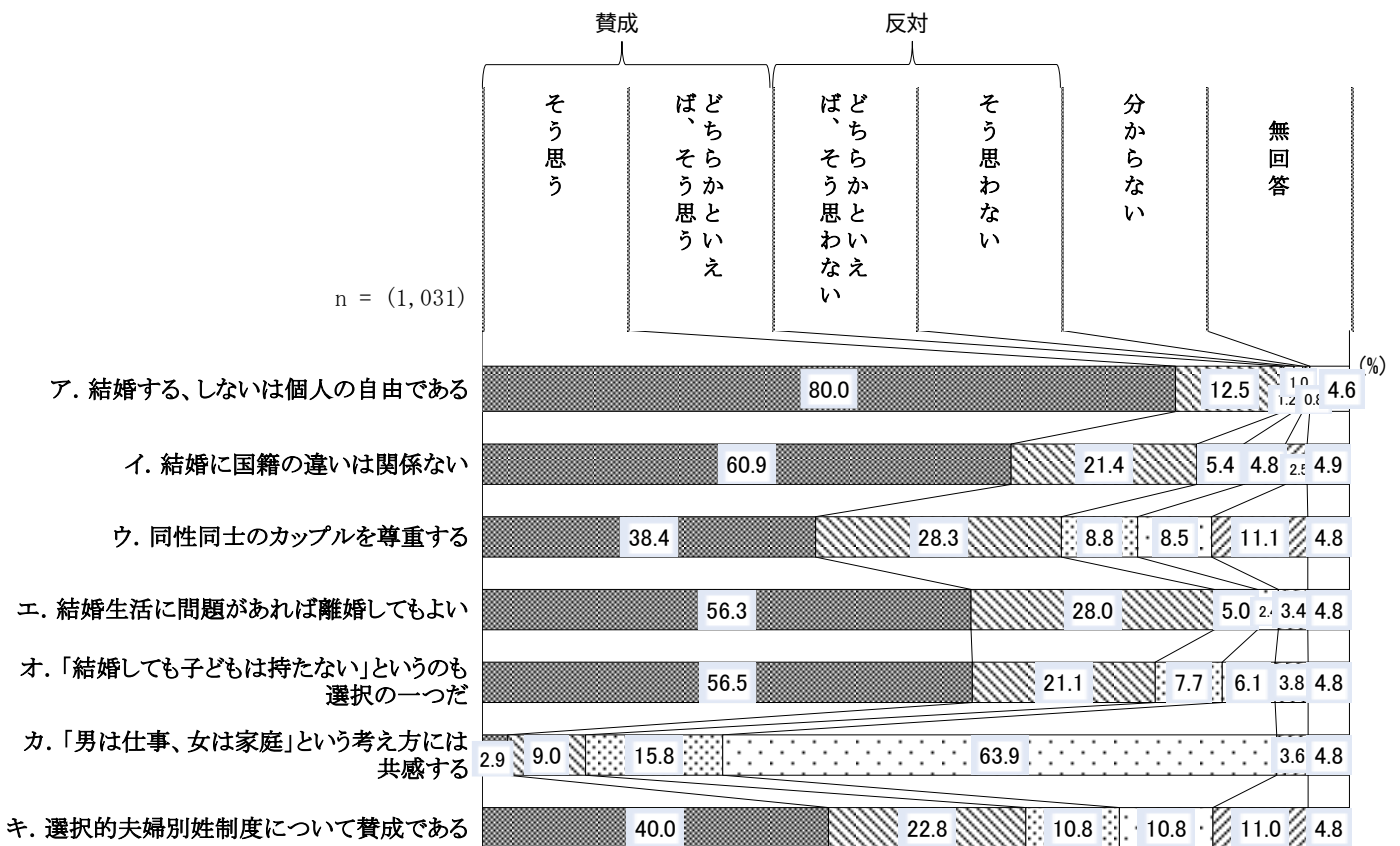
○男女・年代別の傾向

「負担を感じる」では、女性40歳代が80.6%と最も高くなっています。また、男性50歳代は16.7%と低くなっています。

一方、「負担を感じない」では、男性10・20歳代が66.7%と最も高くなっています。

## 問4 家族観・結婚観

結婚や出産、男女の役割について、次にあげる（ア）～（キ）の考え方を、あなたはどう思いますか。（ア～キのそれぞれについて、あてはまる選択肢に○を1つ）



図表39 結婚や出産、男女の役割などに対する考え方

### ○全体の傾向

結婚や離婚等について“結婚する、しないは個人の自由である”、“結婚に国籍の違いは関係ない”、“結婚生活に問題があれば離婚してもよい”、“結婚しても子どもは持たない”というのも選択の一つだ”のいずれも『賛成※1』が7割以上を占めています。特に“結婚する、しないは個人の自由である”は9割以上になっています。

一方、“男は仕事、女は家庭”という考え方には共感する”は『反対※2』が79.7%となっています。

また、“選択的夫婦別姓について賛成である”は『賛成』が62.8%となっています。

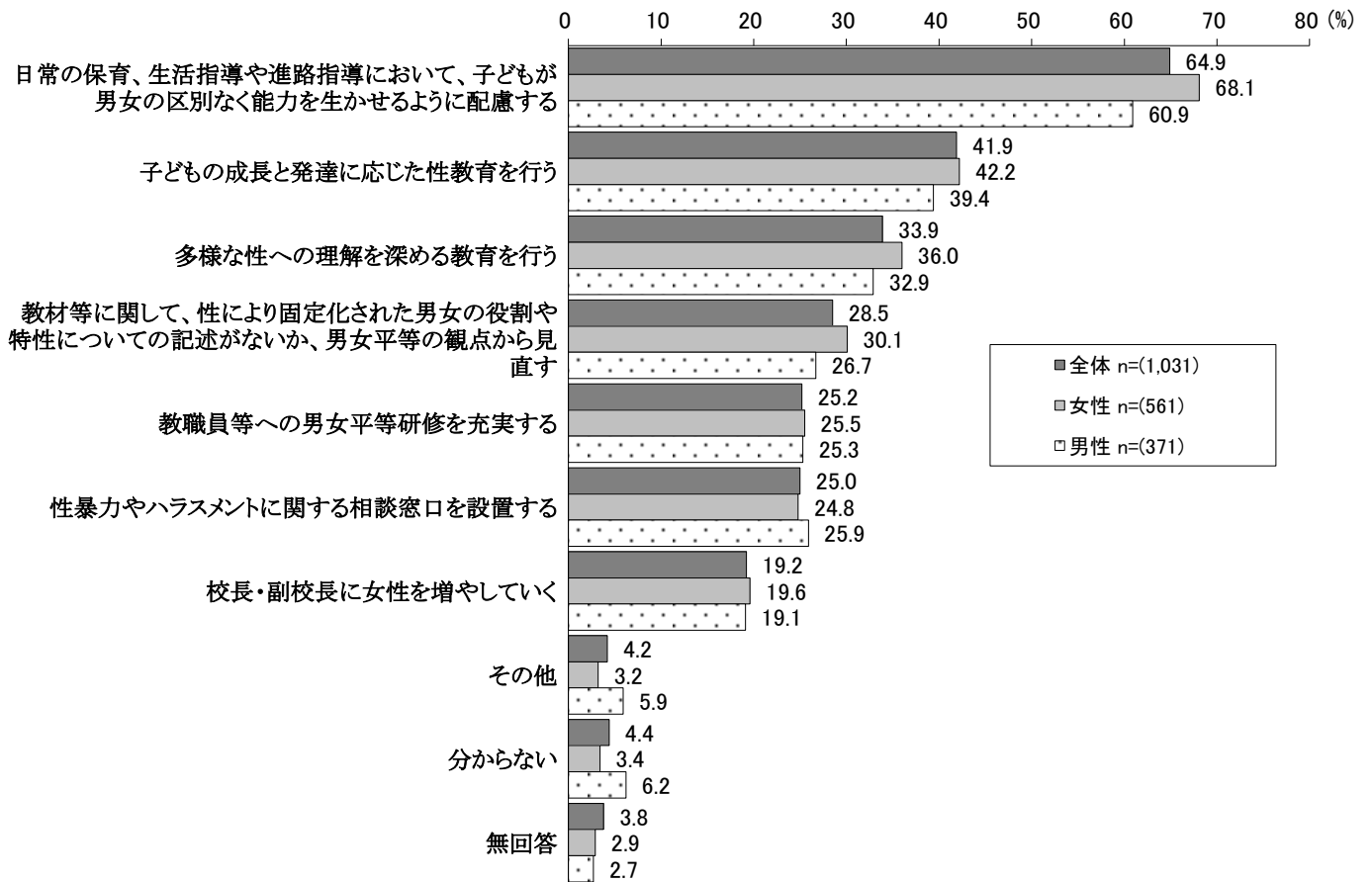
※1 「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の合計

※2 「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」の合計

### 3 保育・教育について

#### 問5 教育現場等において重要なこと

文京区では、区立の保育園・幼稚園・小学校・中学校の保育や教育の現場において、男女平等参画を推進するためにはどのようなことに力を入れればよいと思いますか。（〇は3つまで）



図表51 教育現場等において重要なこと

#### ○全体の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」が64.9%で最も多く、次いで、「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が41.9%と高くなっています。

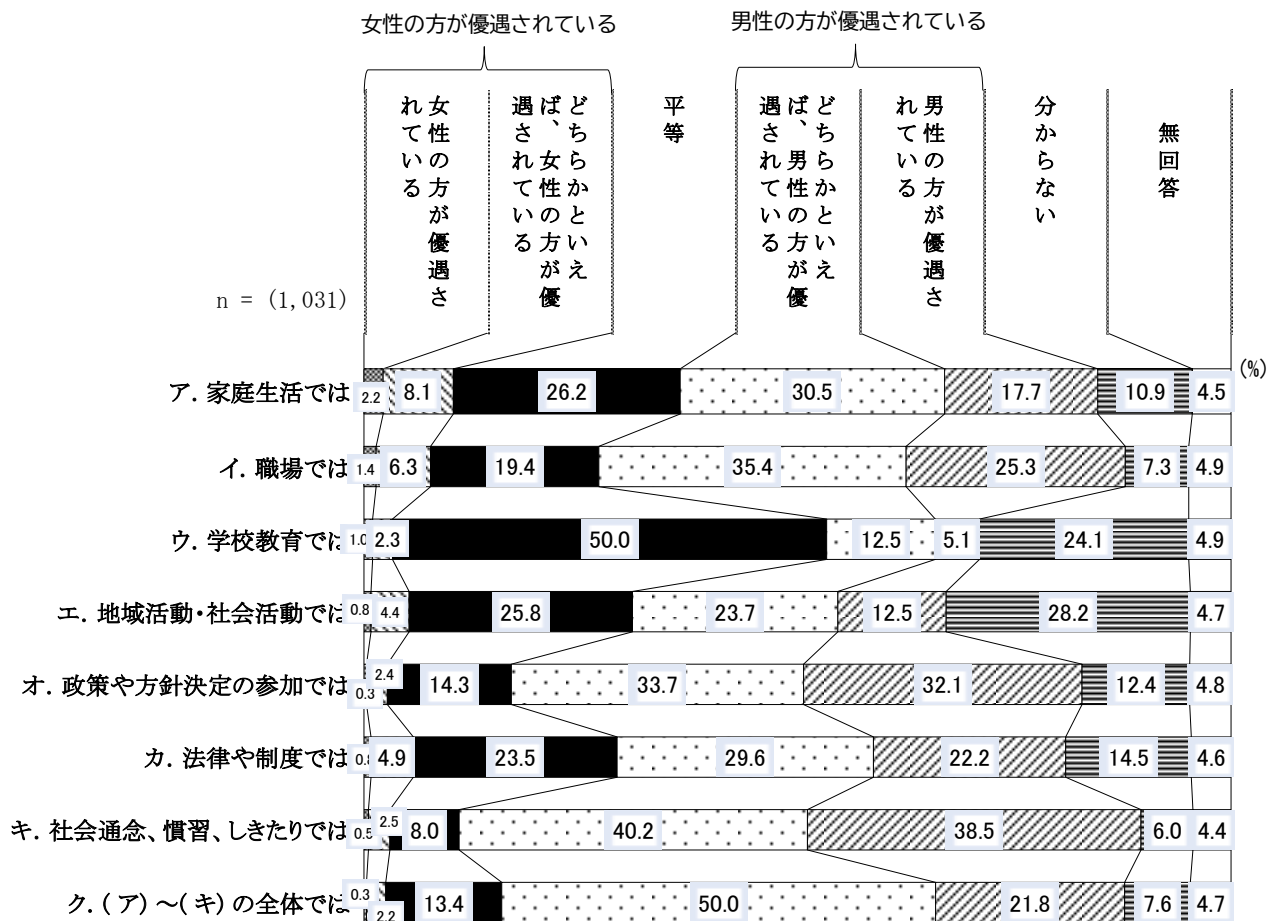
#### ○男女別の傾向

「日常の保育、生活指導や進路指導において、子どもが男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」では、女性が68.1%、男性が60.9%と女性の方が7.2ポイント高くなっています。

## 4 男女平等への関心と意識について

### 問6 各場面における男女の地位の平等感

あなたは、以下の面で女性と男性が平等になっていると思いますか。次の(ア)～(ク)のそれぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(ア～クのそれぞれについて、当てはまる選択肢に○を1つ)



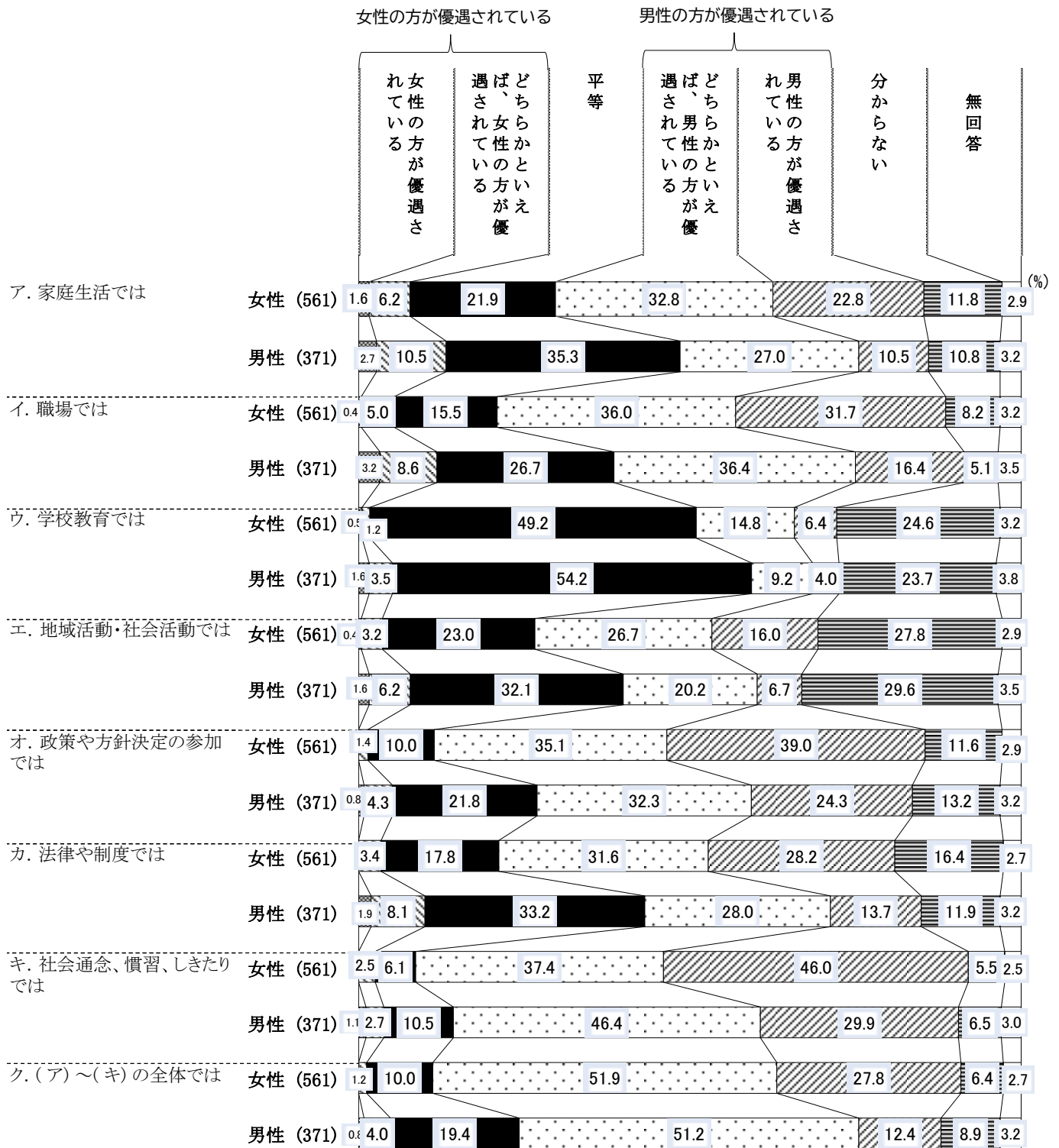
図表54 各分野における男女の地位の平等感

#### ○全体の傾向

男女の地位が最も「平等」と考えられるのは、「学校生活では」の50.0%となっています。

一方、多くの項目で『男性の方が優遇されている※1』という認識が強く、“社会通念、慣習、しきたりでは”では78.7%と最も高くなっています。また、“全体では”では『男性の方が優遇されている』が71.8%となっています。

※1 「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計



図表55 各分野における男女の地位の平等感（男女別）

○男女別の傾向

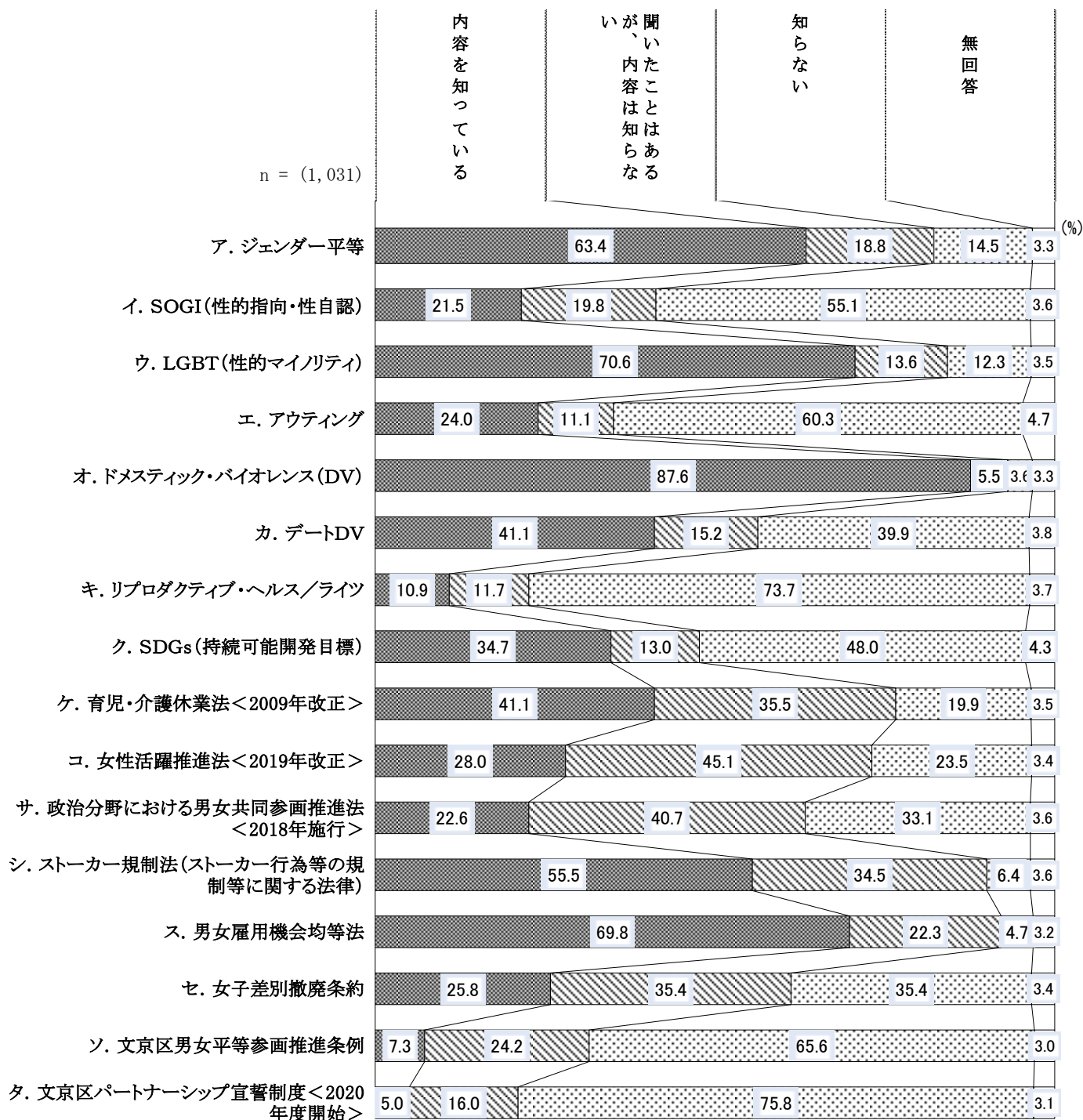
“学校教育では” “地域活動・社会活動では” 以外の項目で、男女ともに『男性の方が優遇されている※1』が「平等」を上回っています。

※1 「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計



## 問7 男女平等参画に関する用語の認知度

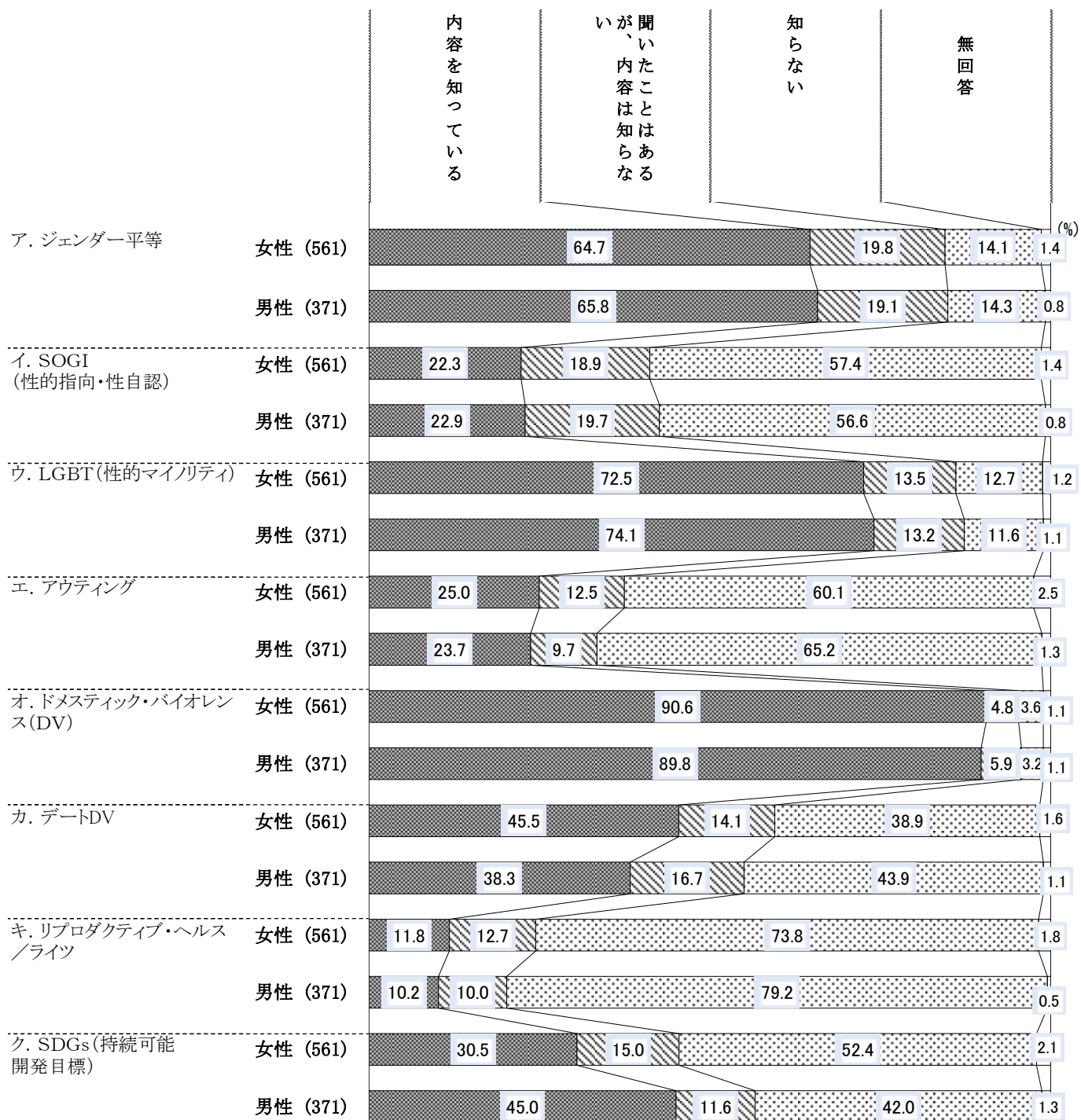
あなたは、次にあげる言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。(ア～タのそれぞれについて、当てはまる選択肢に○を1つ)



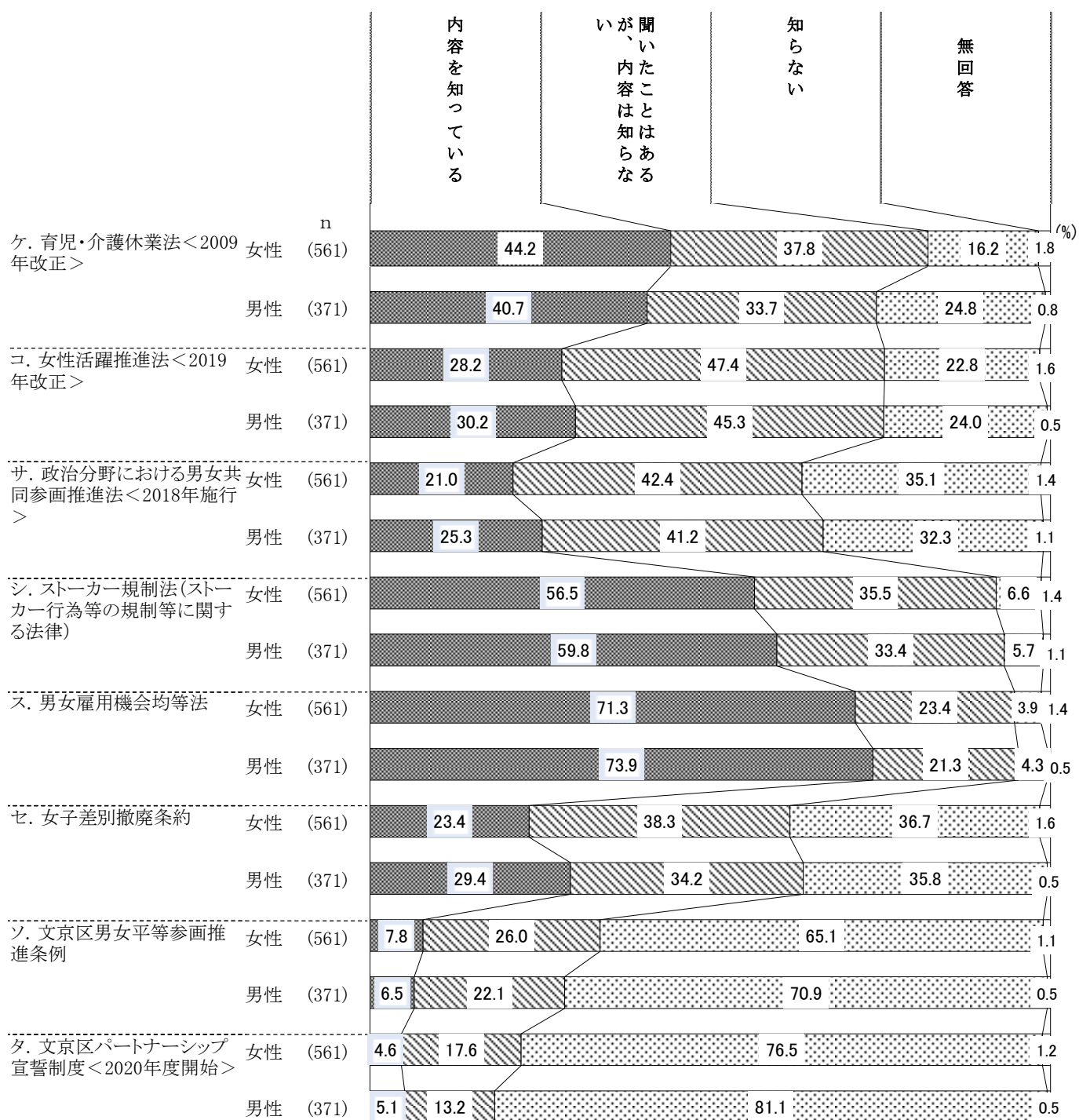
図表67 男女平等参画に関する用語の認知度

### ○全体の傾向

“ドメスティック・バイオレンス (DV)” の認知度が87.6%と最も高くなっています。次いで、“LGBT (性的マイノリティ)” が70.6%と高くなっています。



図表68 男女平等参画に関する用語の認知度（男女別）①



図表69 男女平等参画に関する用語の認知度（男女別）②

○男女別の傾向

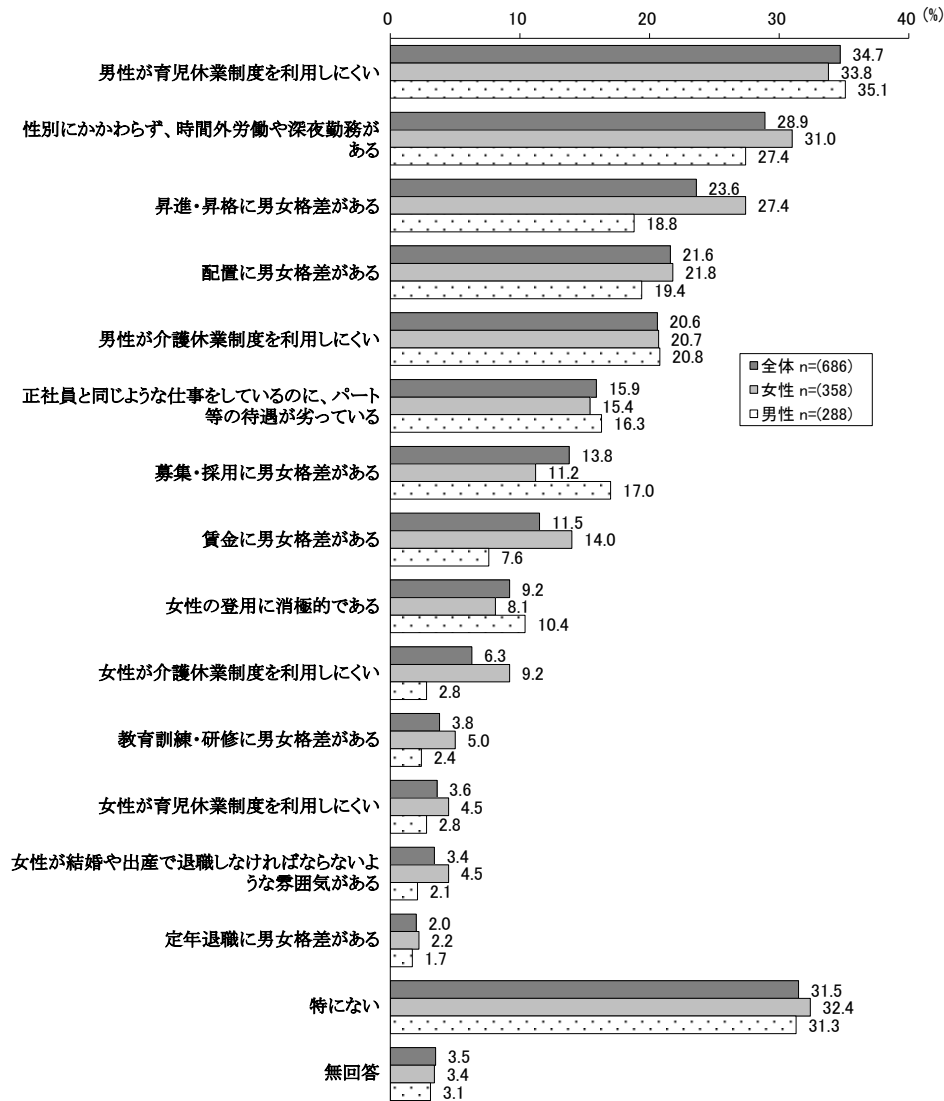
“SDGs（持続可能開発目標）”では、「内容を知っている」が女性が30.5%、男性が45.0%となっており、男性の方が14.5ポイント高くなっています。“デートDV”では、「内容を知っている」が女性が45.5%、男性が38.3%となっており、女性の方が7.2ポイント高くなっています。

## 5 就労・職場について

### 問8-1 職場における(仕事内容や待遇面での)男女での違い

【現在、就業している方（問8で1～5を選んだ方）のみご回答ください】

あなたの職場では、次のようなことがあると感じますか。（○はいくつでも）



図表92 職場における（仕事内容や待遇面での）男女での違い

#### ○全体の傾向

「男性が育児休業制度を利用しにくい」が34.7%と最も高くなっています。次いで、「性別にかかわらず、時間外労働や深夜勤務がある」が28.9%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「昇進・昇格に男女格差がある」では、女性が27.4%、男性が18.8%と女性の方が男性よりも8.6ポイント高くなっています。次いで、「賃金に男女格差がある」では、女性が14.0%、男性が7.6%と女性の方が男性よりも6.4ポイント高くなっています。

	全体	募集・採用に男女格差がある	賃金に男女格差がある	昇進・昇格に男女格差がある	配置に男女格差がある	教育訓練・研修に男女格差がある	定年退職に男女格差がある	女性が結婚や出産で退職しなければならぬような雰囲気がある	男性が育児休業制度を利用しにくい	男性が介護休業制度を利用しにくい	女性が育児休業制度を利用しにくい	女性が介護休業制度を利用しにくい	正社員と同じような仕事をしているのに、パート等の待遇が劣っている	女性の登用に消極的である	性別にかかわらず、時間外労働や深夜勤務がある	特になし	無回答	
全体	686 100.0	95 13.8	79 11.5	162 23.6	148 21.6	26 3.8	14 2.0	23 3.4	238 34.7	141 20.6	25 3.6	43 6.3	109 15.9	83 12.1	198 28.9	216 31.5	24 3.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	358 100.0	40 11.2	50 14.0	98 27.4	78 21.8	18 5.0	8 2.2	16 4.5	74 20.7	16 4.5	33 9.2	56 15.4	29 8.1	111 31.0	116 32.4	12 3.4	
	女性10-20歳代	56 100.0	8 14.3	6 10.7	14 25.0	16 28.6	2 3.6	-	3 5.4	21 37.5	13 23.2	2 3.6	6 10.7	7 12.5	5 8.9	21 37.5	16 28.6	1 1.8
	女性30歳代	81 100.0	10 12.3	9 11.1	29 35.8	23 28.4	6 7.4	1 1.2	8 9.9	38 46.9	24 29.6	4 4.9	7 8.6	13 16.0	4 4.9	30 37.0	23 28.4	-
	女性40歳代	93 100.0	11 11.8	16 17.2	23 24.7	21 22.6	2 2.2	1 1.1	1 1.1	38 40.9	19 20.4	5 5.4	7 7.5	10 10.8	9 9.7	33 35.5	28 30.1	3 3.2
	女性50歳代	66 100.0	7 10.6	10 15.2	12 33.3	12 18.2	6 9.1	3 4.5	3 3.0	15 22.7	12 18.2	3 4.5	7 10.6	15 22.7	7 10.6	21 31.8	20 30.3	1 1.5
	女性60歳代	37 100.0	3 8.1	5 13.5	8 21.6	6 16.2	1 2.7	1 2.7	-	6 16.2	4 10.8	1 2.7	5 13.5	7 18.9	2 5.4	4 10.8	17 45.9	1 2.7
	女性70歳以上	23 100.0	1 4.3	4 17.4	2 8.7	-	1 4.3	2 8.7	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	-	2 8.7	2 8.7	1 4.3	11 47.8	6 26.1
	男性合計	288 100.0	49 17.0	22 7.6	54 18.8	56 19.4	7 2.4	5 1.7	6 2.1	101 35.1	60 20.8	8 2.8	8 2.8	47 16.3	30 10.4	79 27.4	90 31.3	9 3.1
	男性10-20歳代	29 100.0	3 10.3	1 3.4	5 17.2	4 13.8	-	-	1 3.4	9 31.0	3 10.3	2 6.9	-	-	-	10 34.5	12 41.4	-
	男性30歳代	60 100.0	11 18.3	2 3.3	6 10.0	9 15.0	-	1 1.7	2 3.3	24 40.0	10 16.7	3 5.0	2 3.3	9 15.0	4 6.7	23 38.3	19 31.7	-
	男性40歳代	74 100.0	16 21.6	7 9.5	23 31.1	22 29.7	1 1.4	1 1.4	1 1.4	35 47.3	26 35.1	1 1.4	3 4.1	13 17.6	10 13.5	25 33.8	17 23.0	1 1.4
	男性50歳代	62 100.0	9 14.5	6 9.7	13 21.0	13 21.0	3 4.8	-	1 1.6	20 32.3	14 22.6	2 3.2	2 3.2	10 16.1	11 17.7	14 22.6	21 33.9	-
	男性60歳代	39 100.0	6 15.4	3 7.7	5 12.8	4 10.3	2 5.1	1 2.6	1 2.6	9 23.1	5 12.8	-	-	13 33.3	3 7.7	5 12.8	11 28.2	3 7.7
	男性70歳以上	24 100.0	4 16.7	3 12.5	2 8.3	4 16.7	1 4.2	2 8.3	-	4 16.7	2 8.3	-	1 4.2	2 8.3	2 8.3	2 8.3	10 41.7	5 20.8
	無回答	40 100.0	6 15.0	7 17.5	10 25.0	14 35.0	1 2.5	1 2.5	1 2.5	16 40.0	7 17.5	1 2.5	2 5.0	7 17.5	4 10.0	8 20.0	10 25.0	3 7.5

図表93 職場における（仕事内容や待遇面での）男女での違い（男女・年代別）

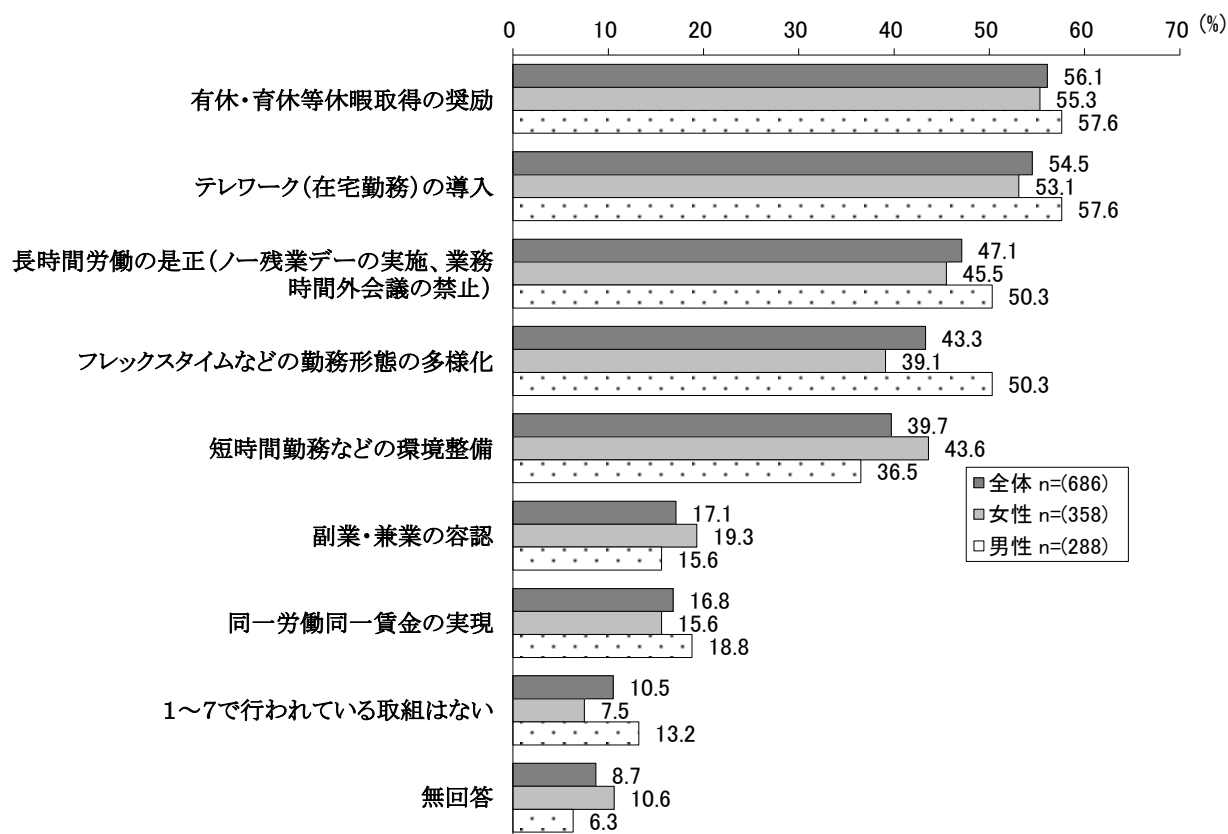
○男女・年代別の傾向

男女ともに「男性が育児休業制度を利用しにくい」が高くなっており、女性30歳代が46.9%、男性40歳代が47.3%となっています。次いで、男女ともに「性別にかかわらず、時間外労働や深夜勤務がある」では、女性10・20歳代が37.5%、男性30歳代が38.3%と高くなっています。

## 問8-2 働き方改革（勤務形態や取組）の、現在と今後

【現在、就業している方（問8で1～5を選んだ方）のみご回答ください】  
 次の勤務形態や取組のうち、就労先で現在、行われているものはありますか。また、今後行ってほしいものはありますか。（それぞれ〇はいくつでも）

### ①現在、行われているもの



図表96 職場における働き方改革について（現在実施している取組）

#### ○全体の傾向

「有休・育休等休暇取得の奨励」が56.1%と最も高くなっています。次いで、「テレワーク(在宅勤務)の導入」が54.5%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「フレックスタイムなどの勤務形態の多様化」が女性では39.1%、男性では50.3%と男性の方が女性よりも11.2ポイント高くなっています。

	全体	長時間労働の是正（ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止）	有休・育休等休暇取得の奨励	短時間勤務などの環境整備	テレワーク（在宅勤務）の導入	フレックスタイムなどの勤務形態の多様化	同一労働同一賃金の実現	副業・兼業の容認	1～7で行われている取組はない	無回答	
全体	686 100.0	323 47.1	385 56.1	272 39.7	374 54.5	297 43.3	115 16.8	117 17.1	72 10.5	60 8.7	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	358 100.0	163 45.5	198 55.3	156 43.6	190 53.1	140 39.1	56 15.6	69 19.3	27 7.5	38 10.6
	女性10・20歳代	56 100.0	21 37.5	36 64.3	27 48.2	34 60.7	23 41.1	10 17.9	10 17.9	4 7.1	1 1.8
	女性30歳代	81 100.0	42 51.9	50 61.7	47 58.0	45 55.6	32 39.5	10 12.3	16 19.8	8 9.9	6 7.4
	女性40歳代	93 100.0	50 53.8	57 61.3	46 49.5	60 64.5	44 47.3	19 20.4	18 19.4	7 7.5	8 8.6
	女性50歳代	66 100.0	33 50.0	36 54.5	25 37.9	39 59.1	25 37.9	10 15.2	10 15.2	5 7.6	1 1.5
	女性60歳代	37 100.0	15 40.5	15 40.5	9 24.3	9 24.3	13 35.1	7 18.9	10 27.0	1 2.7	8 21.6
	女性70歳以上	23 100.0	- -	2 8.7	1 4.3	2 8.7	2 8.7	- -	4 17.4	2 8.7	14 60.9
	男性合計	288 100.0	145 50.3	166 57.6	105 36.5	166 57.6	145 50.3	54 18.8	45 15.6	38 13.2	18 6.3
	男性10・20歳代	29 100.0	12 41.4	18 62.1	12 41.4	18 62.1	16 55.2	3 10.3	6 20.7	5 17.2	- -
	男性30歳代	60 100.0	26 43.3	38 63.3	23 38.3	40 66.7	30 50.0	10 16.7	8 13.3	9 15.0	1 1.7
	男性40歳代	74 100.0	47 63.5	50 67.6	33 44.6	50 67.6	39 52.7	12 16.2	12 16.2	5 6.8	3 4.1
	男性50歳代	62 100.0	42 67.7	38 61.3	26 41.9	39 62.9	37 59.7	20 32.3	8 12.9	6 9.7	4 6.5
	男性60歳代	39 100.0	13 33.3	15 38.5	7 17.9	12 30.8	16 41.0	5 12.8	9 23.1	6 15.4	6 15.4
	男性70歳以上	24 100.0	5 20.8	7 29.2	4 16.7	7 29.2	7 29.2	4 16.7	2 8.3	7 29.2	4 16.7
	無回答	40 100.0	15 37.5	21 52.5	11 27.5	18 45.0	12 30.0	5 12.5	3 7.5	7 17.5	4 10.0

図表97 職場における働き方改革について（現在実施している取組）（男女・年代別）

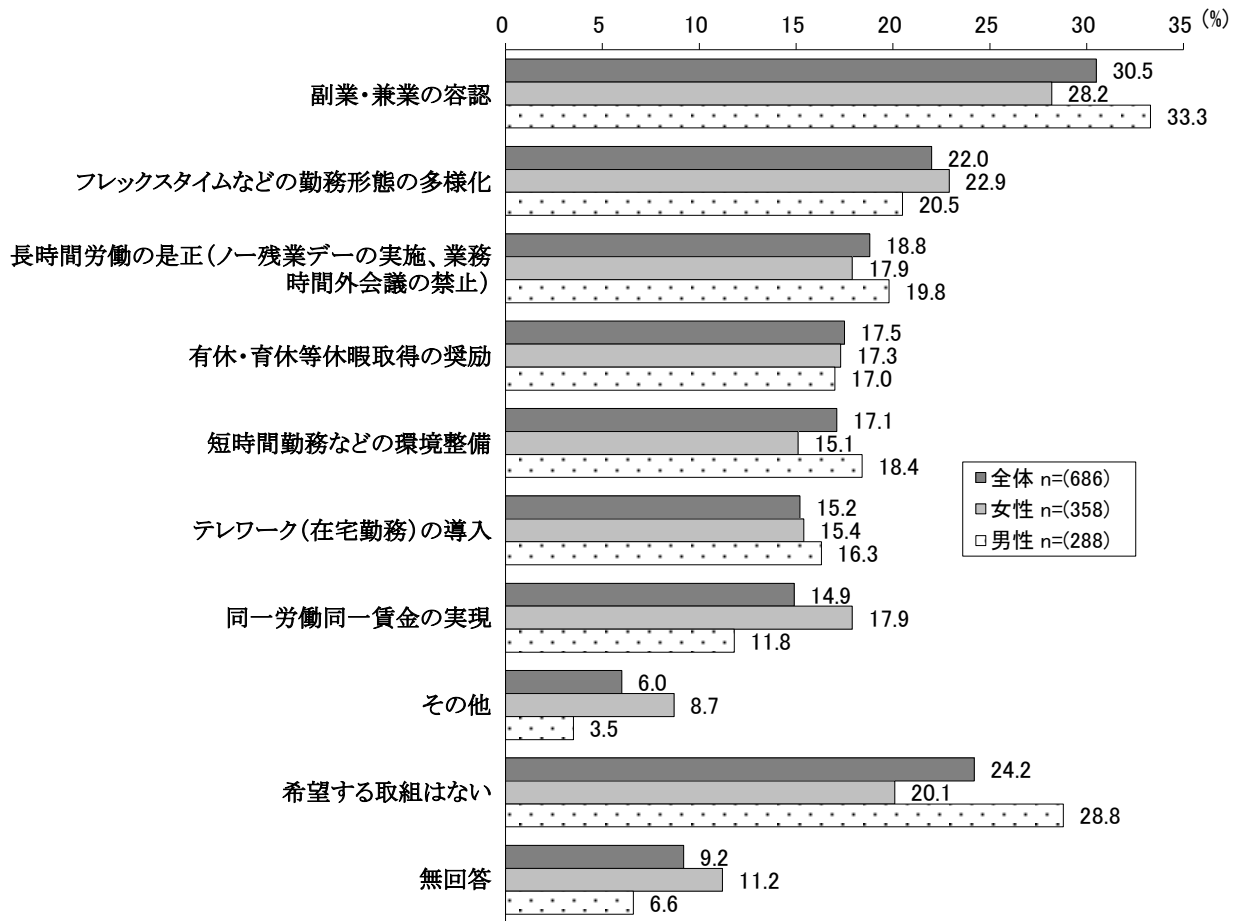
### ○男女・年代別の傾向

「有給・育休等休暇取得の奨励」では、女性10～40歳代、男性10～50歳代が6割以上と高く、特に、男性40歳代が67.6%と最も高くなっています。

「テレワーク（在宅勤務）の導入」では、女性10・20歳代、女性40歳代、男性10～50歳代が6割以上と高くなっています。

「長時間労働の是正（ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止）」では、女性30～50歳代が5割以上、男性40～50歳代が6割を超えて、高くなっています。

②今後、行ってほしいもの



図表98 職場における改革について（今後希望する取組）

○全体の傾向

「副業・兼業の容認」が30.5%と最も高くなっています。次いで、「フレックスタイムなどの勤務形態の多様化」が22.0%と高くなっています。

○男女別の傾向

「同一労働同一賃金の実現」が女性では17.9%、男性では11.8%と女性の方が男性よりも6.1ポイント高くなっています。



	全体	長時間労働の是正（ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止）の	有休・育休等休暇取得の奨励	短時間勤務などの環境整備	テレワーク（在宅勤務）の導入	フレックスタイムなどの勤務形態の多様化	同一労働同一賃金の実現	副業・兼業の容認	その他	希望する取組はない	無回答	
全体	686 100.0	129 18.8	120 17.5	117 17.1	104 15.2	151 22.0	102 14.9	209 30.5	41 6.0	166 24.2	63 9.2	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	358 100.0	64 17.9	62 17.3	54 15.1	55 15.4	82 22.9	64 17.9	101 28.2	31 8.7	72 20.1	40 11.2
	女性10・20歳代	56 100.0	21 37.5	15 26.8	12 21.4	11 19.6	19 33.9	13 23.2	25 44.6	3 5.4	6 10.7	2 3.6
	女性30歳代	81 100.0	16 19.8	21 25.9	15 18.5	17 21.0	29 35.8	15 18.5	30 37.0	9 11.1	15 18.5	6 7.4
	女性40歳代	93 100.0	17 18.3	16 17.2	11 11.8	12 12.9	20 21.5	16 17.2	25 26.9	3 3.2	19 20.4	9 9.7
	女性50歳代	66 100.0	8 12.1	7 10.6	11 16.7	8 12.1	11 16.7	11 16.7	15 22.7	11 16.7	16 24.2	3 4.5
	女性60歳代	37 100.0	1 2.7	1 2.7	3 8.1	5 13.5	3 8.1	6 16.2	3 8.1	3 8.1	8 21.6	9 24.3
	女性70歳以上	23 100.0	1 4.3	2 8.7	2 8.7	2 8.7	- -	3 13.0	3 13.0	2 8.7	6 26.1	11 47.8
	男性合計	288 100.0	57 19.8	49 17.0	53 18.4	47 16.3	59 20.5	34 11.8	96 33.3	10 3.5	83 28.8	19 6.6
	男性10・20歳代	29 100.0	8 27.6	6 20.7	7 24.1	7 24.1	8 27.6	1 3.4	11 37.9	1 3.4	9 31.0	- -
	男性30歳代	60 100.0	21 35.0	17 28.3	13 21.7	11 18.3	15 25.0	4 6.7	23 38.3	5 8.3	10 16.7	1 1.7
	男性40歳代	74 100.0	14 18.9	14 18.9	14 18.9	15 20.3	21 28.4	14 18.9	32 43.2	3 4.1	16 21.6	3 4.1
	男性50歳代	62 100.0	7 11.3	8 12.9	8 12.9	8 12.9	9 14.5	7 11.3	21 33.9	- -	24 38.7	4 6.5
	男性60歳代	39 100.0	4 10.3	3 7.7	6 15.4	3 7.7	4 10.3	6 15.4	4 10.3	4 2.6	15 38.5	7 17.9
	男性70歳以上	24 100.0	3 12.5	1 4.2	5 20.8	3 12.5	2 8.3	2 8.3	5 20.8	- -	9 37.5	4 16.7
	無回答	40 100.0	8 20.0	9 22.5	10 25.0	2 5.0	10 25.0	4 10.0	12 30.0	- -	11 27.5	4 10.0

図表99 職場における改革について（今後希望する取組）（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「副業・兼業の容認」では、女性10・20歳代、男性40歳代が4割以上と高くなっています。

「フレックスタイムなどの勤務形態の多様化」では、女性10～30歳代が3割以上と高くなっています。

「長時間労働の是正（ノー残業デーの実施、業務時間外会議の禁止）」では、女性10・20歳代、男性30歳代が3割台と高くなっています。

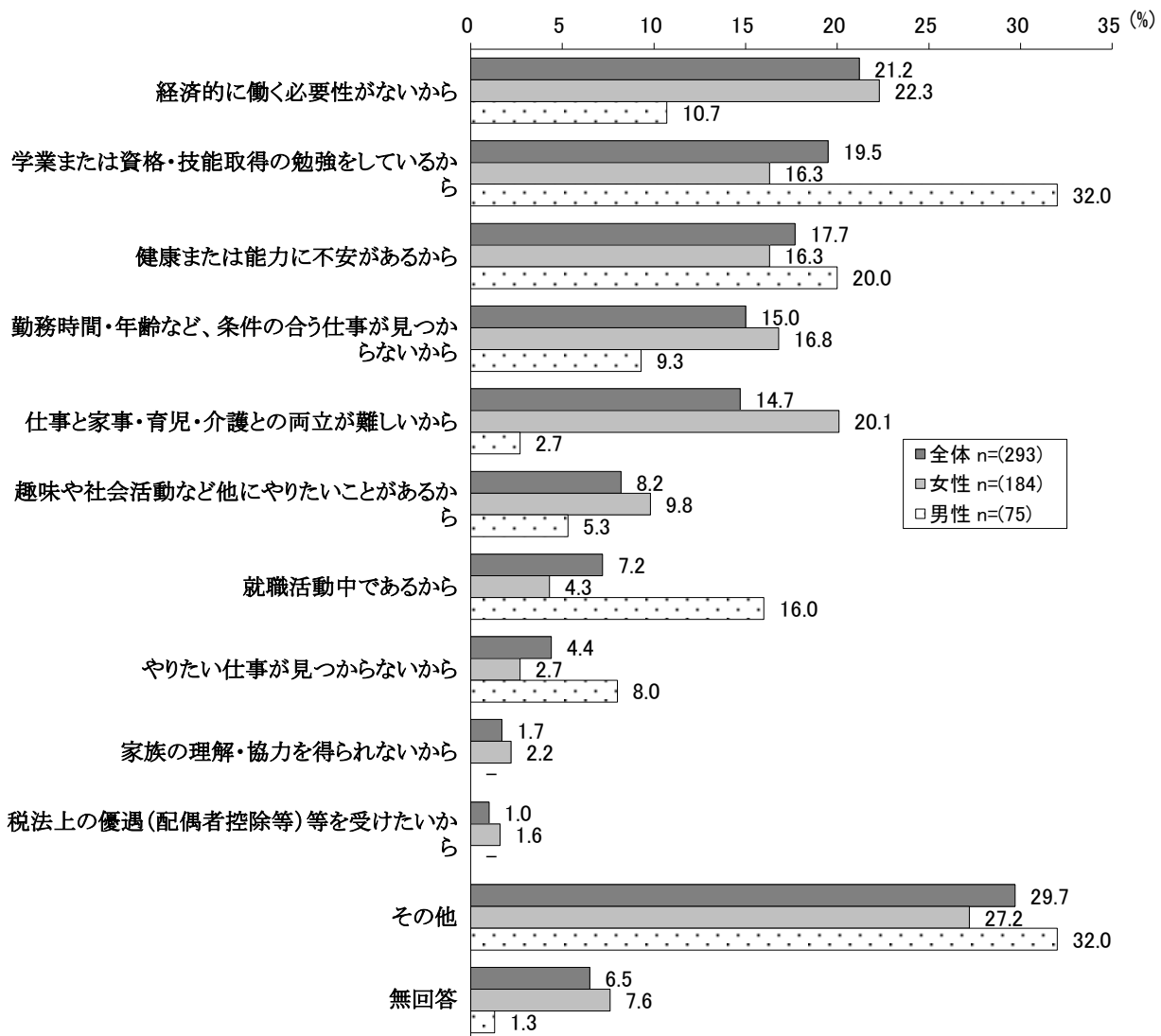
「短時間勤務などの環境整備」では、女性10～30歳代、男性10～40歳代が2割前後と高くなっています。

一方、「希望する取り組みはない」では、男性50～60歳代が4割近くと高くなっています。

### 問8-3 働いていない理由

【現在、就業していない方（問8で6～9を選んだ方）のみご回答ください】

あなたが働いていない理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）



図表100 働いていない理由

#### ○全体の傾向

「経済的に働く必要性がないから」が21.2%と最も高くなっています。次いで、「学業または資格・技能取得の勉強をしているから」が19.5%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから」が女性では20.1%、男性では2.7%と17.4ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。また、「学業または資格・技能取得の勉強をしているから」が女性では16.3%、男性では32.0%と15.7ポイント男性の方が女性よりも高くなっています。

	全体	やりたい仕事が見つからないから	勤務時間・年齢など、条件の合う仕事が見つからないから	就職活動中であるから	学業または資格・技能取得の勉強をしているから	仕事と家事・育児・介護との両立が難しいから	健康または能力に不安があるから	家族の理解・協力を得られないから	趣味や社会活動など他にやりたいことがあるから	経済的に働く必要がないから	税法上の優遇（配偶者控除等）等を受けたいから	その他	無回答	
全体	293 100.0	13 4.4	44 15.0	21 7.2	57 19.5	43 14.7	52 17.7	5 1.7	24 8.2	62 21.2	3 1.0	87 29.7	19 6.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	184 100.0	5 2.7	31 16.8	8 4.3	30 16.3	37 20.1	30 16.3	4 2.2	18 9.8	41 22.3	3 1.6	50 27.2	14 7.6
	女性10・20歳代	32 100.0	1 3.1	2 6.3	1 3.1	27 84.4	2 6.3	1 3.1	-	1 3.1	2 6.3	-	3 9.4	-
	女性30歳代	19 100.0	1 5.3	4 21.1	3 15.8	1 5.3	9 47.4	1 5.3	-	1 5.3	6 31.6	-	5 26.3	-
	女性40歳代	17 100.0	-	6 35.3	2 11.8	1 5.9	15 88.2	1 5.9	1 5.9	2 11.8	4 23.5	-	1 5.9	-
	女性50歳代	26 100.0	1 3.8	6 23.1	2 7.7	1 3.8	5 19.2	8 30.8	2 7.7	5 19.2	10 38.5	1 3.8	6 23.1	2 7.7
	女性60歳代	28 100.0	2 7.1	7 25.0	-	-	5 17.9	9 32.1	1 3.6	6 21.4	8 28.6	1 3.6	5 17.9	1 3.6
	女性70歳以上	62 100.0	-	6 9.7	-	-	1 1.6	10 16.1	-	3 4.8	11 17.7	1 1.6	30 48.4	11 17.7
	男性合計	75 100.0	6 8.0	7 9.3	12 16.0	24 32.0	2 2.7	15 20.0	-	4 5.3	8 10.7	-	24 32.0	1 1.3
	男性10・20歳代	25 100.0	1 4.0	-	7 28.0	22 88.0	-	2 8.0	-	-	1 4.0	-	1 4.0	-
	男性30歳代	4 100.0	-	-	3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	-
	男性40歳代	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-
	男性50歳代	4 100.0	1 25.0	-	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	-	-	2 50.0	-
	男性60歳代	9 100.0	-	1 11.1	-	-	-	5 55.6	-	1 11.1	-	-	3 33.3	-
	男性70歳以上	32 100.0	4 12.5	6 18.8	-	-	-	6 18.8	-	3 9.4	6 18.8	-	17 53.1	1 3.1
	無回答	34 100.0	2 5.9	6 17.6	1 2.9	3 8.8	4 11.8	7 20.6	1 2.9	2 5.9	13 38.2	-	13 38.2	4 11.8

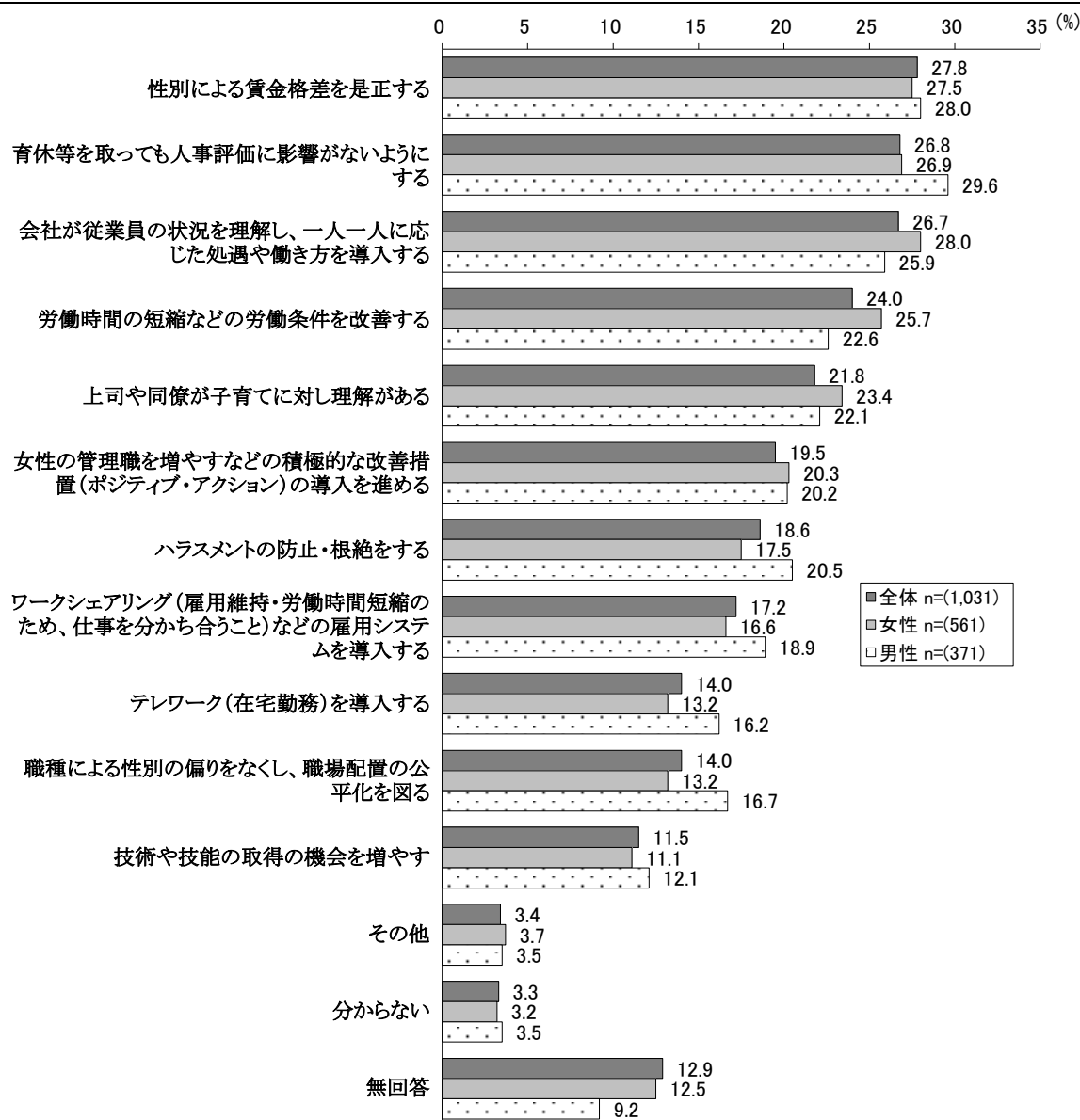
図表101 働いていない理由（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「経済的に働く必要がないから」が女性50歳代では38.5%と最も高くなっています。

## 問9 性別にかかわらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

あなたは、性別にかかわらず働きやすい職場環境をつくるために、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)



図表103 性別に関わらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと

### ○全体の傾向

「性別による賃金格差を是正する」では、27.8%と最も高くなっています。次いで、「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」では、26.8%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「職種による性別の隔たりをなくし、職場配置の公平化を図る」が女性では13.2%、男性では16.7%と、男性の方が女性よりも3.5ポイント高くなっています。「育休等を取っても人事評価に影響がないようにする」が女性では26.9%、男性では29.6%と2.7ポイント男性の方が高くなっています。

	全体	性別による賃金格差を是正する	女性の管理職を増やすなどの積極的な改善措置（ポジティブ・アクション）の導入を進める	労働時間の短縮などの労働条件を改善する	ワークシェアリング（雇用維持・労働時間短縮のため、仕事を分かち合うこと）などの雇用システムを導入する	テレワーク（在宅勤務）を導入する	職種による性別の偏りをなくし、職場配置の公平化を図る	育休等を取っても人事評価に影響がないようにする	技術や技能の取得の機会を増やす	上司や同僚が子育てに対し理解がある	会社が従業員の状況を理解し、一人一人に応じた処遇や働き方を導入する	ハラスメントの防止・根絶をする	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	287 27.8	201 19.5	247 24.0	177 17.2	144 14.0	144 14.0	276 26.8	119 11.5	225 21.8	275 26.7	192 18.6	35 3.4	34 3.3	133 12.9	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	154 27.5	114 20.3	144 25.7	93 16.6	74 13.2	74 13.2	151 26.9	62 11.1	131 23.4	157 28.0	98 17.5	21 3.7	18 3.2	70 12.5
	女性10・20歳代	88 100.0	20 22.7	26 29.5	20 22.7	7 8.0	16 18.2	10 11.4	44 50.0	7 8.0	32 36.4	24 27.3	18 20.5	1 1.1	4 4.5	2 2.3
	女性30歳代	102 100.0	21 20.6	18 17.6	30 29.4	20 19.6	13 12.7	9 8.8	28 27.5	9 8.8	30 29.4	31 30.4	16 15.7	4 3.9	-	16.7
	女性40歳代	110 100.0	21 19.1	24 21.8	30 27.3	19 17.3	18 16.4	14 12.7	27 24.5	16 14.5	30 27.3	32 29.1	19 17.3	4 3.6	2 1.8	13 11.8
	女性50歳代	96 100.0	27 28.1	19 19.8	24 25.0	24 25.0	11 11.5	11 11.5	16 16.7	15 15.6	12 12.5	33 34.4	20 20.8	5 5.2	1 1.0	11 11.5
	女性60歳代	69 100.0	31 44.9	12 17.4	18 26.1	8 11.6	6 8.7	6 8.7	16 23.2	4 5.8	11 15.9	23 33.3	16 23.2	4 5.8	1 1.4	9 13.0
	女性70歳以上	94 100.0	34 36.2	15 16.0	22 23.4	14 14.9	10 10.6	24 25.5	20 21.3	11 11.7	16 17.0	14 14.9	9 9.6	2 2.1	10 10.6	17 18.1
	男性合計	371 100.0	104 28.0	75 20.2	84 22.6	70 18.9	60 16.2	62 16.7	110 29.6	45 12.1	82 22.1	96 25.9	76 20.5	13 3.5	13 3.5	34 9.2
	男性10・20歳代	54 100.0	19 35.2	9 16.7	14 25.9	5 9.3	12 22.2	7 13.0	29 53.7	6 11.1	20 37.0	6 11.1	13 24.1	2 3.7	1 1.9	2 3.7
	男性30歳代	68 100.0	9 13.2	11 16.2	17 25.0	9 13.2	10 14.7	8 11.8	26 38.2	5 7.4	15 22.1	25 36.8	14 20.6	5 7.4	3 4.4	6 8.8
	男性40歳代	77 100.0	17 22.1	16 20.8	16 20.8	24 31.2	17 22.1	14 18.2	19 24.7	7 9.1	18 23.4	24 31.2	12 15.6	1 1.3	3 3.9	9 11.7
	男性50歳代	66 100.0	11 16.7	16 24.2	16 24.2	9 13.6	8 12.1	11 16.7	16 24.2	11 16.7	14 21.2	22 33.3	12 18.2	4 6.1	1 1.5	5 7.6
	男性60歳代	48 100.0	20 41.7	11 22.9	9 18.8	11 22.9	6 12.5	8 16.7	9 18.8	7 14.6	8 16.7	10 20.8	15 31.3	1 2.1	3 6.3	4 8.3
	男性70歳以上	58 100.0	28 48.3	12 20.7	12 20.7	12 20.7	7 12.1	14 24.1	11 19.0	9 15.5	7 12.1	9 15.5	10 17.2	-	2 3.4	8 13.8
	無回答	99 100.0	29 29.3	12 12.1	19 19.2	14 14.1	10 10.1	8 8.1	15 15.2	12 12.1	12 12.1	22 22.2	18 18.2	1 1.0	3 3.0	29 29.3

図表104 性別に関わらず働きやすい職場環境を作るために重要なこと（男女・年代別）

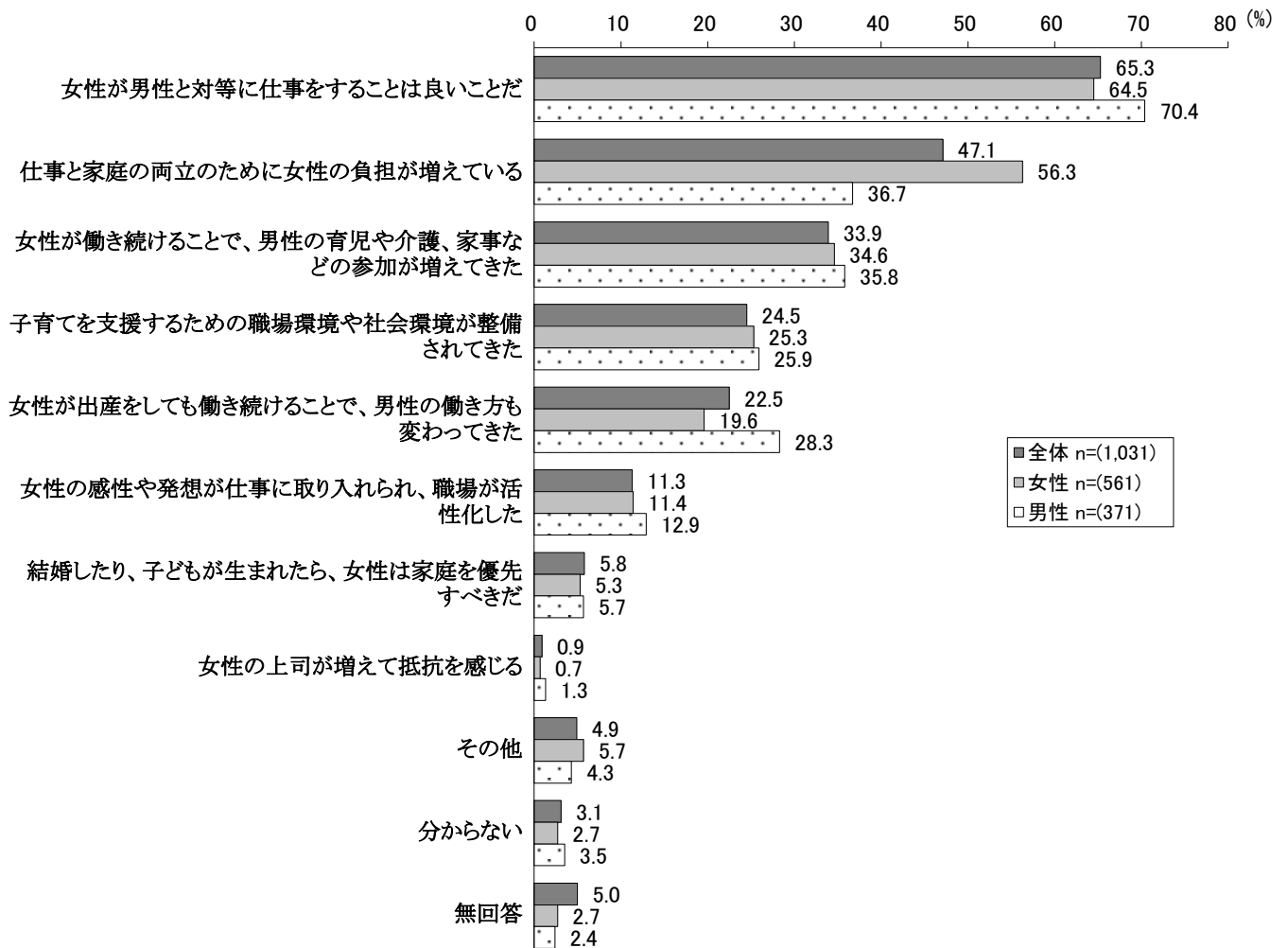
○男女・年代別の傾向

「育休等をとっても人事評価に影響がないようにする」では、男性10・20歳代が53.7%と最も高くなっています。次いで、女性10・20歳代が50.0%と高くなっています。また、「上司や同僚が子育てに関して理解がある」が女性10・20歳代では36.4%と高くなっています。

## 5 女性の活躍について

### 問10 女性が働き続けることに対する意識

あなたは、女性が仕事を持って働き続けることについて、どのように感じていますか。(〇は3つまで)



図表106 女性が働き続けることに対する意識

#### ○全体の傾向

「女性が男性と対等に仕事をするのは良いことだ」が65.3%と最も高くなっています。次いで、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」が47.1%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」が女性では56.3%、男性では36.7%と女性の方が男性よりも19.6ポイント高くなっています。次いで、「女性が出産しても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた」が女性は19.6%、男性は28.3%と男性の方が女性よりも8.7ポイント高くなっています。

		女性が男性と対等に仕事をする事は良いことだ	女性が出産をしても働き続けることで、男性の働き方も変わってきた	女性が働き続けることで、介護、家事などの参加が増えてきた	子育てを支援するための職場環境や社会環境が整備されてきた	女性の感性や発想が仕事に取り入れられ、職場が活性化した	女性の上司が増えて抵抗を感じる	仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている	結婚したり、子どもが生まれたら、女性は家庭を優先すべきだ	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	673 65.3	232 22.5	350 33.9	253 24.5	116 11.3	9 0.9	486 47.1	60 5.8	51 4.9	32 3.1	52 5.0	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	362 64.5	110 19.6	194 34.6	142 25.3	64 11.4	4 0.7	316 56.3	30 5.3	32 5.7	15 2.7	15 2.7
	女性10・20歳代	88 100.0	68 77.3	21 23.9	17 19.3	24 27.3	9 10.2	-	53 60.2	4 4.5	6 6.8	2 2.3	-
	女性30歳代	102 100.0	63 61.8	22 21.6	32 31.4	25 24.5	12 11.8	-	66 64.7	4 3.9	4 3.9	1 1.0	1 1.0
	女性40歳代	110 100.0	70 63.6	22 20.0	41 37.3	34 30.9	8 7.3	3 2.7	64 58.2	7 6.4	7 6.4	2 1.8	5 4.5
	女性50歳代	96 100.0	56 58.3	16 16.7	34 35.4	23 24.0	9 9.4	1 1.0	56 58.3	5 5.2	8 8.3	3 3.1	1 1.0
	女性60歳代	69 100.0	45 65.2	10 14.5	26 37.7	18 26.1	9 13.0	-	38 55.1	1 1.4	3 4.3	3 4.3	2 2.9
	女性70歳以上	94 100.0	59 62.8	19 20.2	44 46.8	18 19.1	16 17.0	-	39 41.5	9 9.6	4 4.3	4 4.3	5 5.3
	男性合計	371 100.0	261 70.4	105 28.3	133 35.8	96 25.9	48 12.9	5 1.3	136 36.7	21 5.7	16 4.3	13 3.5	9 2.4
	男性10・20歳代	54 100.0	41 75.9	7 13.0	17 31.5	10 18.5	5 9.3	-	20 37.0	3 5.6	3 5.6	4 7.4	-
	男性30歳代	68 100.0	49 72.1	27 39.7	29 42.6	15 22.1	7 10.3	2 2.9	21 30.9	3 4.4	5 7.4	3 4.4	-
	男性40歳代	77 100.0	55 71.4	24 31.2	35 45.5	25 32.5	10 13.0	1 1.3	26 33.8	4 5.2	5 6.5	1 1.3	1 1.3
	男性50歳代	66 100.0	47 71.2	23 34.8	14 21.2	20 30.3	10 15.2	2 3.0	26 39.4	5 7.6	2 3.0	1 1.5	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	26 54.2	10 20.8	17 35.4	11 22.9	8 16.7	-	16 33.3	3 6.3	1 2.1	2 4.2	3 6.3
	男性70歳以上	58 100.0	43 74.1	14 24.1	21 36.2	15 25.9	8 13.8	-	27 46.6	3 5.2	-	2 3.4	3 5.2
	無回答	99 100.0	50 50.5	17 17.2	23 23.2	15 15.2	4 4.0	-	34 34.3	9 9.1	3 3.0	4 4.0	28 28.3

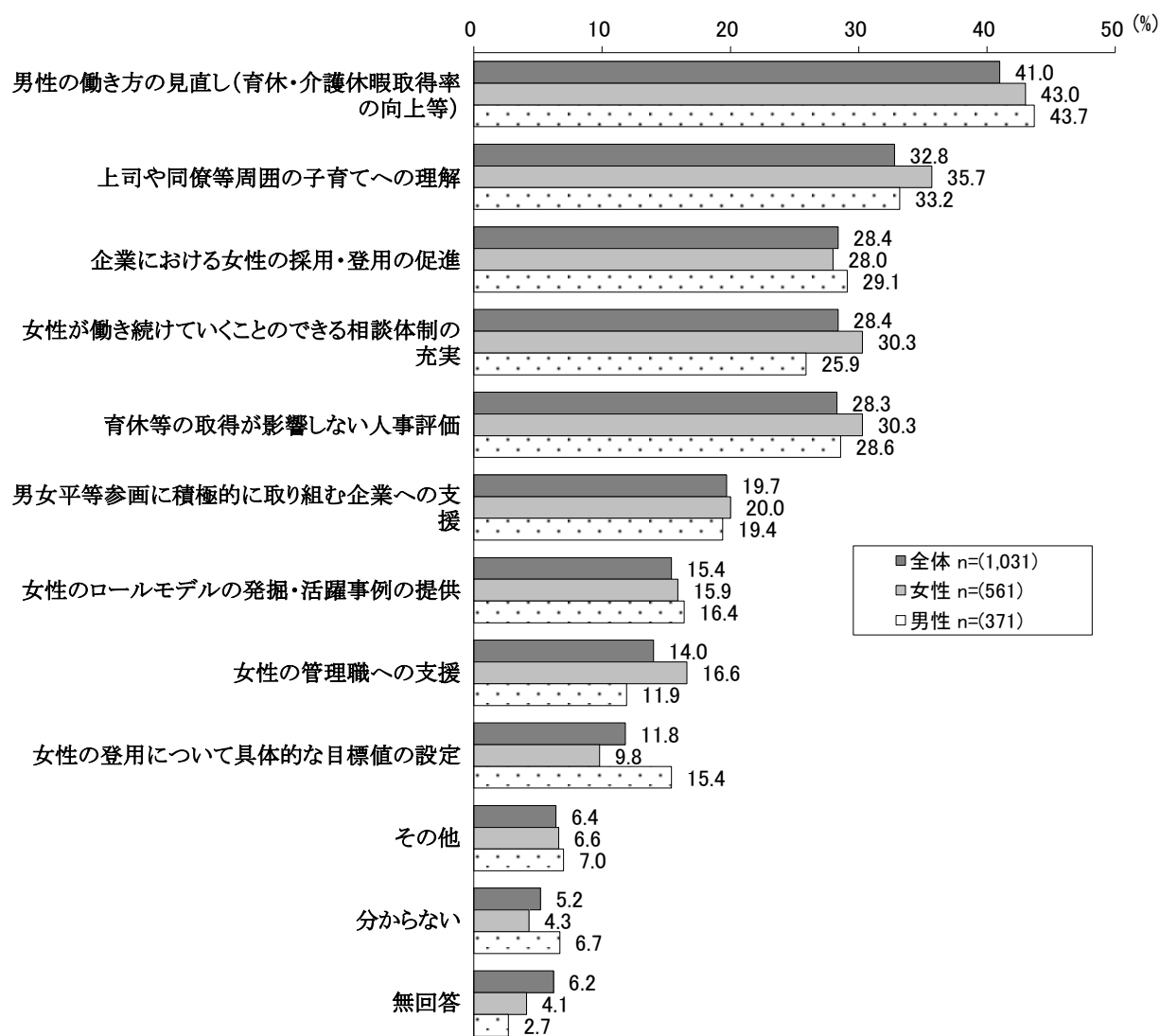
図表107 女性が働き続けることに対する意識（男女・年代別）

○男女別の傾向

男女ともに「女性が男性と対等に仕事をする事は良いことだ」が女性10・20歳代では77.3%、男性10・20歳代では75.9%と高くなっています。次いで、「仕事と家庭の両立のために女性の負担が増えている」では女性10～30歳代では60.0%以上と高くなっています。

## 問11 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援

あなたは、雇用分野における女性の管理職の登用など、女性の活躍を促すには、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は3つまで)



図表112 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援

### ○全体の傾向

「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」が41.0%と最も高くなっています。次いで、「上司や同僚等の周囲の子育てへの理解」が32.8%と高くなっています。

### ○男女の傾向

「女性の登用について具体的な目標値の設定」が女性では9.8%、男性では15.4%と男性の方が女性よりも5.6ポイント高くなっています。



	全体	企業における女性の採用・登用の促進	女性の登用について具体的な目標値の設定	女性のロールモデルの発掘・活躍事例の提供	女性が働き続けていくことのできる相談体制の充実	男女平等参画に積極的に取り組む企業への支援	女性の管理職への支援	男性の働き方の見直し（育休・介護休暇取得率の向上等）	育休等の取得が影響しない人事評価	上司や同僚等周囲の子育てへの理解	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	293 28.4	122 11.8	159 15.4	293 28.4	203 19.7	144 14.0	423 41.0	292 28.3	338 32.8	66 6.4	54 5.2	64 6.2	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	157 28.0	55 9.8	89 15.9	170 30.3	112 20.0	93 16.6	241 43.0	170 30.3	200 35.7	37 6.6	24 4.3	23 4.1
	女性10・20歳代	88 100.0	22 25.0	12 13.6	16 18.2	24 27.3	13 14.8	17 19.3	42 47.7	38 43.2	28 31.8	3 3.4	4 4.5	-
	女性30歳代	102 100.0	24 23.5	6 5.9	24 23.5	31 30.4	13 12.7	21 20.6	50 49.0	39 38.2	45 44.1	9 8.8	1 1.0	1 1.0
	女性40歳代	110 100.0	30 27.3	13 11.8	19 17.3	30 27.3	24 21.8	18 16.4	49 44.5	24 21.8	38 34.5	12 10.9	6 5.5	5 4.5
	女性50歳代	96 100.0	24 25.0	14 14.6	20 20.8	31 32.3	23 24.0	18 18.8	38 39.6	20 20.8	30 31.3	9 9.4	4 4.2	3 3.1
	女性60歳代	69 100.0	20 29.0	6 8.7	6 8.7	26 37.7	10 14.5	7 10.1	32 46.4	22 31.9	25 36.2	1 1.4	4 5.8	3 4.3
	女性70歳以上	94 100.0	37 39.4	4 4.3	4 4.3	28 29.8	29 30.9	12 12.8	30 31.9	27 28.7	34 36.2	2 2.1	5 5.3	10 10.6
	男性合計	371 100.0	108 29.1	57 15.4	61 16.4	96 25.9	72 19.4	44 11.9	162 43.7	106 28.6	123 33.2	26 7.0	25 6.7	10 2.7
	男性10・20歳代	54 100.0	10 18.5	5 9.3	7 13.0	17 31.5	10 18.5	5 9.3	32 59.3	20 37.0	20 37.0	5 9.3	4 7.4	-
	男性30歳代	68 100.0	15 22.1	8 11.8	19 27.9	16 23.5	8 11.8	2 2.9	40 58.8	29 42.6	24 35.3	5 7.4	3 4.4	-
	男性40歳代	77 100.0	26 33.8	9 11.7	16 20.8	15 19.5	16 20.8	14 18.2	39 50.6	18 23.4	30 39.0	5 6.5	5 6.5	1 1.3
	男性50歳代	66 100.0	18 27.3	16 24.2	9 13.6	16 24.2	14 21.2	8 12.1	21 31.8	14 21.2	22 33.3	6 9.1	5 7.6	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	14 29.2	11 22.9	5 10.4	12 25.0	14 29.2	6 12.5	14 29.2	13 27.1	13 27.1	2 4.2	3 6.3	3 6.3
	男性70歳以上	58 100.0	25 43.1	8 13.8	5 8.6	20 34.5	10 17.2	9 15.5	16 27.6	12 20.7	14 24.1	3 5.2	5 8.6	4 6.9
	無回答	99 100.0	28 28.3	10 10.1	9 9.1	27 27.3	19 19.2	7 7.1	20 20.2	16 16.2	15 15.2	3 3.0	5 5.1	31 31.3

図表113 女性の管理職登用など参画を促すために必要な支援（男女・年代別）

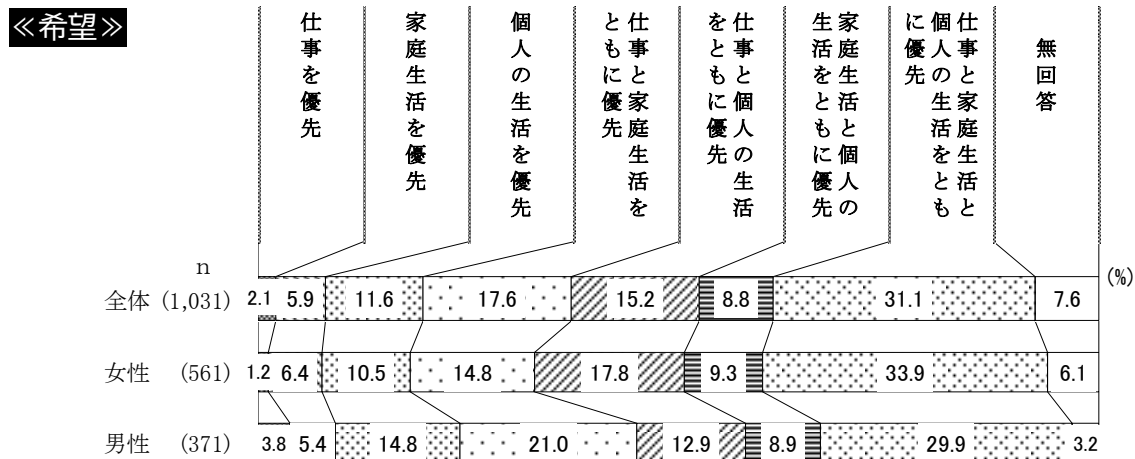
○男女・年代別の傾向

男女とも「男性の働き方の見直し(育休・介護休暇取得率の向上等)」が高く、男性10・20歳代では59.3%、女性30歳代では49.0%となっています。

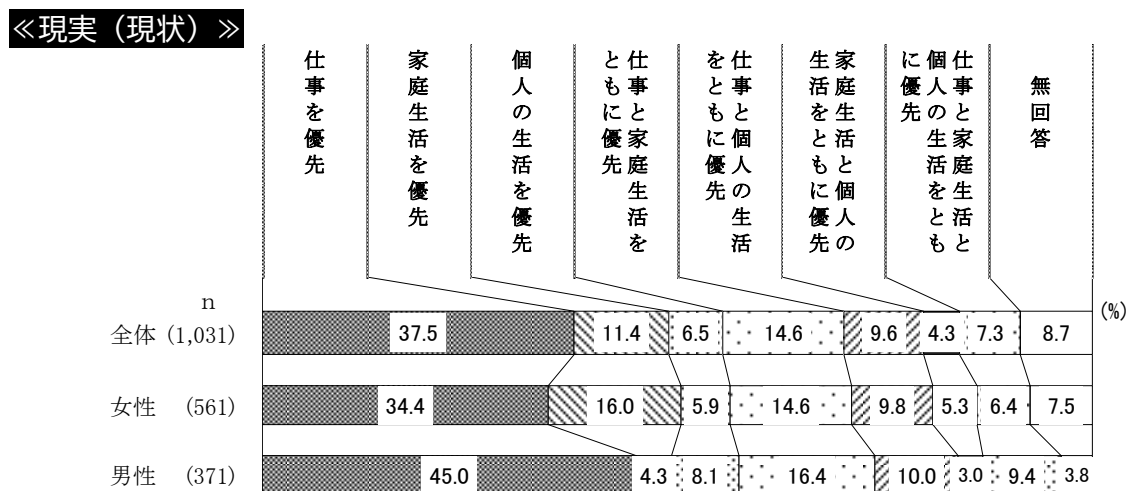
## 6 家庭生活と社会生活の両立について

### 問12 ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についての考え方で、あなたの希望と現実（現状）に最も近いものを1つずつ選んでください。（それぞれについて○は1つ）



図表116 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」（ワーク・ライフ・バランス）の優先度『希望』



図表117 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」（ワーク・ライフ・バランス）の優先度『現実（現状）』

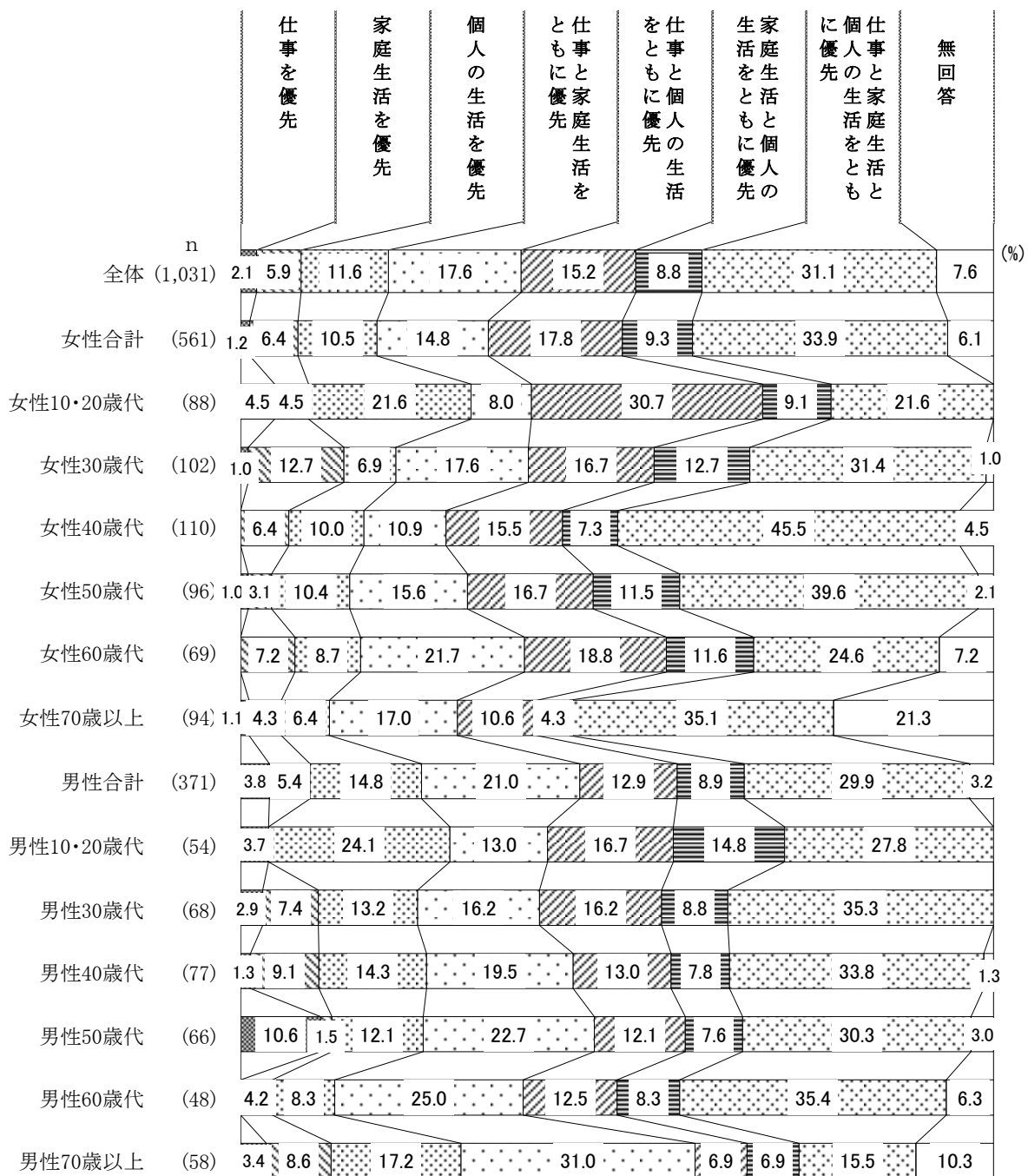
#### ○全体の傾向

生活の中での優先度について、「希望」は「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」が31.1%と最も高くなっています。「現実（現状）」は「仕事を優先」が37.5%と最も高くなっています。

#### ○男女別の傾向

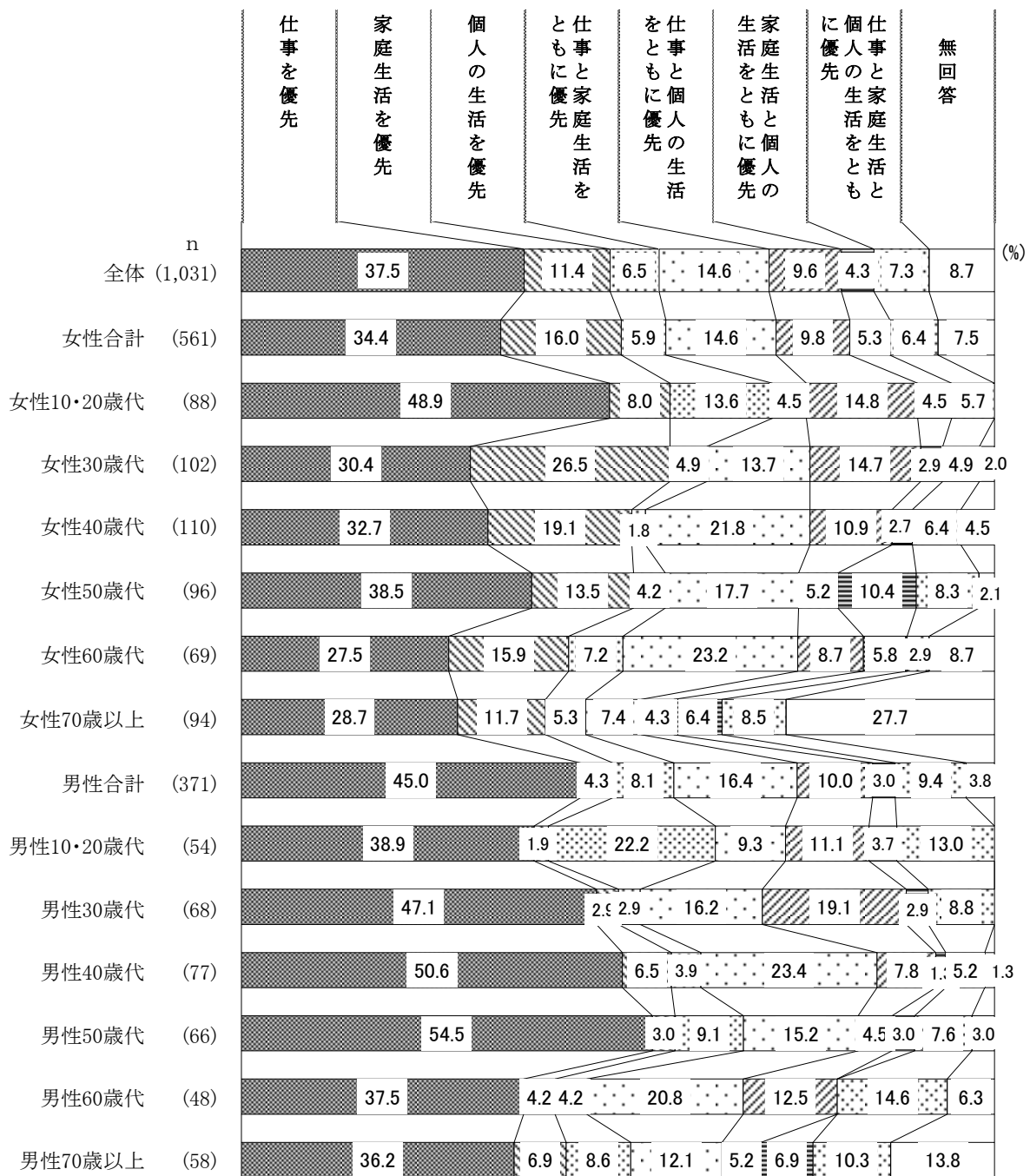
「希望」は「仕事と家庭生活をともに優先」が女性では14.8%、男性では21.0%と5.2ポイント男性の方が女性よりも高くなっています。「現実（現状）」は「家庭生活を優先」が女性では16.0%、男性が4.3%と女性の方が男性よりも11.7ポイント高くなっています。

《希望》



図表118 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」(ワーク・ライフ・バランス)の優先度『希望』(男女・年代別)

《現実（現状）》



図表119 「仕事」「家庭生活」「個人の生活」（ワーク・ライフ・バランス）の優先度『現実（現状）』（男女・年代別）

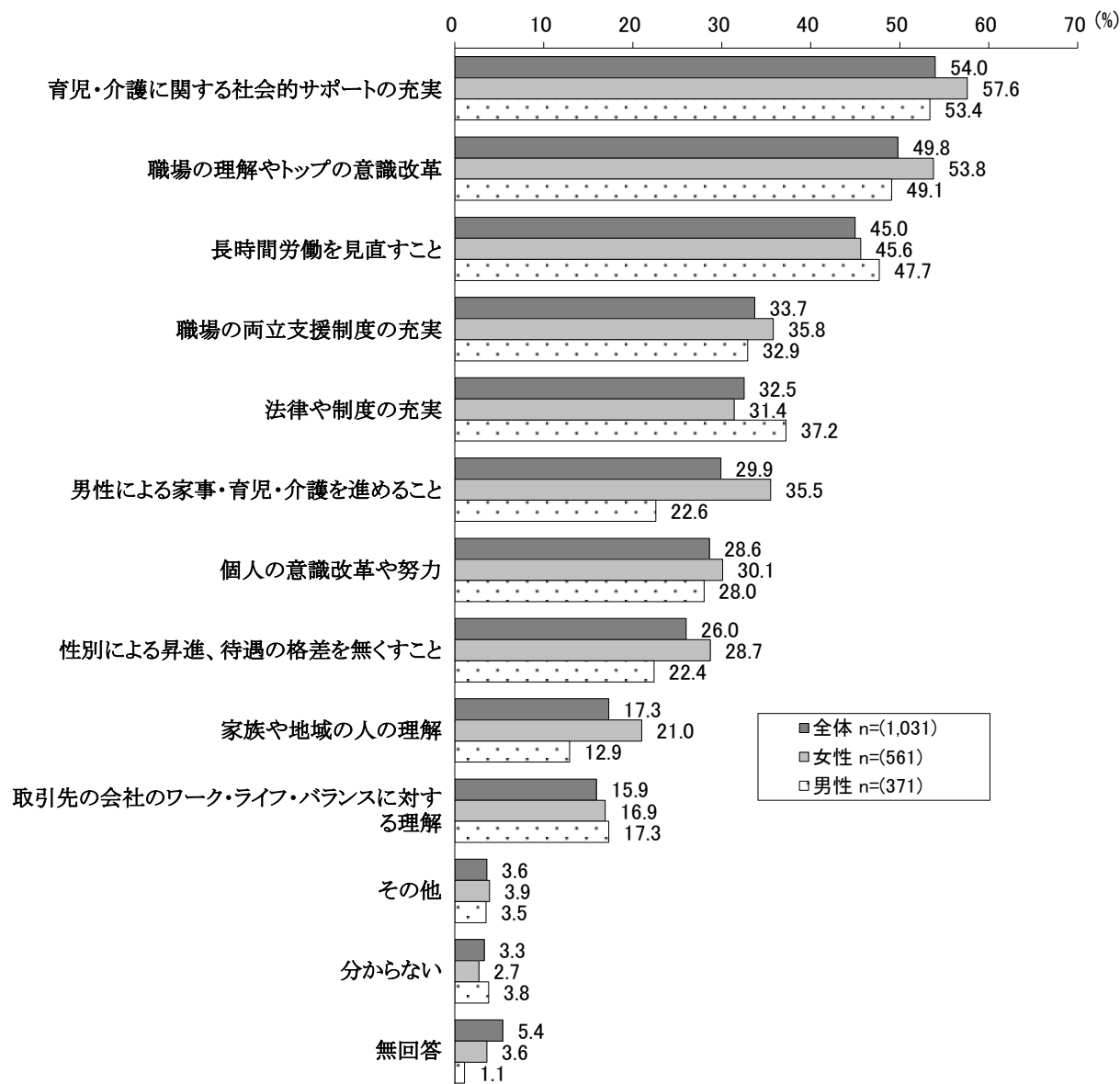
○男女・年代別の傾向

《希望》は「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」が女性40歳代では45.5%、男性30歳代では35.3%と最も高くなっています。

《現実（現状）》は「仕事を優先」が女性10・20歳代では48.9%、男性50歳代では54.5%と最も高くなっています。

問13 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために必要なこと

あなたは、社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を図る上で、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）



図表125 社会全体としてワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進するために必要なこと

○全体の傾向

「育児・介護に関する社会的サポートの充実」が54.0%と最も高くなっています。次いで、「職場の理解やトップの意識改革」が49.8%と高くなっています。

○男女別の傾向

「男性による家事・育児・介護を進めること」が女性では35.5%、男性では22.6%と女性の方が男性よりも12.9ポイント高くなっています。次いで、「家族や地域の人々の理解」が女性では21.0%、男性では12.9%と女性の方が男性よりも8.1ポイント高くなっています。

	全体	育児・介護に関する社会的サポートの充実	職場の両立支援制度の充実	長時間労働を見直すこと	法律や制度の充実	性別による昇進・待遇の格差を無くすこと	男性による家事・育児・介護を進めること	個人の意識改革や努力	職場の理解やトップの意識改革	家族や地域の人の理解	取引先の会社のワーク・ライフ・バランスに対する理解	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	557 54.0	347 33.7	464 45.0	335 32.5	268 26.0	308 29.9	295 28.6	513 49.8	178 17.3	164 15.9	37 3.6	34 3.3	56 5.4	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	323 57.6	201 35.8	256 45.6	176 31.4	161 28.7	199 35.5	169 30.1	302 53.8	118 16.9	95 16.9	22 3.9	15 2.7	20 3.6
	女性10-20歳代	88 100.0	39 44.3	37 42.0	53 60.2	24 27.3	33 37.5	33 37.5	19 21.6	45 51.1	20 22.7	22 25.0	3 3.4	5 5.7	-
	女性30歳代	102 100.0	65 63.7	47 46.1	55 53.9	45 44.1	26 25.5	46 45.1	37 36.3	64 62.7	25 24.5	25 24.5	3 2.9	1 1.0	2 2.0
	女性40歳代	110 100.0	55 50.0	34 30.9	55 50.0	34 30.9	25 22.7	39 35.5	34 30.9	68 61.8	23 20.9	23 20.9	4 3.6	1 0.9	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	60 62.5	34 35.4	36 37.5	33 34.4	28 29.2	30 31.3	30 31.3	51 53.1	24 25.0	15 15.6	4 4.2	1 1.0	3 3.1
	女性60歳代	69 100.0	48 69.6	25 36.2	23 33.3	12 17.4	23 33.3	25 36.2	24 34.8	37 53.6	15 21.7	2 2.9	3 4.3	2 2.9	1 1.4
	女性70歳以上	94 100.0	55 58.5	24 25.5	34 36.2	28 29.8	26 27.7	26 27.7	23 24.5	37 39.4	11 11.7	8 8.5	5 5.3	5 5.3	13 13.8
	男性合計	371 100.0	198 53.4	122 32.9	177 47.7	138 37.2	83 22.4	84 22.6	104 28.0	182 49.1	48 12.9	64 17.3	13 3.5	14 3.8	4 1.1
	男性10-20歳代	54 100.0	28 51.9	15 27.8	32 59.3	24 44.4	14 25.9	18 33.3	9 16.7	26 48.1	8 14.8	9 16.7	-	1 1.9	-
	男性30歳代	68 100.0	35 51.5	25 36.8	42 61.8	22 32.4	7 10.3	14 20.6	25 36.8	36 52.9	7 10.3	21 30.9	4 5.9	2 2.9	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	41 53.2	28 36.4	40 51.9	36 46.8	10 13.0	18 23.4	23 29.9	38 49.4	14 18.2	19 24.7	3 3.9	2 2.6	-
	男性50歳代	66 100.0	32 48.5	21 31.8	24 36.4	20 30.3	14 21.2	18 27.3	21 31.8	35 53.0	11 16.7	8 12.1	3 4.5	4 6.1	-
	男性60歳代	48 100.0	27 56.3	19 39.6	18 37.5	16 33.3	6 29.2	16 12.5	16 33.3	24 50.0	3 6.3	4 8.3	2 4.2	2 4.2	-
	男性70歳以上	58 100.0	35 60.3	14 24.1	21 36.2	20 34.5	24 41.4	10 17.2	10 17.2	23 39.7	5 8.6	3 5.2	1 1.7	3 5.2	3 5.2
	無回答	99 100.0	36 36.4	24 24.2	31 31.3	21 21.2	24 24.2	25 25.3	22 22.2	29 29.3	12 12.1	5 5.1	2 2.0	5 5.1	32 32.3

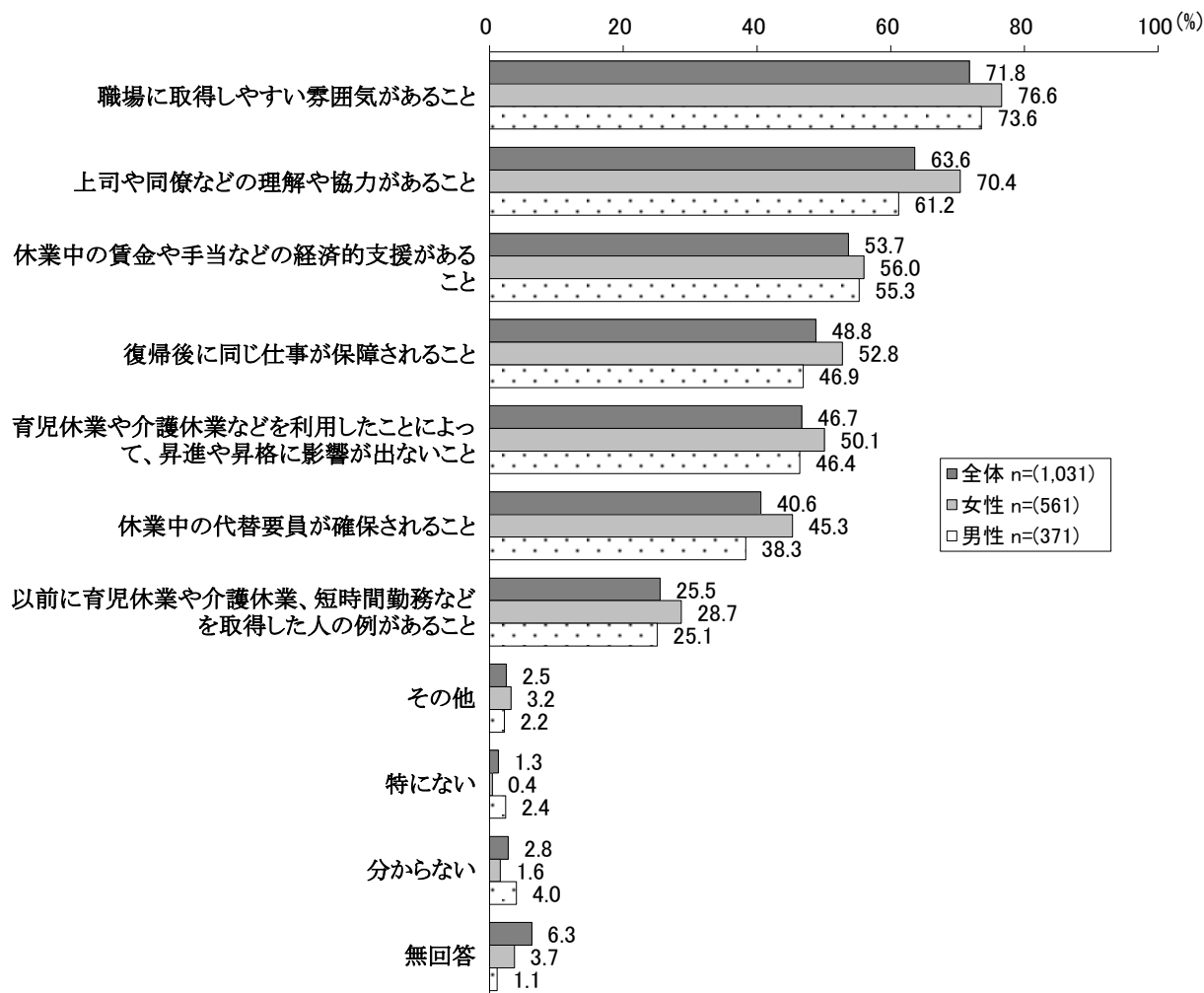
図表126 ワーク・ライフ・バランス（社会全体として仕事と生活の調和）を推進するために必要なこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

男女ともに「育児・介護に関する社会的サポートの充実」が高く、女性60歳代では69.6%、男性70歳以上では60.3%となっています。次いで、「職場の理解やトップの意識改革」が女性30歳代では62.7%となっています。

## 問14 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと

あなたは、育児や介護における休業・休暇等を取得しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



図表130 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと

### ○全体の傾向

「職場に取得しやすい雰囲気があること」が71.8%と最も高くなっています。次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が63.6%となっています。

### ○男女別の傾向

全ての項目について、女性の割合が男性を上回っています。特に「休業中の代替要員が確保されること」について、女性では45.3%、男性では38.3%と7.0ポイント高くなっています。

	全体	職場に取得しやすい雰囲気があること	以前に育児休業や介護休業、短時間勤務などを取得した人の例があること	上司や同僚などの理解や協力があること	休業中の賃金や手当などの経済的支援があること	育児休業や介護休業などを利用したことによって、昇進や昇格に影響が出ないこと	休業中の代替要員が確保されること	復帰後に同じ仕事が可能されること	その他	特にない	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	740 71.8	263 25.5	656 63.6	554 53.7	481 46.7	419 40.6	503 48.8	26 2.5	13 1.3	29 2.8	65 6.3	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	430 76.6	161 28.7	395 70.4	314 56.0	281 50.1	254 45.3	296 52.8	18 3.2	2 0.4	9 1.6	21 3.7
	女性10・20歳代	88 100.0	71 80.7	36 40.9	69 78.4	50 56.8	58 65.9	36 40.9	54 61.4	2 2.3	-	2 2.3	-
	女性30歳代	102 100.0	87 85.3	41 40.2	75 73.5	67 65.7	62 60.8	47 46.1	52 51.0	3 2.9	-	1 1.0	2 2.0
	女性40歳代	110 100.0	84 76.4	37 33.6	76 69.1	60 54.5	44 40.0	59 53.6	54 49.1	6 5.5	-	-	-
	女性50歳代	96 100.0	71 74.0	23 24.0	67 69.8	48 50.0	45 46.9	45 46.9	42 43.8	4 4.2	-	1 1.0	3 3.1
	女性60歳代	69 100.0	54 78.3	14 20.3	50 72.5	49 71.0	32 46.4	35 50.7	44 63.8	1 1.4	-	-	2 2.9
	女性70歳以上	94 100.0	61 64.9	9 9.6	57 60.6	39 41.5	39 41.5	31 33.0	49 52.1	2 2.1	2 2.1	5 5.3	14 14.9
	男性合計	371 100.0	273 73.6	93 25.1	227 61.2	205 55.3	172 46.4	142 38.3	174 46.9	8 2.2	9 2.4	15 4.0	4 1.1
	男性10・20歳代	54 100.0	44 81.5	19 35.2	35 64.8	27 50.0	21 38.9	20 37.0	26 48.1	-	3 5.6	2 3.7	-
	男性30歳代	68 100.0	52 76.5	31 45.6	39 57.4	42 61.8	37 54.4	27 39.7	32 47.1	1 1.5	-	3 4.4	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	61 79.2	19 24.7	51 66.2	44 57.1	33 42.9	42 54.5	36 46.8	4 5.2	1 1.3	1 1.3	-
	男性50歳代	66 100.0	44 66.7	14 21.2	36 54.5	30 45.5	32 48.5	25 37.9	26 39.4	2 3.0	4 6.1	4 6.1	-
	男性60歳代	48 100.0	34 70.8	6 12.5	25 52.1	29 60.4	24 50.0	15 31.3	24 50.0	1 2.1	1 2.1	2 4.2	-
	男性70歳以上	58 100.0	38 65.5	4 6.9	41 70.7	33 56.9	25 43.1	13 22.4	30 51.7	-	-	3 5.2	3 5.2
無回答	99 100.0	37 37.4	9 9.1	34 34.3	35 35.4	28 28.3	23 23.2	33 33.3	-	2 2.0	5 5.1	40 40.4	

図表131 育児休業、介護休業等を取得しやすくするために必要なこと（男女・年代別）

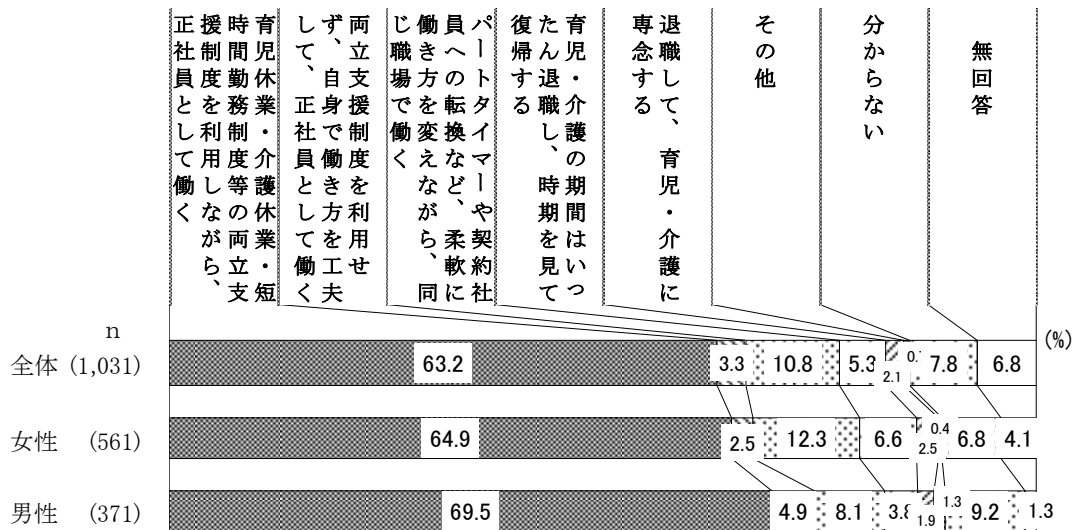
○男女・年代別の傾向

男女ともに「職場に取得しやすい雰囲気があること」が高く、女性30歳代では85.3%、男性10・20歳代では81.5%となっています。次いで、「上司や同僚などの理解や協力があること」が女性10・20歳代で78.4%となっています。



## 問15 育児や介護中に希望する働き方

あなたにとって、育児や介護中に希望する働き方は次のうちどれですか。(○は1つ)



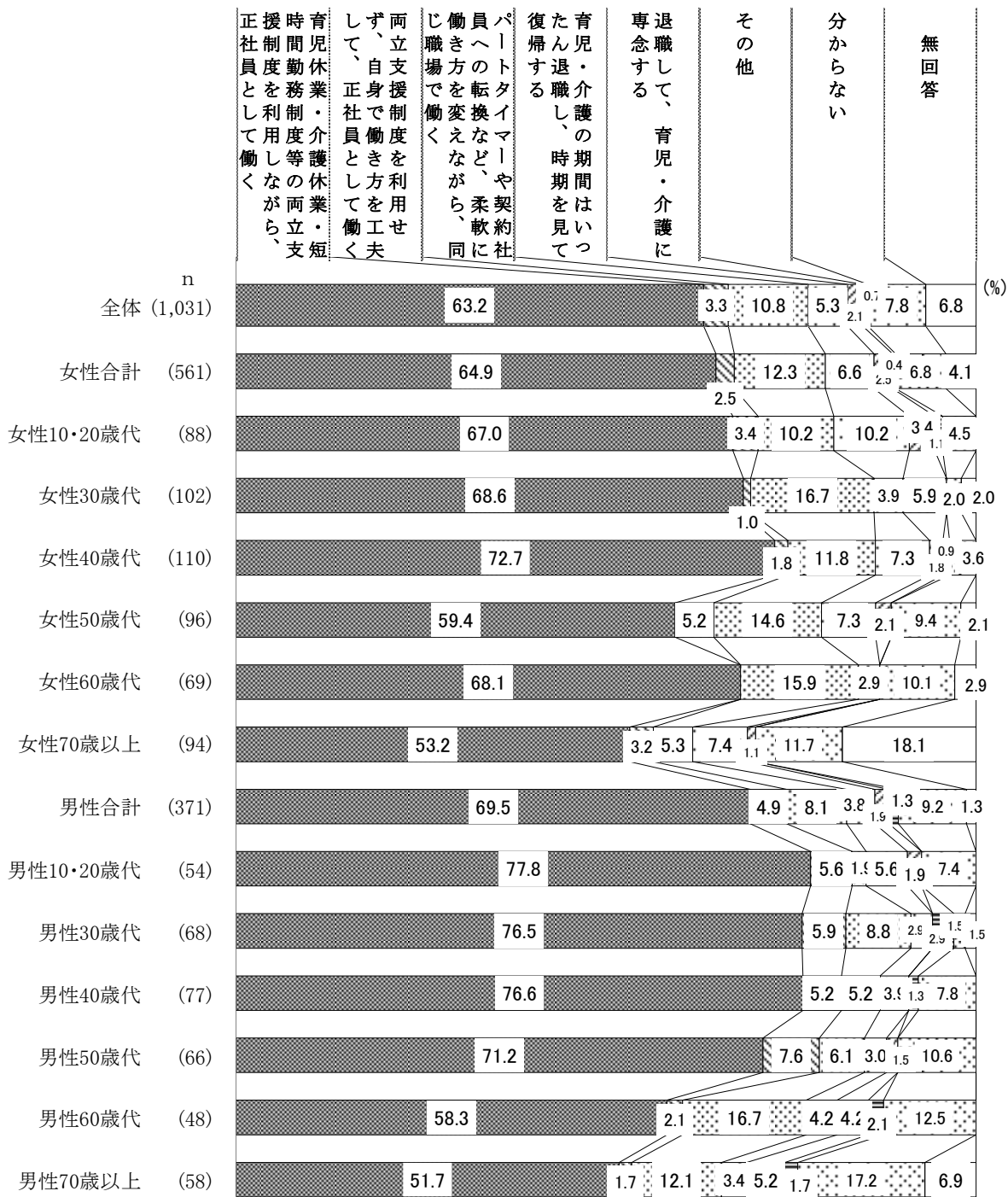
図表135 育児や介護中に希望する働き方

### ○全体の傾向

「育児休業・介護休業・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が63.2%と最も高くなっています。次いで、「パートタイマーや契約社員への転換など、柔軟に働き方を変えながら、同じ職場で働く」が10.8%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「育児休業・介護休業・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が女性では64.9%、男性では69.5%と男性の方が女性よりも4.6ポイント高くなっています。



図表136 育児や介護中に希望する働き方（男女・年代別）

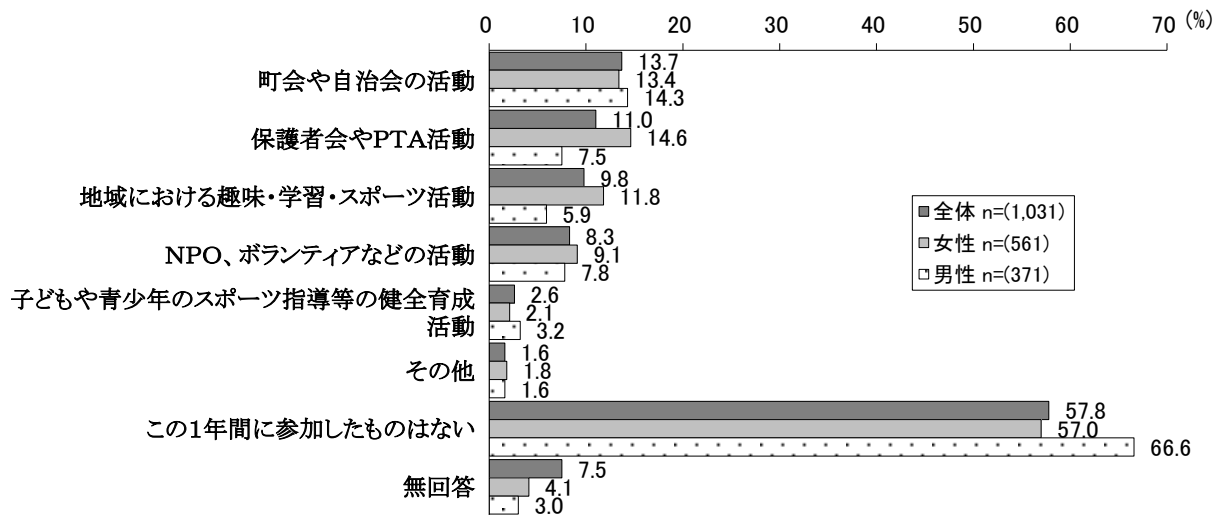
○男女・年代別の傾向

「育児休業・介護休業・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が男性10・20歳代では77.8%、女性40歳代では72.7%と高くなっています。男女ともに、70歳以上では「育児休業・介護休業・短時間勤務制度等の両立支援制度を利用しながら、正社員として働く」が5割前後と全体の中では低くなっています。

## 7 地域活動、社会活動への参画について

### 問16 この1年間に参加した地域活動や社会活動

あなたが、この1年間に参加した地域活動や社会活動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)



図表139 この1年間に参加した地域活動や社会活動

#### ○全体の傾向

「町会や自治会の活動」が13.7%と最も高くなっています。次いで、「保護者会やPTA活動」が11.0%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「保護者会やPTA活動」は女性では14.6%、男性では7.5%と女性の方が男性よりも7.1ポイント高くなっています。次いで、「地域における趣味・学習・スポーツ活動」は女性では11.8%、男性では5.9%と女性の方が男性よりも5.9ポイント高くなっています。

	全体	町会や自治会の活動	保護者会やPTA活動	子どもや青少年のスポーツ指導等の健全育成活動	地域における趣味・スポーツ活動	NPO、ボランティアなどの活動	その他	この1年間に参加したものは ない	無回答	
全体	1031 100.0	141 13.7	113 11.0	27 2.6	101 9.8	86 8.3	16 1.6	596 57.8	77 7.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	75 13.4	82 14.6	12 2.1	66 11.8	51 9.1	10 1.8	320 57.0	23 4.1
	女性10・20歳代	88 100.0	2 2.3	1 1.1	- -	2 2.3	4 4.5	- -	79 89.8	- -
	女性30歳代	102 100.0	7 6.9	20 19.6	2 2.0	4 3.9	6 5.9	- -	70 68.6	2 2.0
	女性40歳代	110 100.0	15 13.6	44 40.0	1 0.9	12 10.9	9 8.2	1 0.9	53 48.2	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	11 11.5	15 15.6	3 3.1	17 17.7	11 11.5	2 2.1	49 51.0	3 3.1
	女性60歳代	69 100.0	16 23.2	1 1.4	2 2.9	12 17.4	8 11.6	4 5.8	33 47.8	5 7.2
	女性70歳以上	94 100.0	24 25.5	1 1.1	4 4.3	19 20.2	13 13.8	3 3.2	34 36.2	12 12.8
	男性合計	371 100.0	53 14.3	28 7.5	12 3.2	22 5.9	29 7.8	6 1.6	247 66.6	11 3.0
	男性10・20歳代	54 100.0	4 7.4	1 1.9	1 1.9	3 5.6	7 13.0	- -	39 72.2	1 1.9
	男性30歳代	68 100.0	3 4.4	4 5.9	1 1.5	1 1.5	3 4.4	1 1.5	54 79.4	3 4.4
	男性40歳代	77 100.0	11 14.3	17 22.1	4 5.2	3 3.9	3 3.9	1 1.3	49 63.6	- -
	男性50歳代	66 100.0	12 18.2	5 7.6	3 4.5	4 6.1	6 9.1	1 1.5	47 71.2	1 1.5
	男性60歳代	48 100.0	11 22.9	1 2.1	2 4.2	3 6.3	7 14.6	1 2.1	29 60.4	1 2.1
	男性70歳以上	58 100.0	12 20.7	- -	1 1.7	8 13.8	3 5.2	2 3.4	29 50.0	5 8.6
	無回答	99 100.0	13 13.1	3 3.0	3 3.0	13 13.1	6 6.1	- -	29 29.3	43 43.4

図表140 この1年間に参加した地域活動や社会活動（男女・年代別）

### ○男女・年代別の傾向

男女ともに「町会や自治会の活動」が高く、女性70歳以上では25.5%、男性60歳代では22.9%と高くなっています。

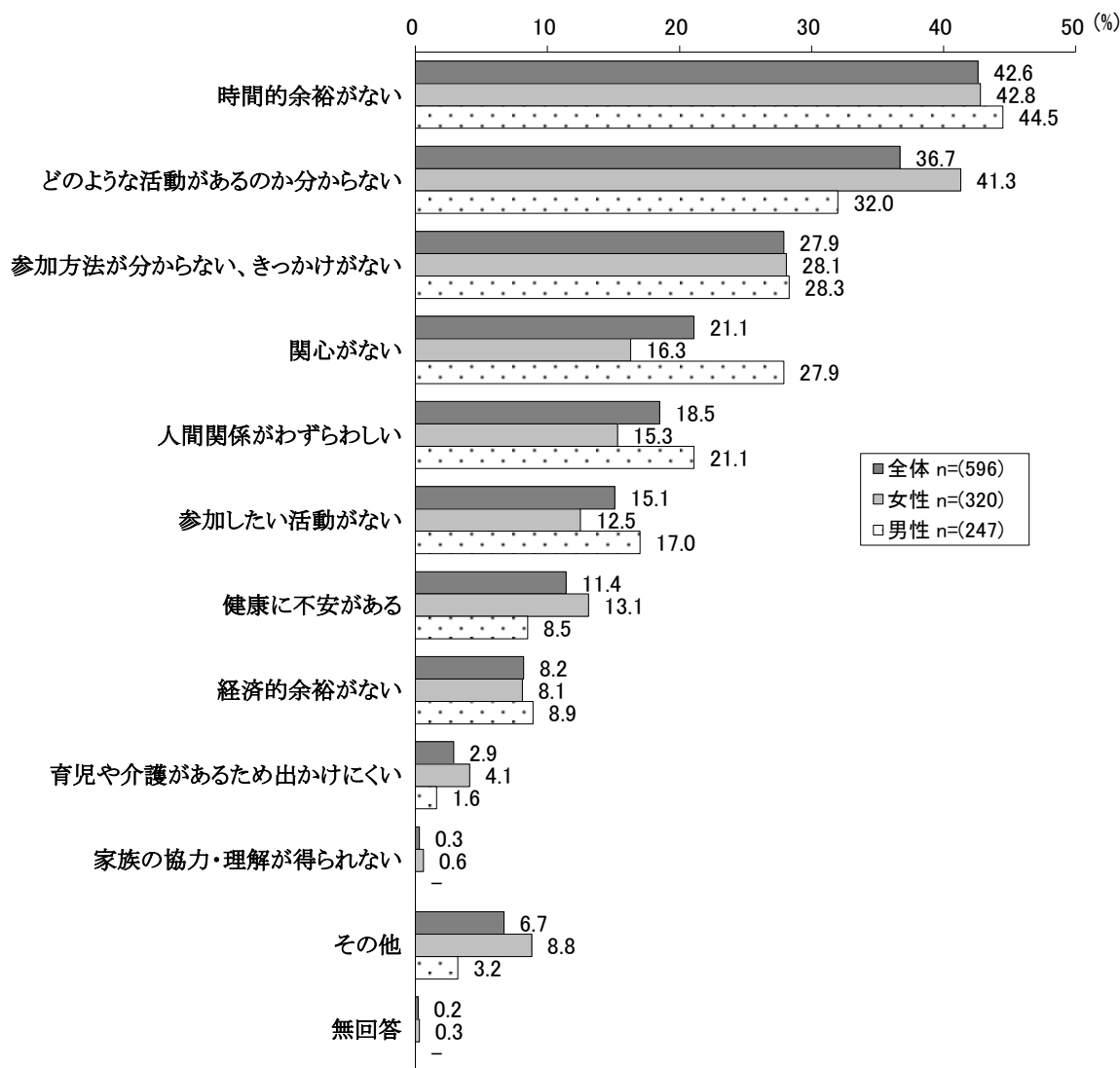
一方、「この1年間に参加したものはない」が男女ともに最も高くなっています。

また、「保護者会やPTA活動」では女性40歳代が40.0%と高くなっています。

## 問16-1 参加していない理由

【問16で「7（この1年間に参加したものはなし）」を選んだ方のみご回答ください】

あなたが地域活動・社会活動に参加していない理由は、どのようなことですか。（〇はいくつでも）



図表143 参加していない理由

### ○全体の傾向

「時間的余裕がない」が42.6%と最も高くなっています。次いで、「どのような活動があるのか分からない」が36.7%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「関心がない」が女性では16.3%、男性では27.9%と男性の方が女性よりも11.6ポイント高くなっています。次いで、「どのような活動があるのか分からない」が女性では41.3%、男性では32.0%と、女性の方が男性よりも9.3ポイント高くなっています。

	全体	時間的余裕がない	参加したい活動がない	どのような活動があるのか分からない	参加方法が分からない、きっかけがない	人間関係がわずらわしい	家族の協力・理解が得られない	育児や介護があるため出かけにくい	健康に不安がある	経済的余裕がない	関心がない	その他	無回答	
全体	596 100.0	254 42.6	90 15.1	219 36.7	166 27.9	110 18.5	2 0.3	17 2.9	68 11.4	49 8.2	126 21.1	40 6.7	1 0.2	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	320 100.0	137 42.8	40 12.5	132 41.3	90 28.1	49 15.3	2 0.6	13 4.1	42 13.1	26 8.1	52 16.3	28 8.8	1 0.3
	女性10・20歳代	79 100.0	34 43.0	12 15.2	31 39.2	26 32.9	12 15.2	-	-	2 2.5	8 10.1	14 17.7	6 7.6	-
	女性30歳代	70 100.0	29 41.4	7 10.0	42 60.0	23 32.9	9 12.9	-	5 7.1	5 7.1	6 8.6	15 21.4	5 7.1	-
	女性40歳代	53 100.0	29 54.7	9 17.0	23 43.4	16 30.2	10 18.9	2 3.8	4 7.5	3 5.7	4 7.5	12 22.6	4 7.5	-
	女性50歳代	49 100.0	26 53.1	3 6.1	17 34.7	11 22.4	5 10.2	-	3 6.1	5 10.2	4 8.2	7 14.3	6 12.2	-
	女性60歳代	33 100.0	14 42.4	7 21.2	9 27.3	7 21.2	5 15.2	-	1 3.0	9 27.3	3 9.1	-	2 6.1	1 3.0
	女性70歳以上	34 100.0	3 8.8	2 5.9	9 26.5	6 17.6	7 20.6	-	-	18 52.9	1 2.9	4 11.8	5 14.7	-
	男性合計	247 100.0	110 44.5	42 17.0	79 32.0	70 28.3	52 21.1	-	4 1.6	21 8.5	22 8.9	69 27.9	8 3.2	-
	男性10・20歳代	39 100.0	20 51.3	10 25.6	19 48.7	15 38.5	8 20.5	-	-	1 2.6	4 10.3	11 28.2	-	-
	男性30歳代	54 100.0	23 42.6	6 11.1	23 42.6	22 40.7	16 29.6	-	2 3.7	2 3.7	7 13.0	22 40.7	1 1.9	-
	男性40歳代	49 100.0	29 59.2	9 18.4	14 28.6	11 22.4	10 20.4	-	2 4.1	2 4.1	3 6.1	15 30.6	-	-
	男性50歳代	47 100.0	20 42.6	7 14.9	11 23.4	11 23.4	6 12.8	-	-	4 8.5	4 8.5	12 25.5	2 4.3	-
	男性60歳代	29 100.0	12 41.4	6 20.7	8 27.6	6 20.7	10 34.5	-	-	3 10.3	2 6.9	5 17.2	1 3.4	-
	男性70歳以上	29 100.0	6 20.7	4 13.8	4 13.8	5 17.2	2 6.9	-	-	9 31.0	2 6.9	4 13.8	4 13.8	-
	無回答	29 100.0	7 24.1	8 27.6	8 27.6	6 20.7	9 31.0	-	-	5 17.2	1 3.4	5 17.2	4 13.8	-

図表144 参加していない理由（男女・年代別）

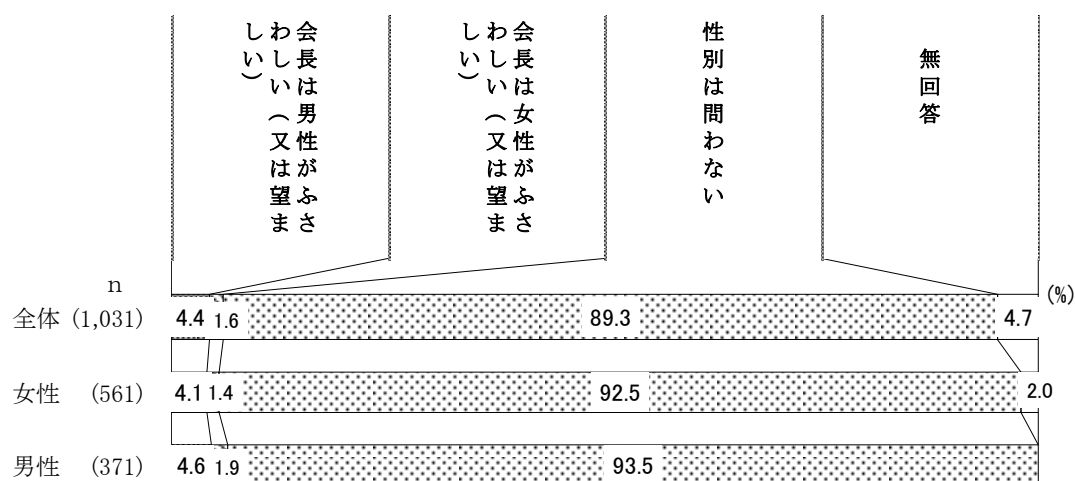
○男女・年代別の傾向

「どのような活動があるのか分からない」が女性30歳代では60.0%と高くなっており、男性10・20歳代では48.7%となっています。また、「時間的余裕がない」が男性40歳代では59.2%と高くなっており、女性40歳代では54.7%高くなっています。また、「関心がない」が男性30歳代・40歳代では30%以上と高くなっています。

## 問17 地域活動の会長の性別

あなたの住んでいる地域では、町会・自治会やPTAなどの地域活動における会長の性別について、どちらがふさわしい（又は望ましい）と思いますか。（それぞれ○は1つ）

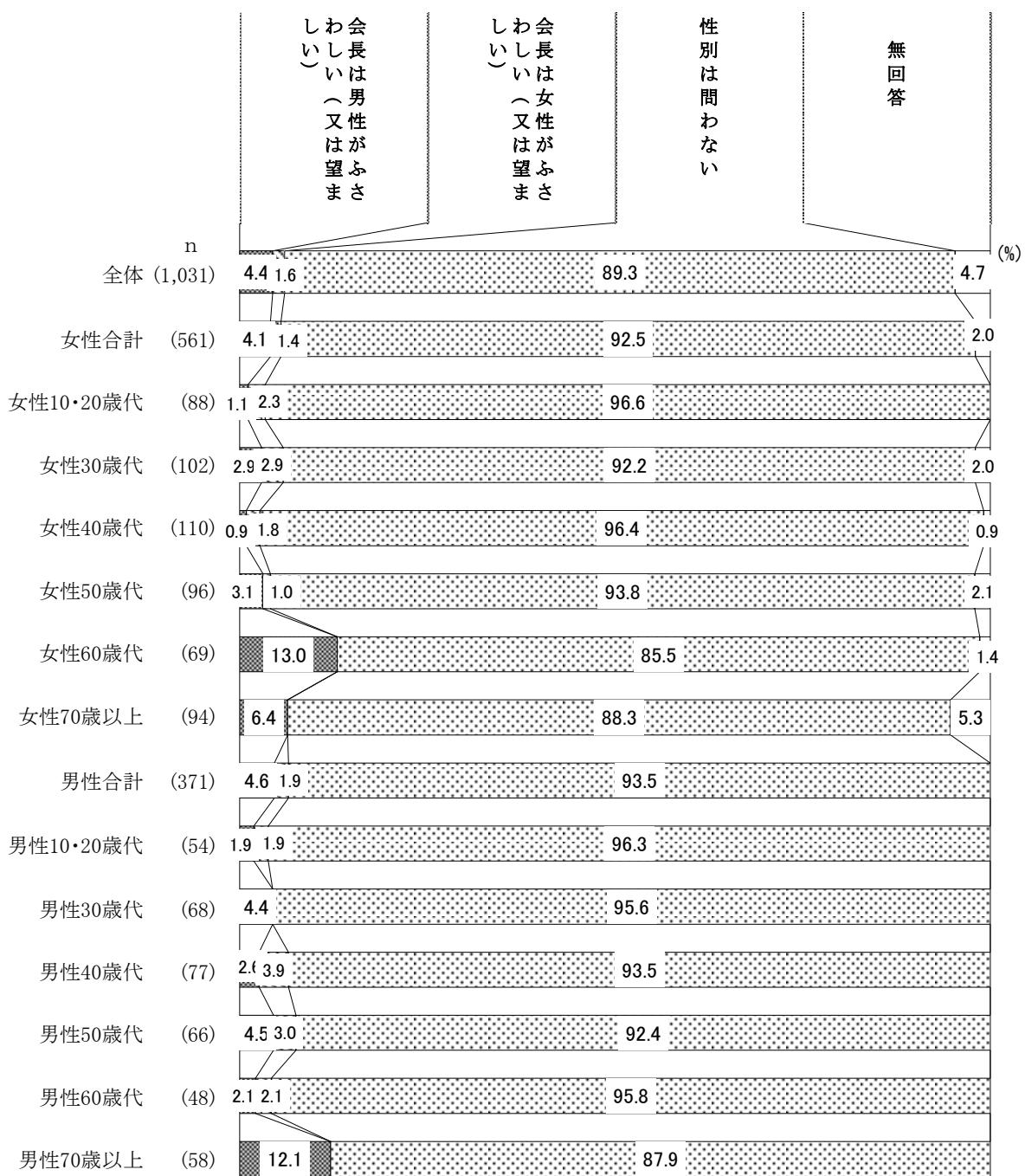
### ①町会・自治会



図表147 地域活動の会長の性別 ①町会・自治会

### ○全体の傾向

「性別は問わない」が89.3%と最も高くなっています。男女間で差はほとんどありません。



図表148 地域活動の会長の性別 ①町会・自治会（男女・年代別）

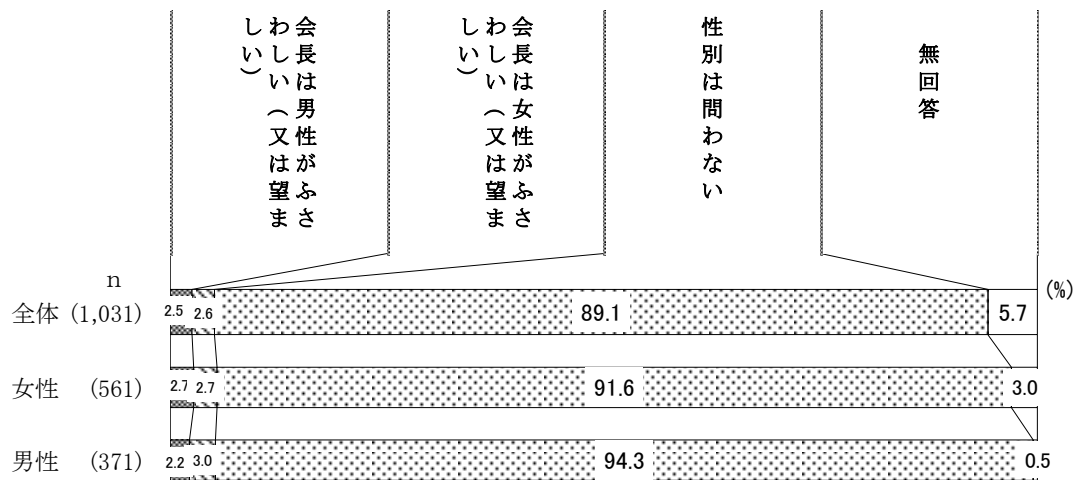
○男女・年代別の傾向

「会長は男性がふさわしい(又は望ましい)」では、女性60歳代、男性70歳以上が1割以上と高くなっています。

また、「性別は問わない」では、男女全年代が9割前後以上となっています。



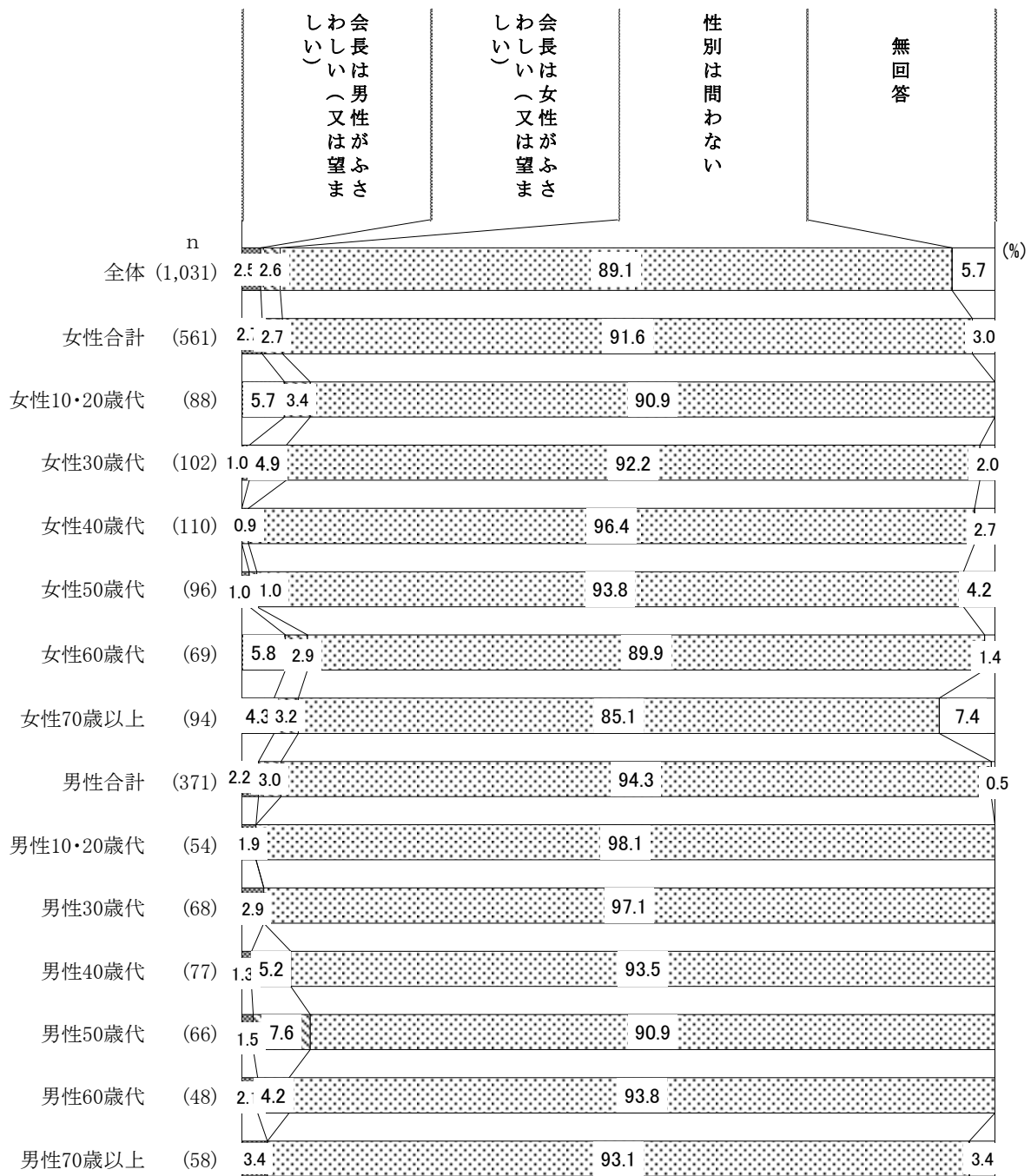
②小・中学校のPTA



図表149 地域活動の会長の性別 ②小・中学校のPTA

○全体の傾向

「性別は問わない」が89.1%と最も高くなっています。男女間で差はほとんどありません。



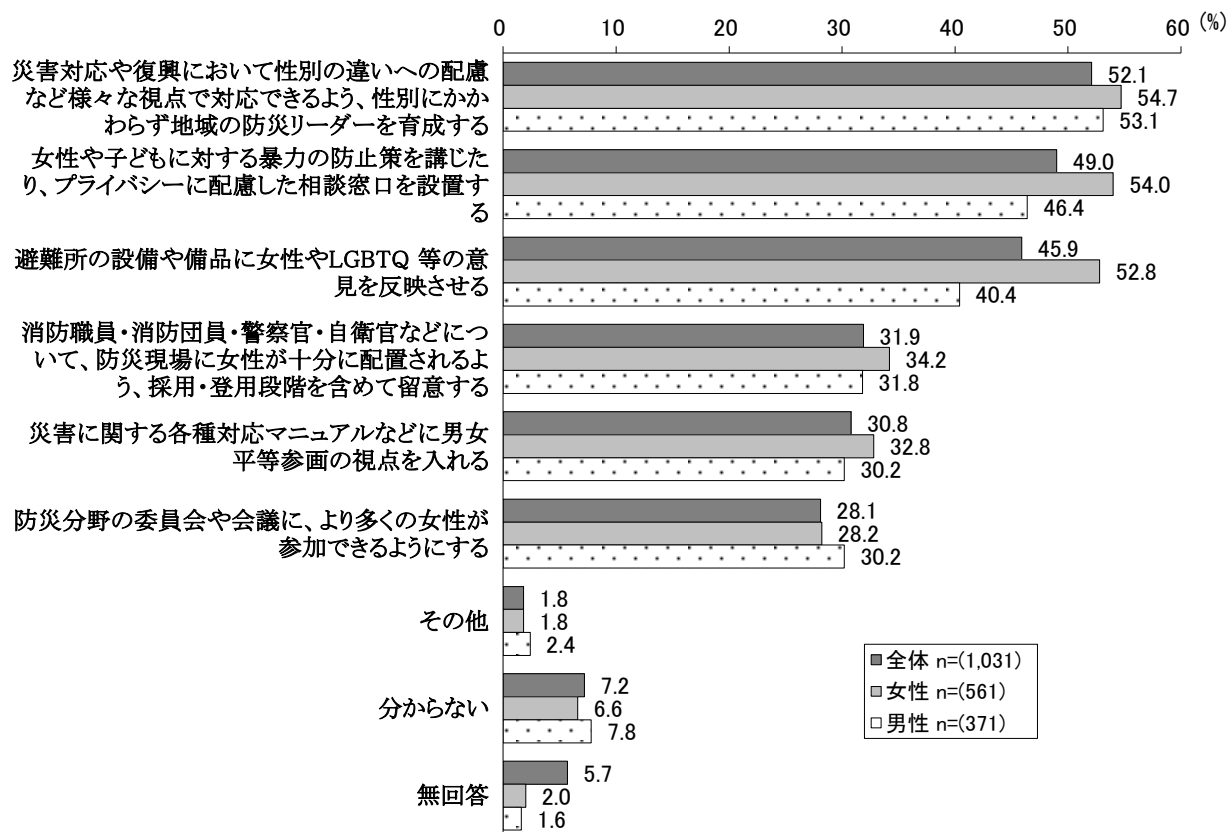
図表150 地域活動の会長の性別 ②小・中学校のPTA（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「会長は女性がふさわしい（又は望ましい）」では男性50歳代が7.6%と高くなっています。また、全年齢の男女で「性別は問わない」が8割以上を占めています。

## 問18 防災対応として重要なこと

あなたは災害時に備えた男女双方の視点を取り入れた防災対応として、どのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)



図表151 防災対応として重要なこと

### ○全体の傾向

「災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」が52.1%と最も高くなっています。次いで、「女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」が49.0%となっております。

### ○男女別の傾向

「避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる」が女性では52.8%、男性では40.4%と、女性の方が男性よりも12.4ポイント高くなっています。

	全体	女性や子どもに対する暴力の防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する	防災分野の委員会や会議に、より多くの女性が参加できるようにする	災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を入れる	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	避難所の設備や備品に女性やLGBTQ等の意見を反映させる	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	505 49.0	290 28.1	537 52.1	318 30.8	329 31.9	473 45.9	19 1.8	74 7.2	59 5.7	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	303 54.0	158 28.2	307 54.7	184 32.8	192 34.2	296 52.8	10 1.8	37 6.6	11 2.0
	女性10・20歳代	88 100.0	50 56.8	32 36.4	48 54.5	31 35.2	35 39.8	39 44.3	-	10 11.4	-
	女性30歳代	102 100.0	67 65.7	27 26.5	55 53.9	30 29.4	32 31.4	64 62.7	1 1.0	5 4.9	1 1.0
	女性40歳代	110 100.0	63 57.3	35 31.8	64 58.2	30 27.3	39 35.5	63 57.3	-	5 4.5	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	54 56.3	30 31.3	55 57.3	38 39.6	34 35.4	57 59.4	4 4.2	3 3.1	-
	女性60歳代	69 100.0	33 47.8	10 14.5	38 55.1	23 33.3	21 30.4	35 50.7	3 4.3	5 7.2	-
	女性70歳以上	94 100.0	35 37.2	23 24.5	45 47.9	32 34.0	30 31.9	37 39.4	2 2.1	9 9.6	9 9.6
	男性合計	371 100.0	172 46.4	112 30.2	197 53.1	112 30.2	118 31.8	150 40.4	9 2.4	29 7.8	6 1.6
	男性10・20歳代	54 100.0	30 55.6	14 25.9	25 46.3	21 38.9	13 24.1	20 37.0	1 1.9	4 7.4	-
	男性30歳代	68 100.0	33 48.5	16 23.5	41 60.3	16 23.5	21 30.9	25 36.8	3 4.4	7 10.3	-
	男性40歳代	77 100.0	43 55.8	30 39.0	40 51.9	18 23.4	27 35.1	33 42.9	3 3.9	7 9.1	-
	男性50歳代	66 100.0	32 48.5	22 33.3	34 51.5	24 36.4	20 30.3	29 43.9	1 1.5	3 4.5	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	19 39.6	16 33.3	26 54.2	16 33.3	17 35.4	22 45.8	1 2.1	3 6.3	-
	男性70歳以上	58 100.0	15 25.9	14 24.1	31 53.4	17 29.3	20 34.5	21 36.2	-	5 8.6	4 6.9
	無回答	99 100.0	30 30.3	20 20.2	33 33.3	22 22.2	19 19.2	27 27.3	-	8 8.1	42 42.4

図表152 男女双方の視点を取り入れた防災対応として重要なこと（男女・年代別）

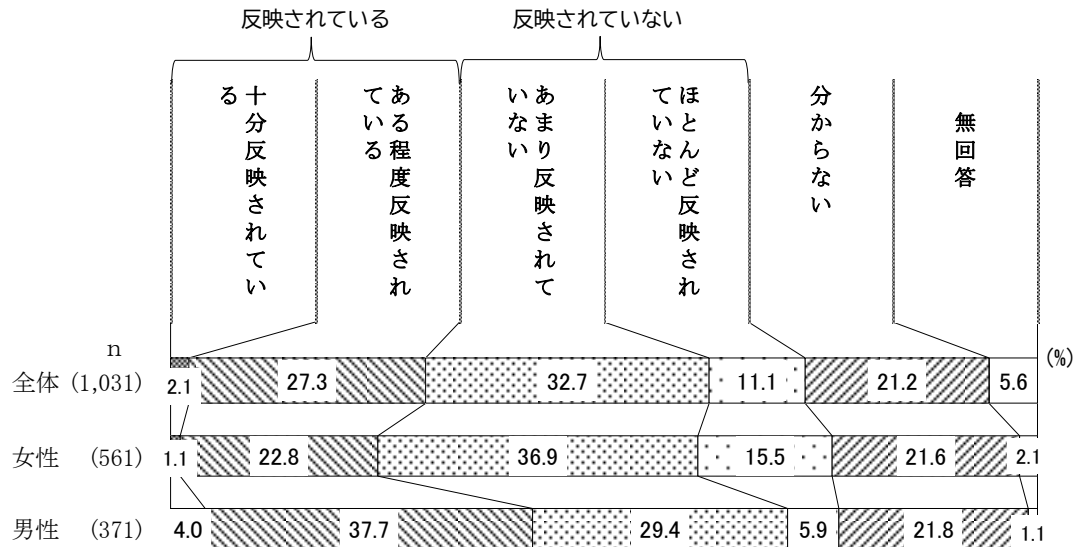
### ○男女・年代別の傾向

「女性や子どもに対する防止策を講じたり、プライバシーに配慮した相談窓口を設置する」では女性30歳代が65.7%と高くなっています。「災害対応や復興において性別の違いへの配慮など様々な視点で対応できるよう、性別にかかわらず地域の防災リーダーを育成する」では男性30歳代が60.3%と高くなっています。

## 8 政策決定過程への女性の参画について

### 問19 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

あなたは、女性の意見が国や自治体の行政にどの程度反映されていると思いますか。(○は1つ)



図表154 女性の意見が行政にどの程度反映されているか

#### ○全体の傾向

『反映されている※1』が29.4%、『反映されていない※2』が43.8%となっています。

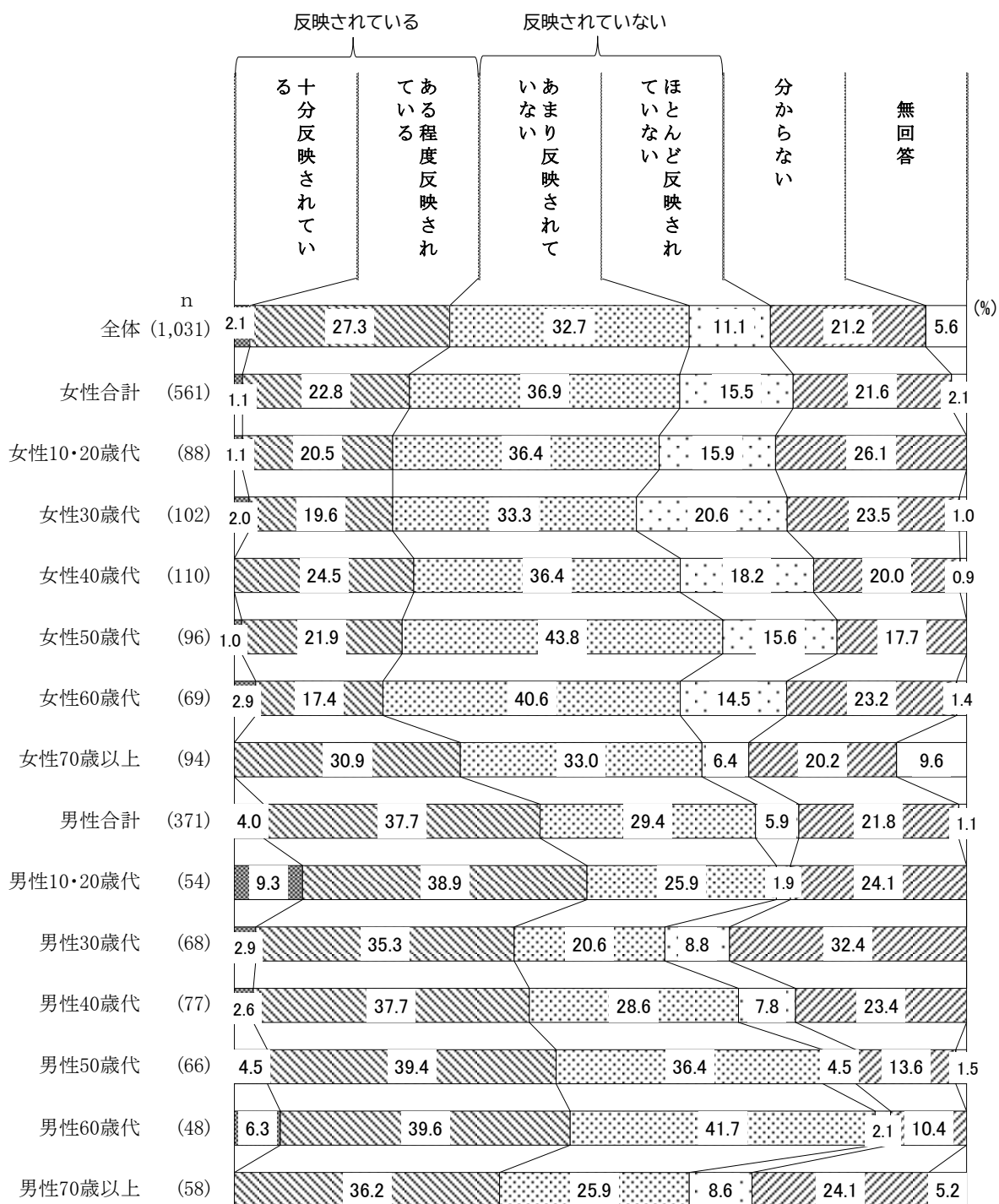
※1 「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計

※2 「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計

#### ○男女別の傾向

女性は『反映されている』が23.9%、『反映されていない』が52.4%となっています。

男性は『反映されている』が41.7%、『反映されていない』が35.3%となっています。



図表155 女性の意見が行政にどの程度反映されているか（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

女性は50歳代では『反映されていない※2』が59.4%と高くなっています。一方、70歳以上は、『反映されている※1』が30.9%となっています。

男性は10・20歳代では『反映されている』が48.2%と最も高くなっています。一方、60歳代では『反映されていない』が43.8%となっています。

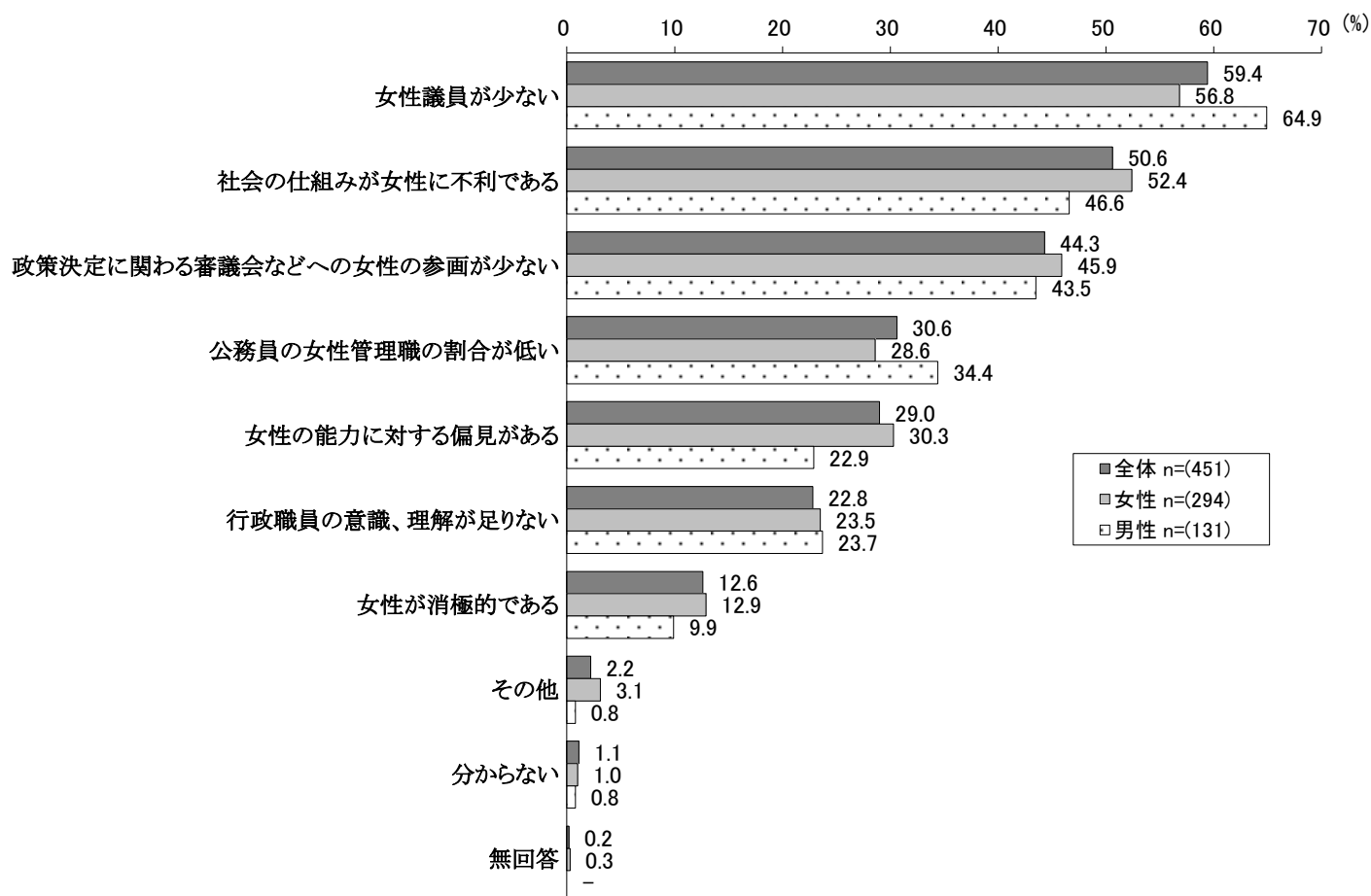
※1 「十分反映されている」と「ある程度反映されている」の合計

※2 「あまり反映されていない」と「ほとんど反映されていない」の合計

## 問19-1 反映されていない理由

【問19で3又は4（『反映されていない』）を選んだ方のみご回答ください】

反映されていない理由は、どのようなことだと思いますか。（〇は3つまで）



図表157 反映されていない理由

### ○全体の傾向

「女性議員が少ない」が59.4%と最も高くなっています。次いで、「社会の仕組みが女性に不利である」が50.6%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「女性議員が少ない」が女性では56.8%、男性では64.9%と男性の方が女性よりも8.1ポイント高くなっています。次いで、「社会の仕組みが女性に不利である」が女性では52.4%、男性では46.6%と女性の方が男性よりも5.8ポイント高くなっています。同じく、「公務員の女性管理職の割合が低い」が女性28.6%、男性34.4%と男性の方が女性よりも5.8ポイント高くなっています。

	全体	女性議員が少ない	公務員の女性管理職の割合が低い	政策決定に関わる審議会などへの女性の参画が少ない	女性が消極的である	行政職員の意識、理解が足りない	社会の仕組みが女性に不利である	女性の能力に対する偏見がある	その他	分からない	無回答	
全体	451 100.0	268 59.4	138 30.6	200 44.3	57 12.6	103 22.8	228 50.6	131 29.0	10 2.2	5 1.1	1 0.2	
性年代別 (男女合計あり)	女性合計	294 100.0	167 56.8	84 28.6	135 45.9	38 12.9	69 23.5	154 52.4	89 30.3	9 3.1	3 1.0	1 0.3
	女性10・20歳代	46 100.0	29 63.0	9 19.6	22 47.8	5 10.9	6 13.0	28 60.9	19 41.3	1 2.2	-	-
	女性30歳代	55 100.0	31 56.4	13 23.6	26 47.3	7 12.7	13 23.6	32 58.2	12 21.8	3 5.5	1 1.8	-
	女性40歳代	60 100.0	33 55.0	20 33.3	24 40.0	8 13.3	15 25.0	34 56.7	17 28.3	2 3.3	1 1.7	-
	女性50歳代	57 100.0	34 59.6	17 29.8	25 43.9	8 14.0	16 28.1	31 54.4	12 21.1	3 5.3	1 1.8	-
	女性60歳代	38 100.0	20 52.6	11 28.9	19 50.0	4 10.5	9 23.7	17 44.7	14 36.8	-	-	1 2.6
	女性70歳以上	37 100.0	19 51.4	13 35.1	18 48.6	6 16.2	10 27.0	12 32.4	15 40.5	-	-	-
	男性合計	131 100.0	85 64.9	45 34.4	57 43.5	13 9.9	31 23.7	61 46.6	30 22.9	1 0.8	1 0.8	-
	男性10・20歳代	15 100.0	8 53.3	4 26.7	8 53.3	2 13.3	4 26.7	10 66.7	1 6.7	-	-	-
	男性30歳代	20 100.0	12 60.0	6 30.0	9 45.0	1 5.0	3 15.0	11 55.0	6 30.0	-	-	-
	男性40歳代	28 100.0	21 75.0	5 17.9	10 35.7	5 17.9	6 21.4	14 50.0	11 39.3	1 3.6	-	-
	男性50歳代	27 100.0	15 55.6	9 33.3	9 33.3	1 3.7	9 33.3	13 48.1	4 14.8	-	1 3.7	-
	男性60歳代	21 100.0	13 61.9	10 47.6	14 66.7	2 9.5	6 28.6	7 33.3	4 19.0	-	-	-
	男性70歳以上	20 100.0	16 80.0	11 55.0	7 35.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	4 20.0	-	-	-
	無回答	26 100.0	16 61.5	9 34.6	8 30.8	6 23.1	3 11.5	13 50.0	12 46.2	-	1 3.8	-

図表158 反映されていない理由（男女・年代別）

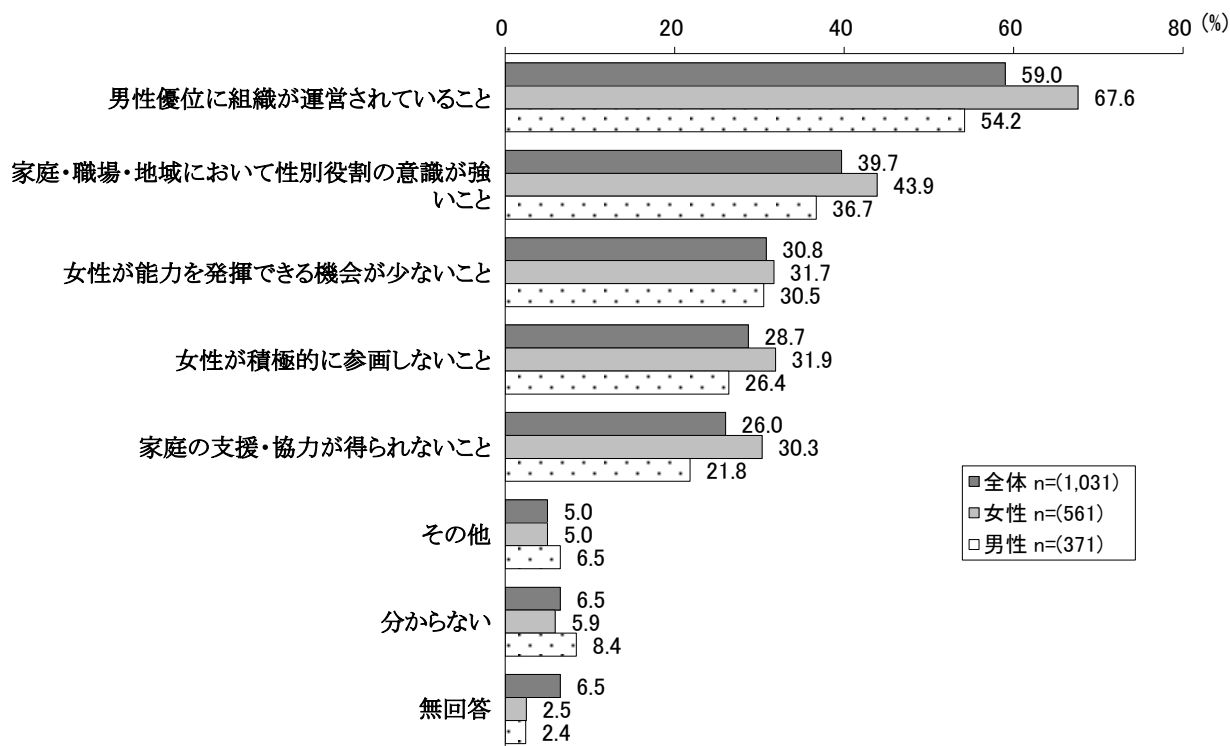
○男女・年代別の傾向

男女ともに「女性議員が少ない」が高く、男性70歳以上では80.0%と最も高くなっています。女性10・20歳代では63.0%と高くなっています。次いで、「社会の仕組みが女性に不利である」が高く、男性10・20歳代では66.7%と最も高くなっています。女性10・20歳代では60.9%と高くなっています。



## 問20 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

あなたは、政治の場や仕事の場において、政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因は、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



図表161 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因

### ○全体の傾向

「男性優位に組織が運営されていること」が59.0%と最も高くなっています。次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が39.7%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「男性優位に組織が運営されていること」が女性では67.6%、男性では54.2%と、13.4ポイント高くなっています。次いで、「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」が女性では43.9%、男性では36.7%と、7.2ポイント高くなっています。

	全体	家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと	男性優位に組織が運営されていること	家庭の支援・協力が得られないこと	女性が能力を発揮できる機会が少ないこと	女性が積極的に参画しないこと	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	409 39.7	608 59.0	268 26.0	318 30.8	296 28.7	52 5.0	67 6.5	67 6.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	246 43.9	379 67.6	170 30.3	178 31.7	179 31.9	28 5.0	33 5.9	14 2.5
	女性10・20歳代	88 100.0	49 55.7	54 61.4	19 21.6	24 27.3	18 20.5	3 3.4	9 10.2	- -
	女性30歳代	102 100.0	46 45.1	69 67.6	36 35.3	21 20.6	34 33.3	7 6.9	5 4.9	4 3.9
	女性40歳代	110 100.0	44 40.0	81 73.6	30 27.3	34 30.9	34 30.9	9 8.2	5 4.5	2 1.8
	女性50歳代	96 100.0	39 40.6	70 72.9	34 35.4	32 33.3	38 39.6	4 4.2	2 2.1	2 2.1
	女性60歳代	69 100.0	34 49.3	46 66.7	29 42.0	25 36.2	24 34.8	3 4.3	2 2.9	- -
	女性70歳以上	94 100.0	33 35.1	58 61.7	22 23.4	41 43.6	30 31.9	2 2.1	10 10.6	6 6.4
	男性合計	371 100.0	136 36.7	201 54.2	81 21.8	113 30.5	98 26.4	24 6.5	31 8.4	9 2.4
	男性10・20歳代	54 100.0	24 44.4	21 38.9	11 20.4	13 24.1	12 22.2	6 11.1	6 11.1	1 1.9
	男性30歳代	68 100.0	31 45.6	32 47.1	19 27.9	14 20.6	18 26.5	6 8.8	7 10.3	- -
	男性40歳代	77 100.0	31 40.3	43 55.8	19 24.7	22 28.6	20 26.0	7 9.1	4 5.2	2 2.6
	男性50歳代	66 100.0	16 24.2	40 60.6	10 15.2	24 36.4	16 24.2	5 7.6	7 10.6	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	19 39.6	28 58.3	10 20.8	18 37.5	15 31.3	- -	3 6.3	2 4.2
	男性70歳以上	58 100.0	15 25.9	37 63.8	12 20.7	22 37.9	17 29.3	- -	4 6.9	2 3.4
	無回答	99 100.0	27 27.3	28 28.3	17 17.2	27 27.3	19 19.2	- -	3 3.0	44 44.4

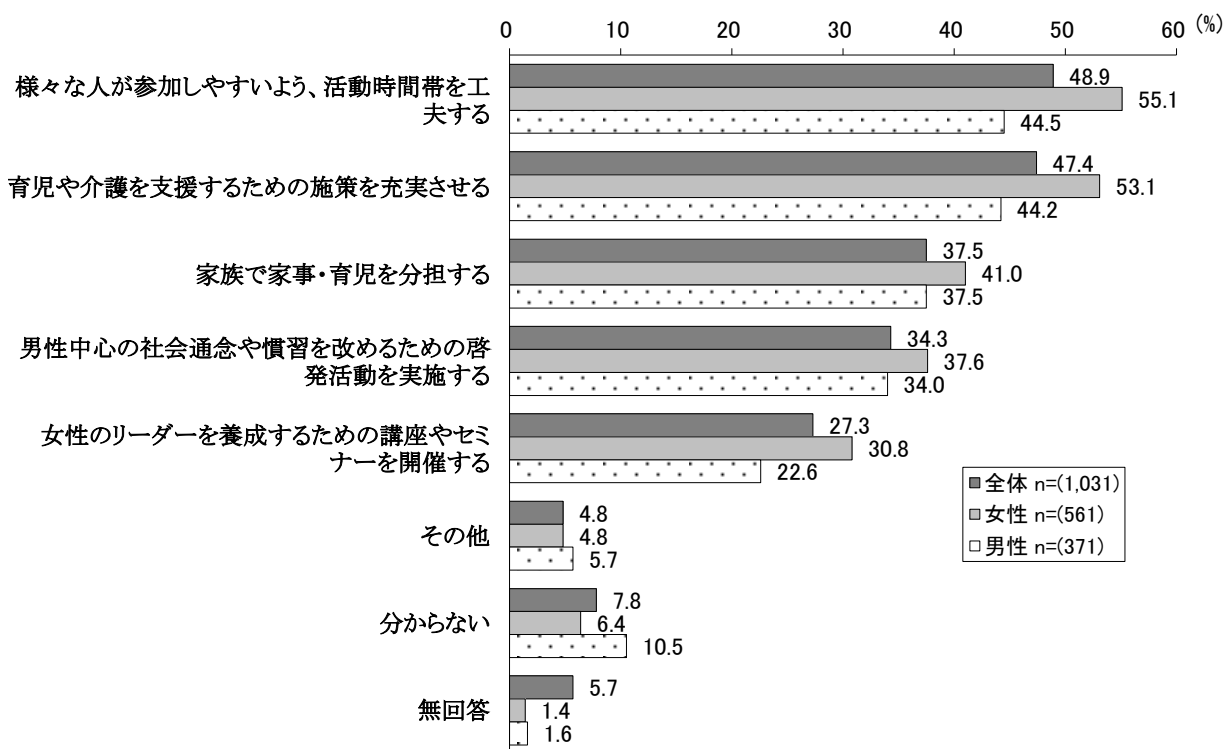
図表162 政策や方針決定の過程に女性があまり進出していない原因（男女・年代別）

### ○男女・年代別の傾向

男女ともに「男性優位に組織が運営されていること」が高く、女性40歳代では73.6%、男性70歳以上では63.8%と高くなっています。「家庭・職場・地域において性別役割の意識が強いこと」では女性10・20歳代が55.7%と高くなっています。

## 問21 女性リーダーの比率を増やすための方策

あなたは、地域活動における女性リーダーを増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



図表164 女性リーダーの比率を増やすための方策

### ○全体の傾向

「様々な人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が48.9%と最も高くなっています。次いで、「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が47.4%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「様々な人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が女性では55.1%、男性では44.5%と女性の方が男性よりも10.6ポイント高くなっています。次いで、「育児や介護を支援するための施策を充実させる」が女性では53.1%、男性では44.2%と女性の方が男性よりも8.9ポイント高くなっています。

	全体	男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する	女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する	育児や介護を支援するための施策を充実させる	家族で家事・育児を分担する	様々な人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	354 34.3	281 27.3	489 47.4	387 37.5	504 48.9	49 4.8	80 7.8	59 5.7	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	211 37.6	173 30.8	298 53.1	230 41.0	309 55.1	27 4.8	36 6.4	8 1.4
	女性10-20歳代	88 100.0	31 35.2	19 21.6	47 53.4	47 53.4	43 48.9	2 2.3	9 10.2	-
	女性30歳代	102 100.0	36 35.3	29 28.4	65 63.7	53 52.0	56 54.9	5 4.9	6 5.9	1 1.0
	女性40歳代	110 100.0	48 43.6	30 27.3	50 45.5	54 49.1	63 57.3	7 6.4	11 10.0	-
	女性50歳代	96 100.0	43 44.8	35 36.5	52 54.2	26 27.1	60 62.5	7 7.3	3 3.1	-
	女性60歳代	69 100.0	23 33.3	26 37.7	39 56.5	24 34.8	37 53.6	4 5.8	1 1.4	-
	女性70歳以上	94 100.0	30 31.9	33 35.1	44 46.8	24 25.5	48 51.1	2 2.1	6 6.4	7 7.4
	男性合計	371 100.0	126 34.0	84 22.6	164 44.2	139 37.5	165 44.5	21 5.7	39 10.5	6 1.6
	男性10-20歳代	54 100.0	14 25.9	15 27.8	24 44.4	26 48.1	19 35.2	1 1.9	7 13.0	1 1.9
	男性30歳代	68 100.0	24 35.3	14 20.6	34 50.0	36 52.9	36 52.9	7 10.3	6 8.8	-
	男性40歳代	77 100.0	21 27.3	12 15.6	36 46.8	32 41.6	37 48.1	5 6.5	8 10.4	1 1.3
	男性50歳代	66 100.0	25 37.9	14 21.2	24 36.4	20 30.3	25 37.9	6 9.1	8 12.1	1 1.5
	男性60歳代	48 100.0	20 41.7	11 22.9	22 45.8	15 31.3	19 39.6	1 2.1	6 12.5	-
	男性70歳以上	58 100.0	22 37.9	18 31.0	24 41.4	10 17.2	29 50.0	1 1.7	4 6.9	3 5.2
	無回答	99 100.0	17 17.2	24 24.2	27 27.3	18 18.2	30 30.3	1 1.0	5 5.1	45 45.5

図表165 女性リーダーの比率を増やすための方策（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「様々な人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」では、女性40～50歳代が6割前後と高くなっています。

「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」では、女性40～50歳代、男性60歳代が4割台と高くなっています。

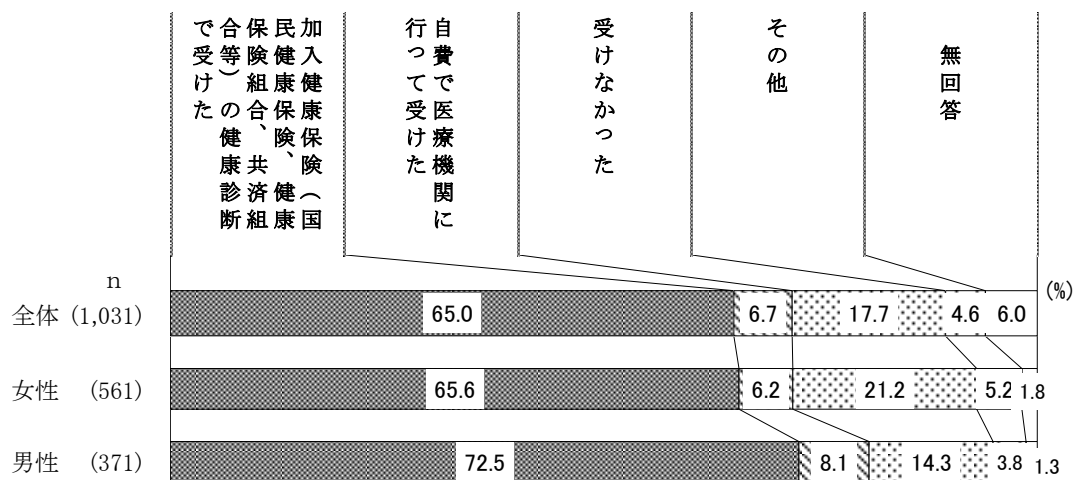
「育児や介護を支援するための施策を充実させる」では、女性30歳代が63.7%と最も高くなっています。

「家族で家事・育児を分担する」では、女性10～40歳代、男性10～30歳代が5割前後と高くなっています。

## 9 健康について

### 問22 この1年間の健康診断受診状況

からだの健康についてお聞きします。あなたは、最近1年間にどこかで健康診断を受けましたか。(○は1つ)



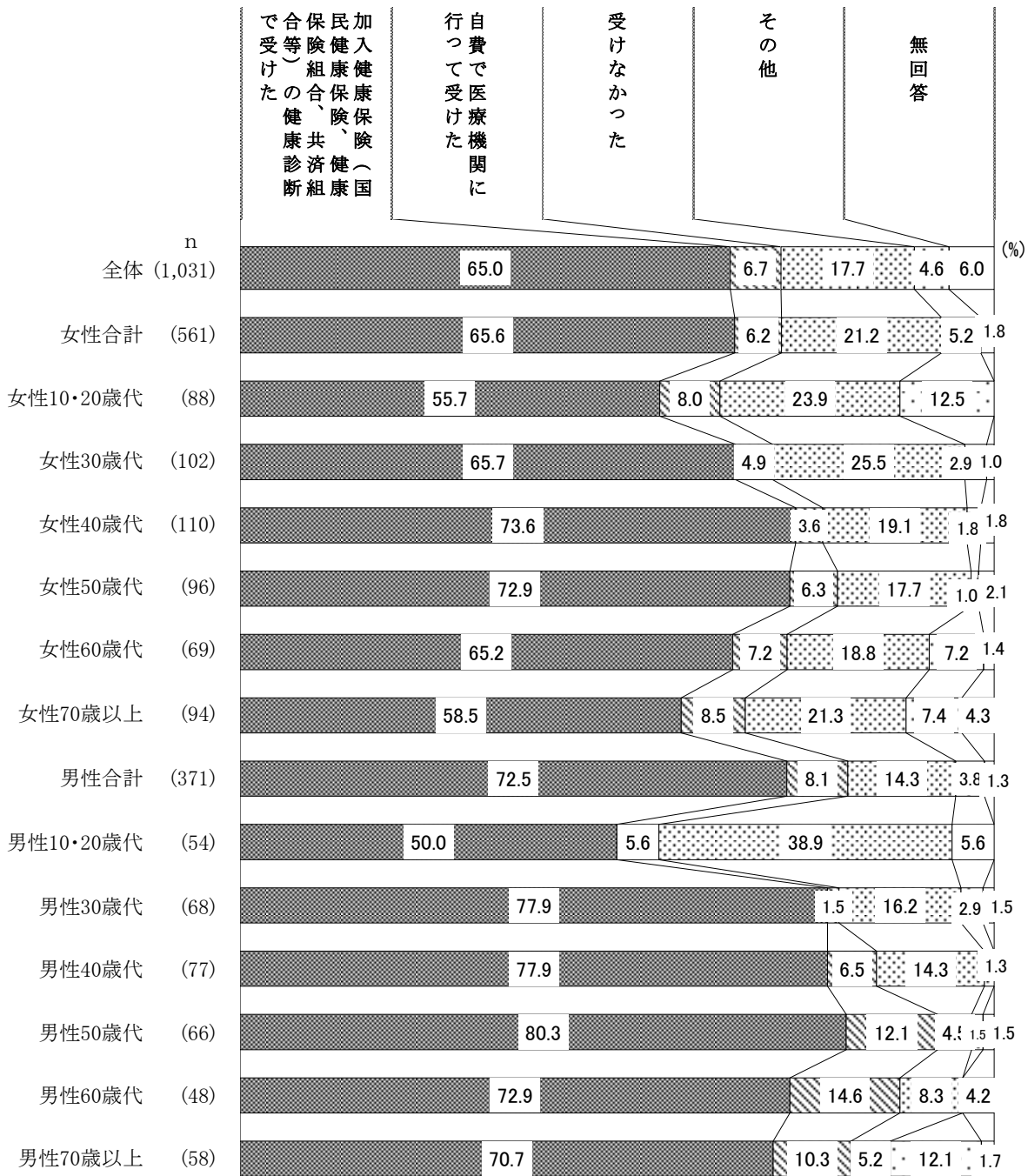
図表166 この1年間の健康診断受診状況

#### ○全体の傾向

「加入健康保険(国民健康保険、健康保険組合、共済組合等)の健康診断で受けた」が65.0%と最も高くなっています。次いで、「受けなかった」が17.7%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「加入健康保険(国民健康保険、健康保険組合、共済組合等)の健康診断で受けた」が女性では65.6%、男性では72.5%と男性の方が女性よりも6.9ポイント高くなっています。



図表167 この1年間の健康診断受診状況(男女・年代別)

### ○男女・年代別の傾向

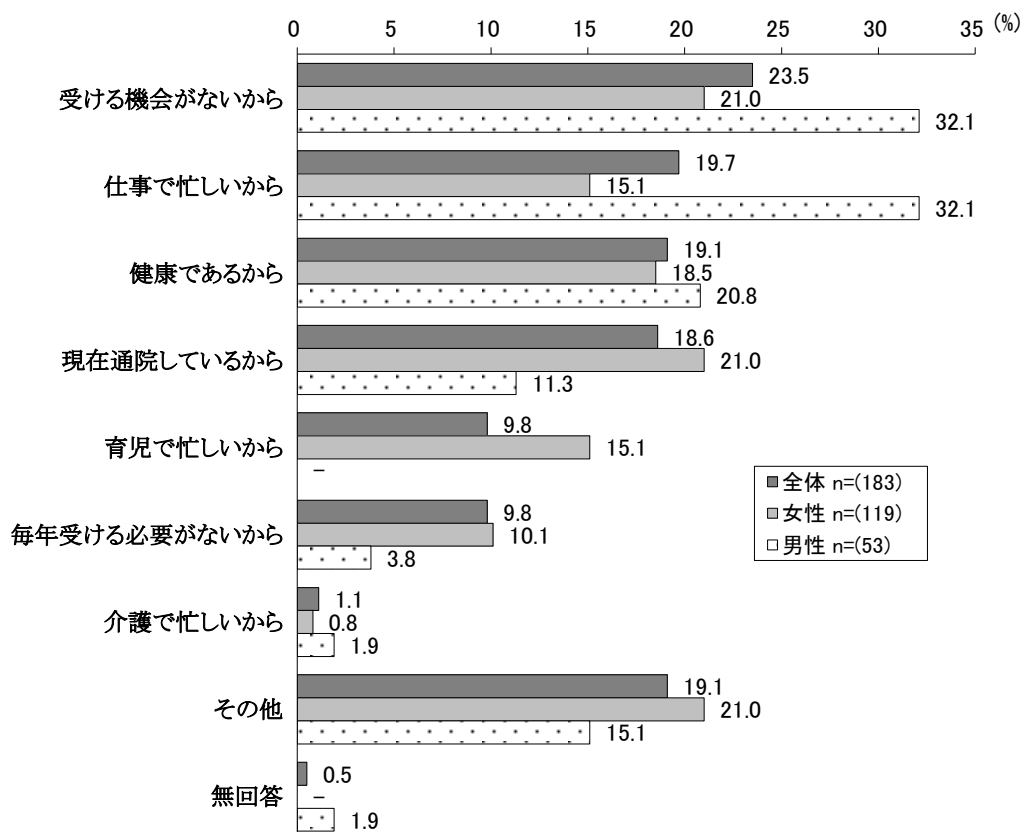
男女ともに「加入健康保険(国民健康保険、健康保険組合、共済組合等)の健康診断で受けた」が高く、男性50歳代では80.3%と最も高くなっています。女性40歳代では73.6%となっています。

一方、男性10・20歳代では「加入健康保険(国民健康保険、健康保険組合、共済組合等)の健康診断で受けた」が50.0%と男性全体よりも22.5ポイント低くなっています。

## 問22-1 受けなかった理由

【問22で「3（受けなかった）」を選んだ方のみご回答ください】

受けなかった理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）



図表170 受けなかった理由

### ○全体の傾向

「受ける機会がないから」が23.5%と最も高くなっています。次いで、「仕事で忙しいから」が19.7%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「仕事で忙しいから」が女性では15.1%、男性では32.1%と男性の方が女性よりも17ポイント高くなっています。次いで、「受ける機会がないから」が女性では21.0%、男性では32.1%と男性の方が女性よりも11.1ポイント高くなっています。

		健康であるから	仕事で忙しいから	育児で忙しいから	介護で忙しいから	現在通院しているから	毎年受ける必要がないから	受ける機会がないから	その他	無回答	
全体	183 100.0	35 19.1	36 19.7	18 9.8	2 1.1	34 18.6	18 9.8	43 23.5	35 19.1	1 0.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	119 100.0	22 18.5	18 15.1	18 15.1	1 0.8	25 21.0	12 10.1	25 21.0	25 21.0	-
	女性10・20歳代	21 100.0	4 19.0	2 9.5	2 9.5	-	-	-	9 42.9	5 23.8	-
	女性30歳代	26 100.0	3 11.5	5 19.2	11 42.3	-	2 7.7	-	13 50.0	3 11.5	-
	女性40歳代	21 100.0	9 42.9	3 14.3	4 19.0	-	-	1 4.8	2 9.5	7 33.3	-
	女性50歳代	17 100.0	3 17.6	4 23.5	1 5.9	-	6 35.3	3 17.6	-	3 17.6	-
	女性60歳代	13 100.0	-	2 15.4	-	-	5 38.5	4 30.8	-	3 23.1	-
	女性70歳以上	20 100.0	3 15.0	1 5.0	-	1 5.0	12 60.0	4 20.0	1 5.0	4 20.0	-
	男性合計	53 100.0	11 20.8	17 32.1	-	1 1.9	6 11.3	2 3.8	17 32.1	8 15.1	1 1.9
	男性10・20歳代	21 100.0	7 33.3	3 14.3	-	1 4.8	-	-	10 47.6	5 23.8	-
	男性30歳代	11 100.0	1 9.1	4 36.4	-	-	-	-	6 54.5	-	-
	男性40歳代	11 100.0	2 18.2	7 63.6	-	-	2 18.2	2 18.2	1 9.1	1 9.1	-
	男性50歳代	3 100.0	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-
	男性60歳代	4 100.0	-	1 25.0	-	-	2 50.0	-	-	-	1 25.0
	男性70歳以上	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-
無回答	11 100.0	2 18.2	1 9.1	-	-	3 27.3	4 36.4	1 9.1	2 18.2	-	

図表171 受けなかった理由（男女・年代別）

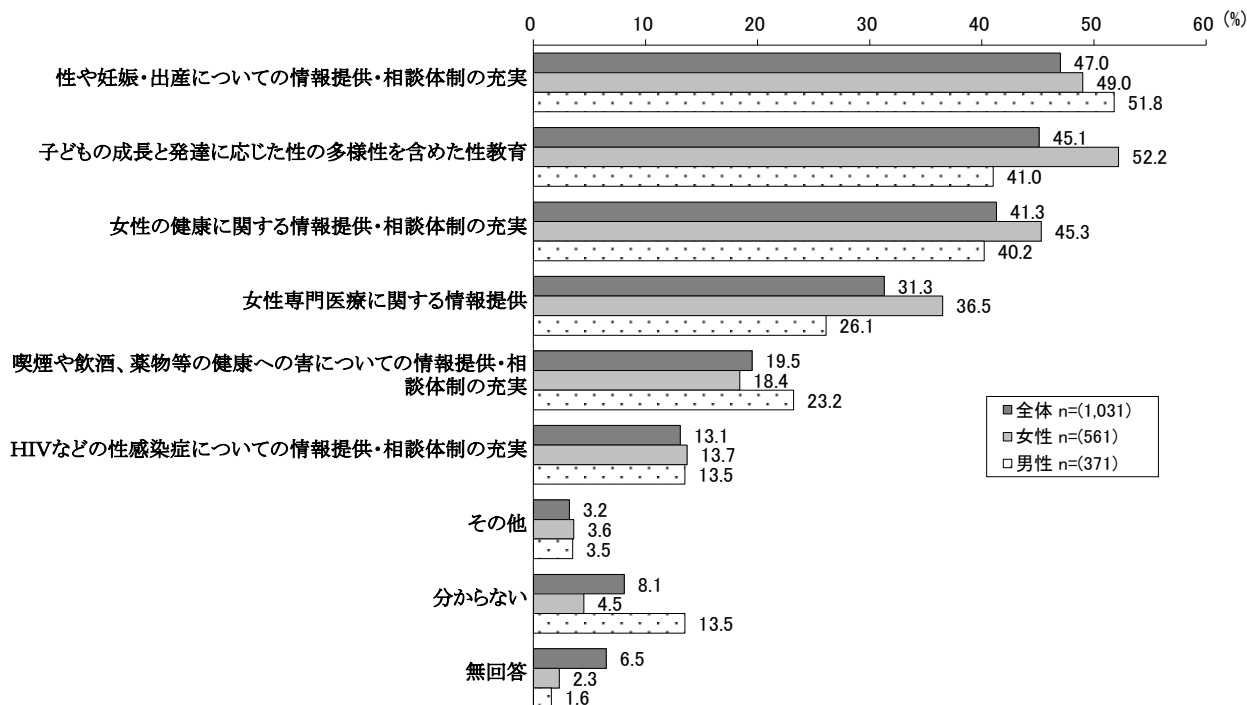
○男女・年代別の傾向

「受ける機会がないから」が男性30歳代では54.5%と高くなっています。次いで、女性30歳代では50.0%と高くなっています。



## 問23 女性が性や妊娠・出産に関して自分で決める上で必要なこと

女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関して自分の意志で決める上で、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



図表172 女性が性や妊娠・出産に関して自分で決める上で必要なこと

### ○全体の傾向

「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が47.0%と最も高くなっています。次いで、「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」が45.1%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育」が女性では52.2%、男性では41.0%と女性の方が男性よりも11.2ポイント高くなっています。次いで、「女性専門医療に関する情報提供」が女性では36.5%、男性では26.1%と女性の方が男性よりも10.4ポイント高くなっています。

	全体	子どもの成長と発達に応じた性の多様性を含めた性教育	性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	喫煙や飲酒、薬物等の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	HIVなどの性感染症についての情報提供・相談体制の充実	女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実	女性専門医療に関する情報提供	その他	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	465 45.1	485 47.0	201 19.5	135 13.1	426 41.3	323 31.3	33 3.2	83 8.1	67 6.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	293 52.2	275 49.0	103 18.4	77 13.7	254 36.5	205 3.6	25 4.5	13 2.3	
	女性10・20歳代	88 100.0	58 65.9	62 70.5	7 8.0	21 23.9	26 29.5	23 26.1	3 3.4	5 5.7	
	女性30歳代	102 100.0	74 72.5	62 60.8	8 7.8	19 18.6	44 43.1	38 37.3	5 4.9	2 2.0	
	女性40歳代	110 100.0	66 60.0	55 50.0	22 20.0	7 6.4	49 44.5	39 35.5	4 3.6	2 1.8	
	女性50歳代	96 100.0	39 40.6	40 41.7	16 16.7	8 8.3	56 58.3	36 37.5	7 7.3	7 7.3	
	女性60歳代	69 100.0	27 39.1	30 43.5	16 23.2	10 14.5	37 53.6	32 46.4	1 1.4	1 1.4	
	女性70歳以上	94 100.0	28 29.8	26 27.7	34 36.2	12 12.8	41 43.6	36 38.3	- -	7 7.4	10 10.6
	男性合計	371 100.0	152 41.0	192 51.8	86 23.2	50 13.5	149 40.2	97 26.1	13 3.5	50 13.5	6 1.6
	男性10・20歳代	54 100.0	31 57.4	29 53.7	13 24.1	13 24.1	22 40.7	10 18.5	1 1.9	5 9.3	- -
	男性30歳代	68 100.0	34 50.0	39 57.4	13 19.1	10 14.7	26 38.2	17 25.0	4 5.9	7 10.3	- -
	男性40歳代	77 100.0	36 46.8	44 57.1	15 19.5	11 14.3	29 37.7	24 31.2	3 3.9	11 14.3	- -
	男性50歳代	66 100.0	21 31.8	32 48.5	15 22.7	8 12.1	31 47.0	17 25.8	3 4.5	9 13.6	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	17 35.4	26 54.2	19 39.6	5 10.4	22 45.8	12 25.0	- -	4 8.3	- -
	男性70歳以上	58 100.0	13 22.4	22 37.9	11 19.0	3 5.2	19 32.8	17 29.3	2 3.4	14 24.1	4 6.9
	無回答	99 100.0	20 20.2	18 18.2	12 12.1	8 8.1	23 23.2	21 21.2	- -	8 8.1	48 48.5

図表174 女性が性や妊娠・出産に関して自分で決める上で必要なこと（男女・年代別）

### ○男女・年代別の傾向

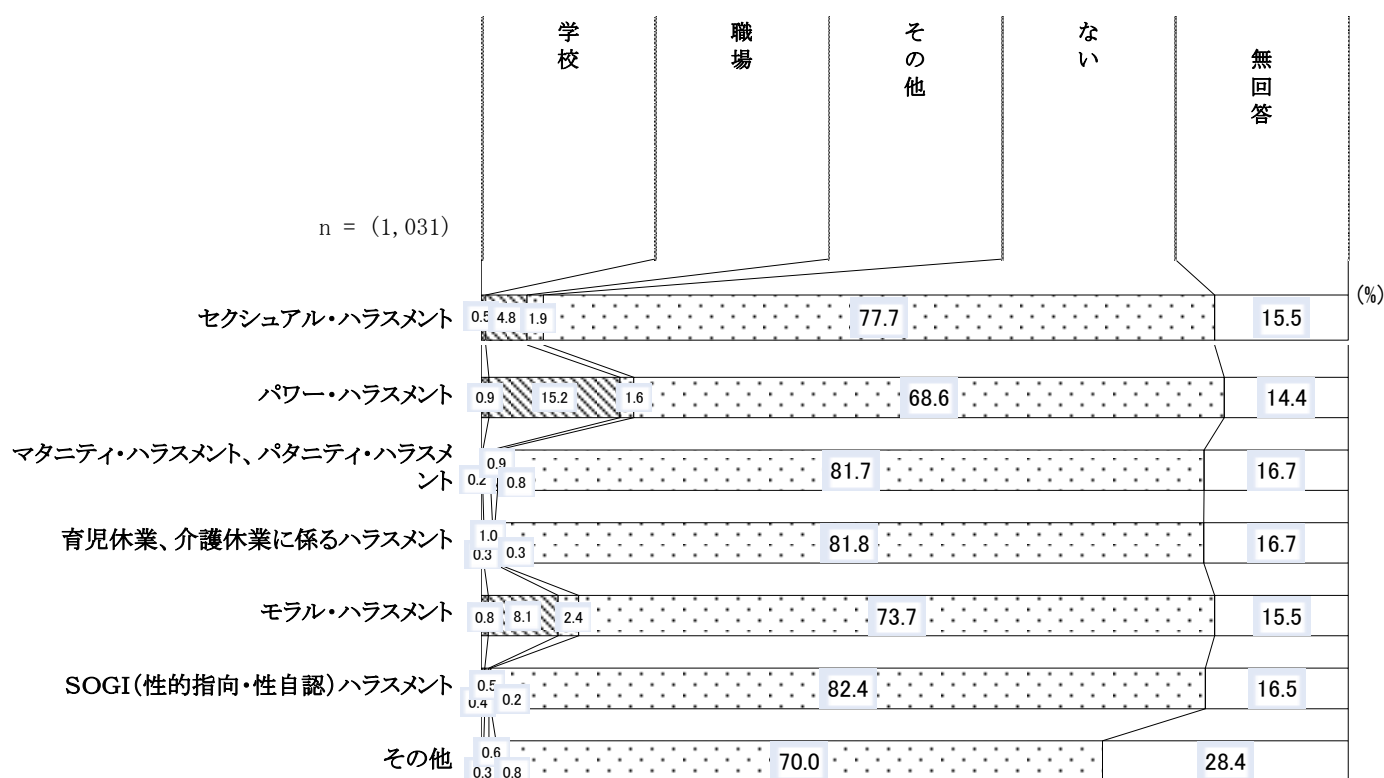
男女とも「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が高く、女性10・20歳代では70.5%と最も高くなっています。男性50歳代では「女性の健康に関する情報提供・相談体制の充実」が47.0%と高くなっています。

## 10 人権問題について

### 問24 各種ハラスメントを受けた経験

あなたは、ここ3年以内に次のハラスメントを受けた経験がありますか。(〇はいくつでも)

#### 《受けた場所》



図表176 各種ハラスメントを受けた経験

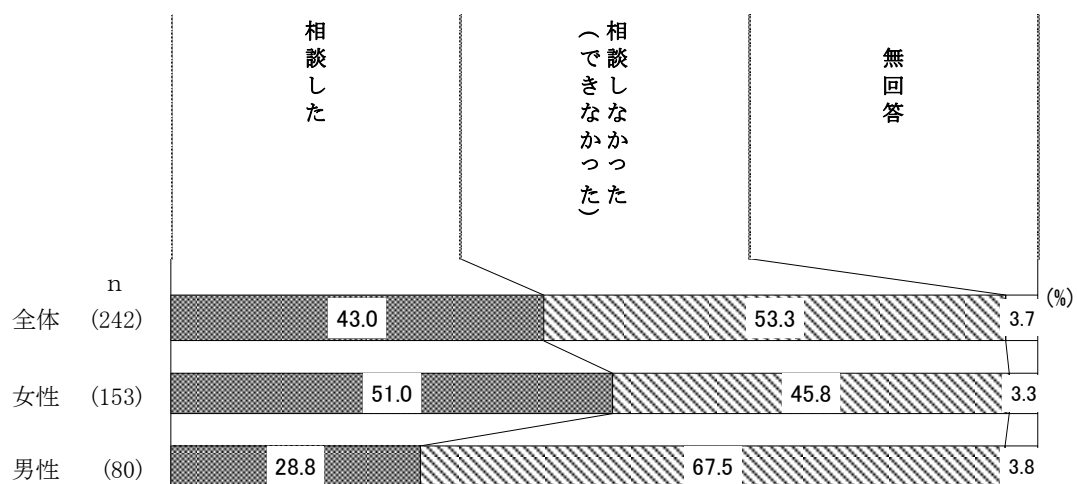
#### ○全体の傾向

全体的には「ない」が7割以上を占めていますが、“パワー・ハラスメント”が「職場」では15.2%と最も高くなっています。次いで、“モラル・ハラスメント”が「職場」では8.1%と高くなっています。

## 問24-1 相談状況

【問24のいずれかのハラスメントを受けたことがある方のみご回答ください】

あなたが受けたハラスメントについて、どなたかに相談したことはありますか。(○は1つ)



図表198 相談の有無

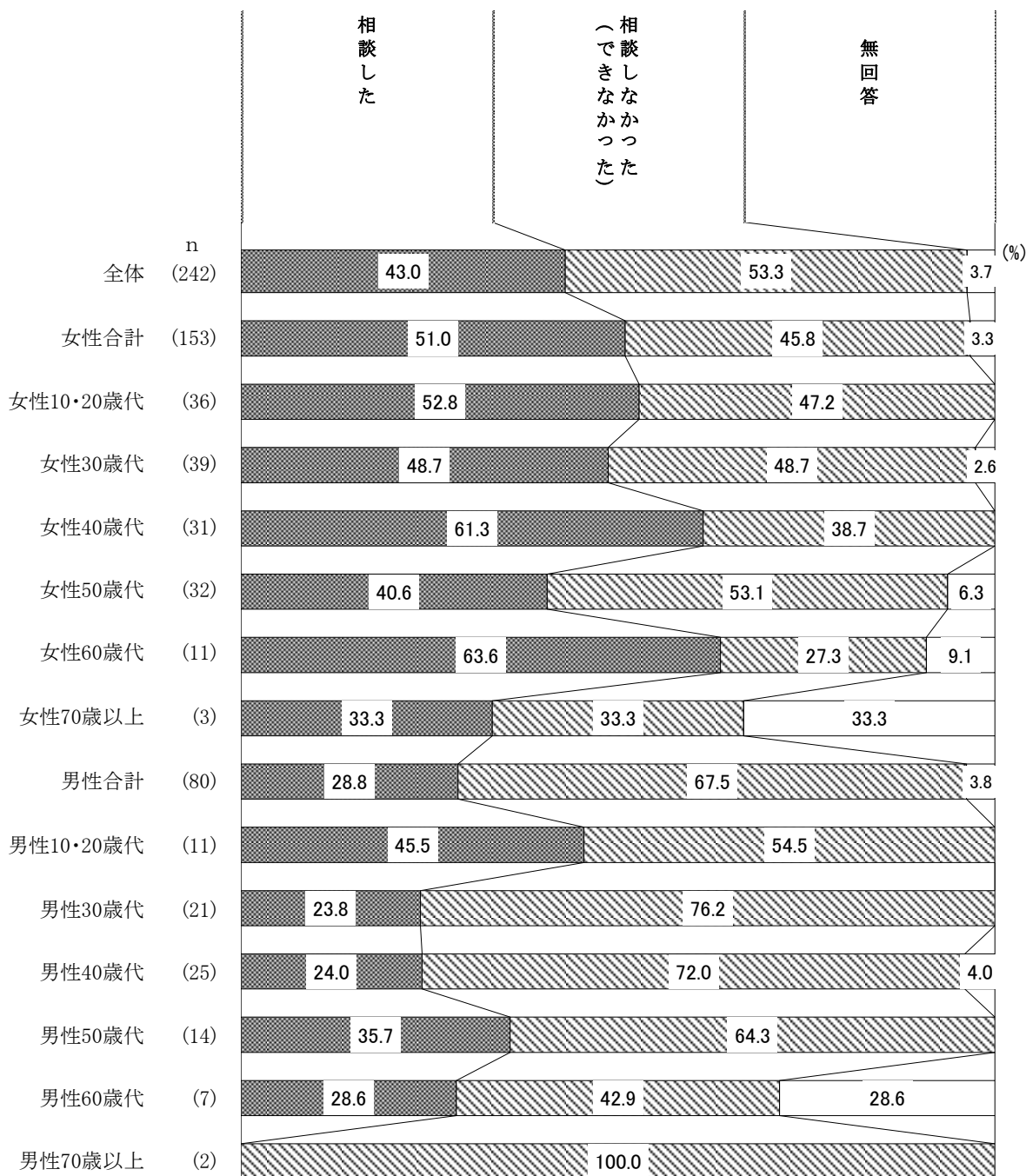
### ○全体の傾向

「相談しなかった(できなかった)」が53.3%と最も高くなっています。一方、「相談した」が43.0%となっています。

### ○男女別の傾向

「相談しなかった(できなかった)」では、女性が45.8%、男性が67.5%と男性の方が女性よりも21.7ポイント高くなっています。

一方、「相談した」では、女性が51.0%、男性が28.8%と22.2ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。



図表199 相談の有無（男女・年代別）

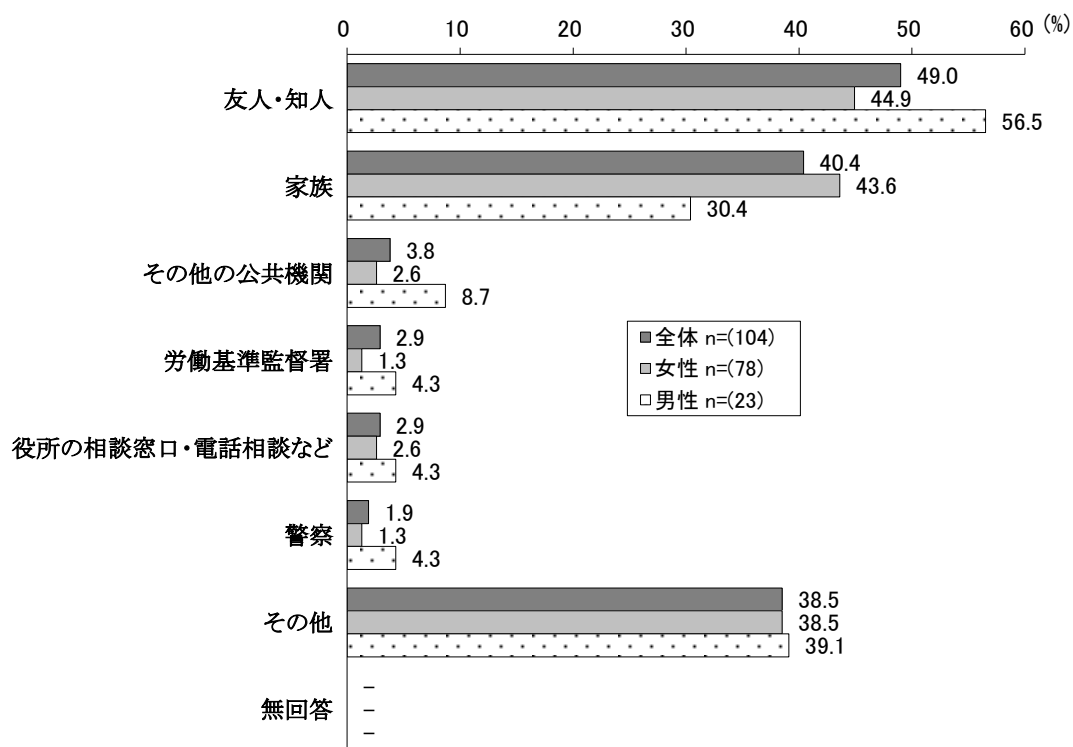
○男女・年代別の傾向

「相談しなかった(できなかった)」では、男性30～40歳代が7割と高くなっています。

「相談した」では、女性40歳代、女性60歳代が6割台と高くなっています。

## 問24-2 相談相手（場所）

【問24-1で「1. 相談した」と答えた方のみご回答ください】  
そのとき、どこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）



図表200 相談相手（場所）

### ○全体の傾向

「友人・知人」が49.0%と最も高くなっています。次いで、「家族」が40.4%となっています。

### ○男女別の傾向

「家族」が女性では43.6%、男性では30.4%と13.2ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。次いで、「友人・知人」が女性では44.9%、男性では56.5%と11.6ポイント男性の方が女性よりも高くなっています。

		全体	家族	友人・知人	労働基準監督署	警察	役所の相談窓口・電話相談など	その他の公共機関	その他	無回答
全体		104 100.0	42 40.4	51 49.0	3 2.9	2 1.9	3 2.9	4 3.8	40 38.5	- -
性年代別（男女合計あり）	女性合計	78 100.0	34 43.6	35 44.9	1 1.3	1 1.3	2 2.6	2 2.6	30 38.5	- -
	女性10・20歳代	19 100.0	7 36.8	13 68.4	- -	- -	- -	- -	4 21.1	- -
	女性30歳代	19 100.0	12 63.2	8 42.1	- -	- -	- -	- -	8 42.1	- -
	女性40歳代	19 100.0	7 36.8	7 36.8	- -	- -	- -	- -	10 52.6	- -
	女性50歳代	13 100.0	4 30.8	5 38.5	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7	6 46.2	- -
	女性60歳代	7 100.0	3 42.9	2 28.6	- -	- -	1 14.3	1 14.3	2 28.6	- -
	女性70歳以上	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	男性合計	23 100.0	7 30.4	13 56.5	1 4.3	1 4.3	1 4.3	2 8.7	9 39.1	- -
	男性10・20歳代	5 100.0	4 80.0	4 80.0	- -	- -	- -	1 20.0	1 20.0	- -
	男性30歳代	5 100.0	1 20.0	2 40.0	- -	- -	1 20.0	- -	2 40.0	- -
	男性40歳代	6 100.0	1 16.7	3 50.0	- -	- -	- -	- -	4 66.7	- -
	男性50歳代	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	- -	1 20.0	1 20.0	- -
	男性60歳代	2 100.0	- -	1 50.0	- -	- -	- -	- -	1 50.0	- -
	男性70歳以上	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	無回答	3 100.0	1 33.3	3 100.0	1 33.3	- -	- -	- -	1 33.3	- -

図表201 相談相手（場所）（男女・年代別）

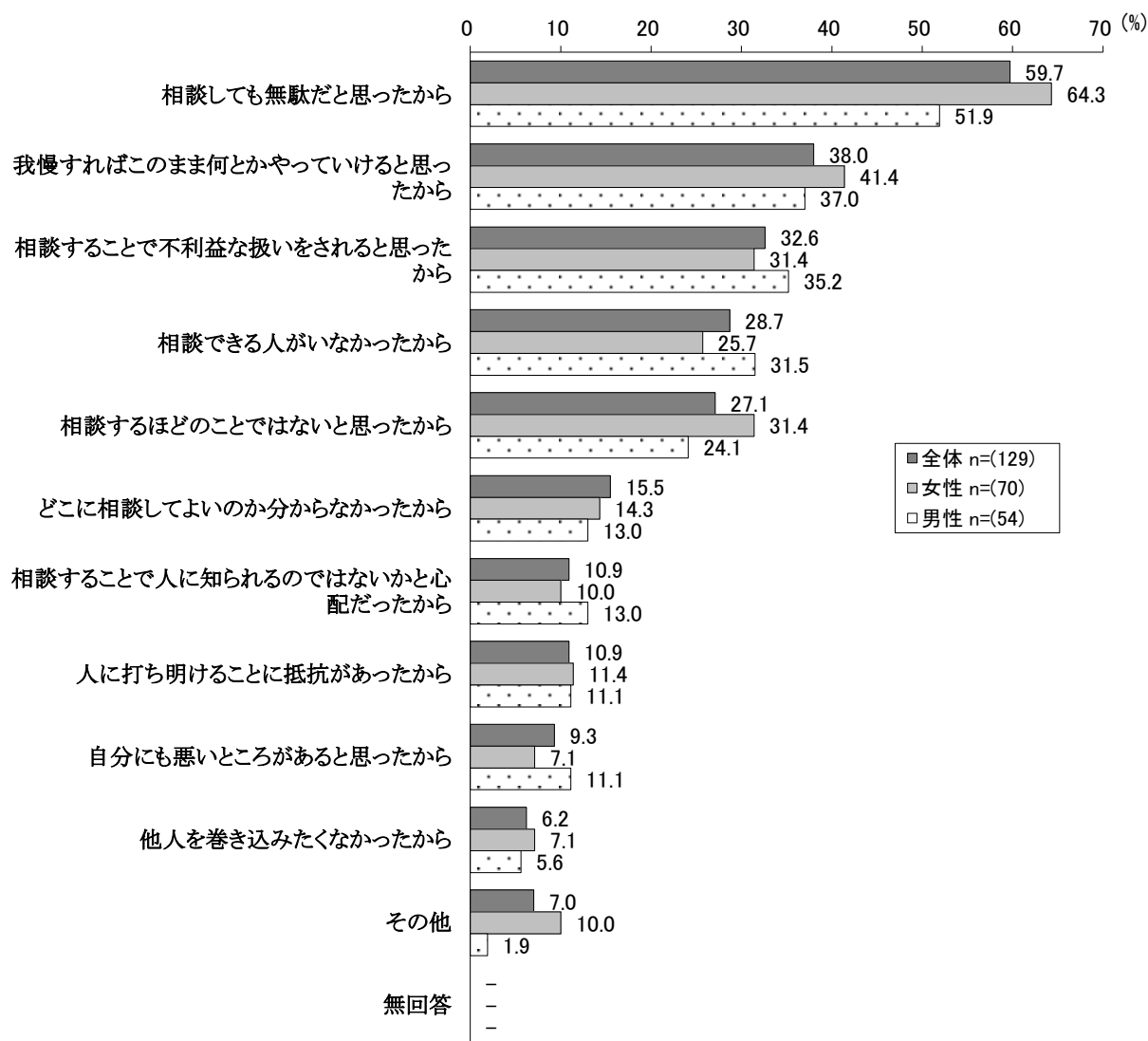
○男女・年代別の傾向

「友人・知人」では、女性10・20歳代が68.4%と高くなっています。

「家族」では、女性30歳代が63.2%と高くなっています。

### 問24-3 相談しなかった理由

【問24-1で「2. 相談しなかった（できなかった）」と答えた方のみご回答ください】  
 相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）



図表202 相談しなかった理由

#### ○全体の傾向

「相談しても無駄だと思ったから」が59.7%と最も高くなっています。次いで、「我慢すればこのまま何とかやっていたから」が38.0%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「相談しても無駄だと思ったから」が女性では64.3%、男性では51.9%と12.4ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。次いで、「相談するほどのことではないと思ったから」が女性では31.4%、男性では24.1%と7.3ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。



	全体	相談できる人がいなかったから	どこに相談してよいか分からなかったから	相談することで人に知られるのではないかと心配だったから	相談することで不利益な扱いをされると思ったから	人に打ち明けることに抵抗があったから	相談しても無駄だと思ったから	我慢すればこのまま何とかやっつけていけると思ったから	自分にも悪いところがあると思っただから	他人を巻き込みたくなかったから	相談するほどのことではないと思っただから	その他	無回答
全体	129 100.0	37 28.7	20 15.5	14 10.9	42 32.6	14 10.9	77 59.7	49 38.0	12 9.3	8 6.2	35 27.1	9 7.0	-
性年代別（男女合計あり）	女性合計	70 100.0	18 25.7	10 14.3	7 10.0	22 31.4	8 11.4	45 64.3	29 41.4	5 7.1	5 7.1	22 31.4	7 10.0
	女性10・20歳代	17 100.0	5 29.4	4 23.5	2 11.8	5 29.4	3 17.6	9 52.9	5 29.4	2 11.8	3 17.6	9 52.9	1 5.9
	女性30歳代	19 100.0	3 15.8	1 5.3	-	2 10.5	1 5.3	13 68.4	8 42.1	2 10.5	1 5.3	8 42.1	-
	女性40歳代	12 100.0	2 16.7	3 25.0	1 8.3	3 25.0	2 16.7	7 58.3	4 33.3	1 8.3	-	4 33.3	2 16.7
	女性50歳代	17 100.0	5 29.4	1 5.9	3 17.6	10 58.8	1 5.9	13 76.5	9 52.9	-	1 5.9	1 5.9	4 23.5
	女性60歳代	3 100.0	2 66.7	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-
	女性70歳以上	1 100.0	-	-	1 100.0	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	男性合計	54 100.0	17 31.5	7 13.0	7 13.0	19 35.2	6 11.1	28 51.9	20 37.0	6 11.1	3 5.6	13 24.1	1 1.9
	男性10・20歳代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	2 33.3	2 33.3	2 33.3	1 16.7	-	2 33.3	-
	男性30歳代	16 100.0	4 25.0	2 12.5	4 25.0	8 50.0	2 12.5	10 62.5	7 43.8	1 6.3	2 12.5	5 31.3	-
	男性40歳代	18 100.0	8 44.4	1 5.6	1 5.6	6 33.3	2 11.1	11 61.1	6 33.3	1 5.6	-	4 22.2	-
	男性50歳代	9 100.0	3 33.3	1 11.1	-	2 22.2	-	4 44.4	3 33.3	1 11.1	-	1 11.1	1 11.1
	男性60歳代	3 100.0	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-
	男性70歳以上	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	-
	無回答	5 100.0	2 40.0	3 60.0	-	1 20.0	-	4 80.0	-	1 20.0	-	-	1 20.0

図表203 相談しなかった理由（男女・年代別）

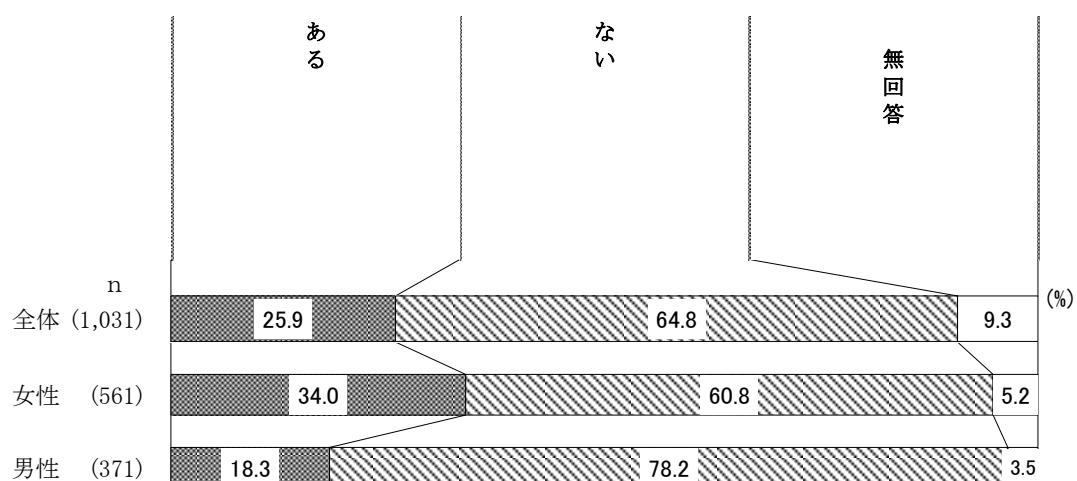
○男女・年代別の傾向

「相談しても無駄だと思ったから」では、女性50歳代が76.5%と最も高くなっています。

「我慢すればこのまま何とかやっつけていけると思ったから」では、女性50歳代が52.9%と最も高くなっています。

問25 身体的性別に悩んだり、身近な人が悩むのを見た経験の有無

あなたは、これまでの生活のなかで、「女らしくしなさい」「男はこうすべきだ」等といった性別役割（ジェンダー含む）について悩んだり、疑問を感じたり、嫌な思いをしたことや、身近な人が悩んでいる場面に遭ったことがありますか。（○は1つ）



図表204 身体的性別に悩んだり、身近な人が悩むのを見た経験の有無

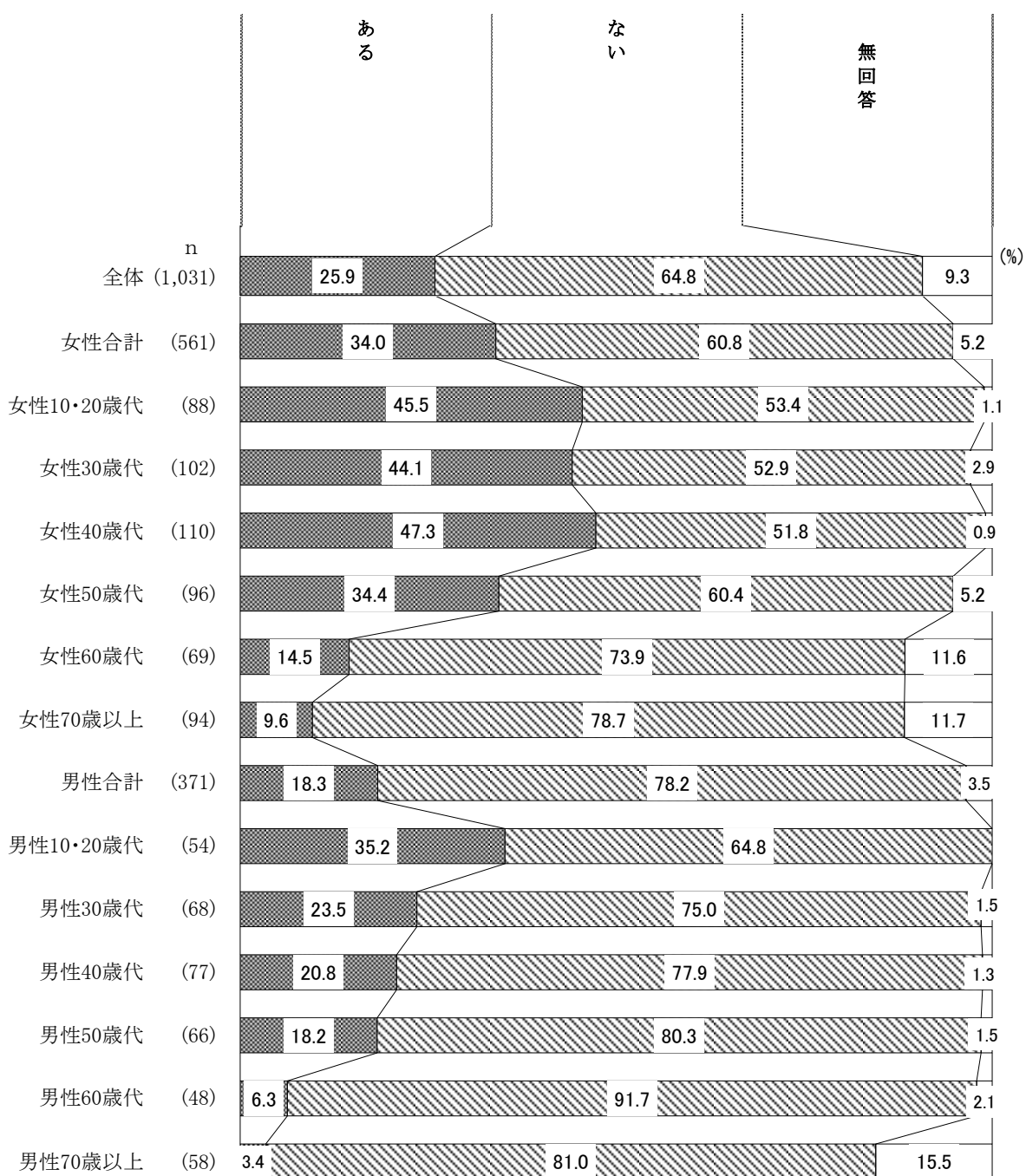
○全体の傾向

「ない」が64.8%、「ある」が25.9%となっています。

○男女別の傾向

「ない」が女性では60.8%、男性では78.2%と男性の方が女性よりも17.4ポイント高くなっています。

「ある」は女性では34.0%、男性では18.3%と女性の方が男性よりも15.7ポイント高くなっています。



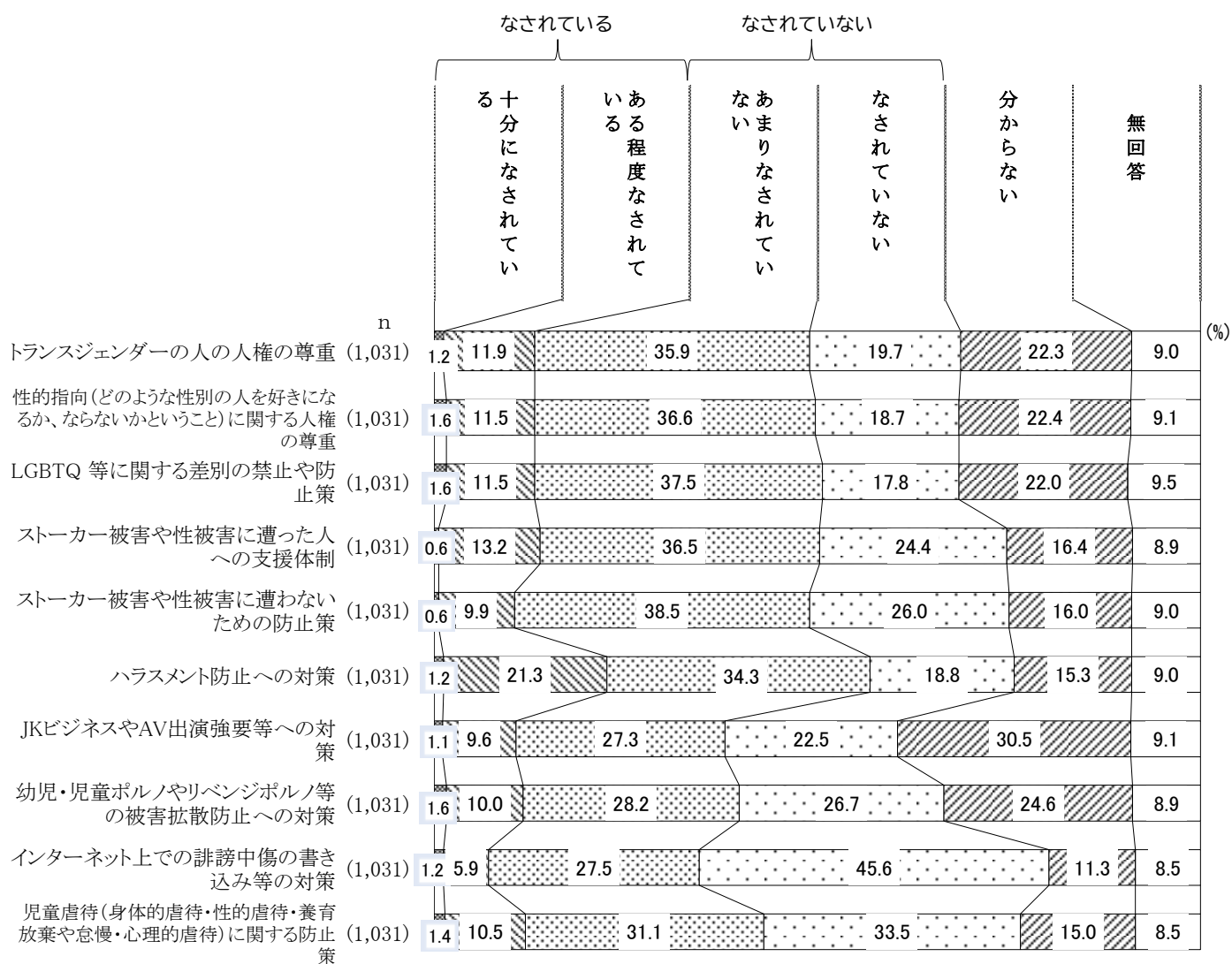
図表205 身体的性別に悩んだり、身近な人が悩むのを見た経験の有無（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「ある」が女性40歳以下では、4割台、男性10・20歳代が3割台と高くなっています。

## 問26 社会における人権問題の対応状況についての考え方

あなたは、次あげる日本の社会における人権及び人権に関わる問題について、どの程度人権が尊重されていたり、支援や防止対策がなされていると思いますか。(ア～コのそれぞれについて、当てはまる選択肢に○を1つ)



図表207 社会における人権問題の対応状況についての考え方

### ○全体の傾向

支援や防止対策が『なされている※1』という認識があるものは“ハラスメント防止への対策”が22.5%と最も高くなっています。

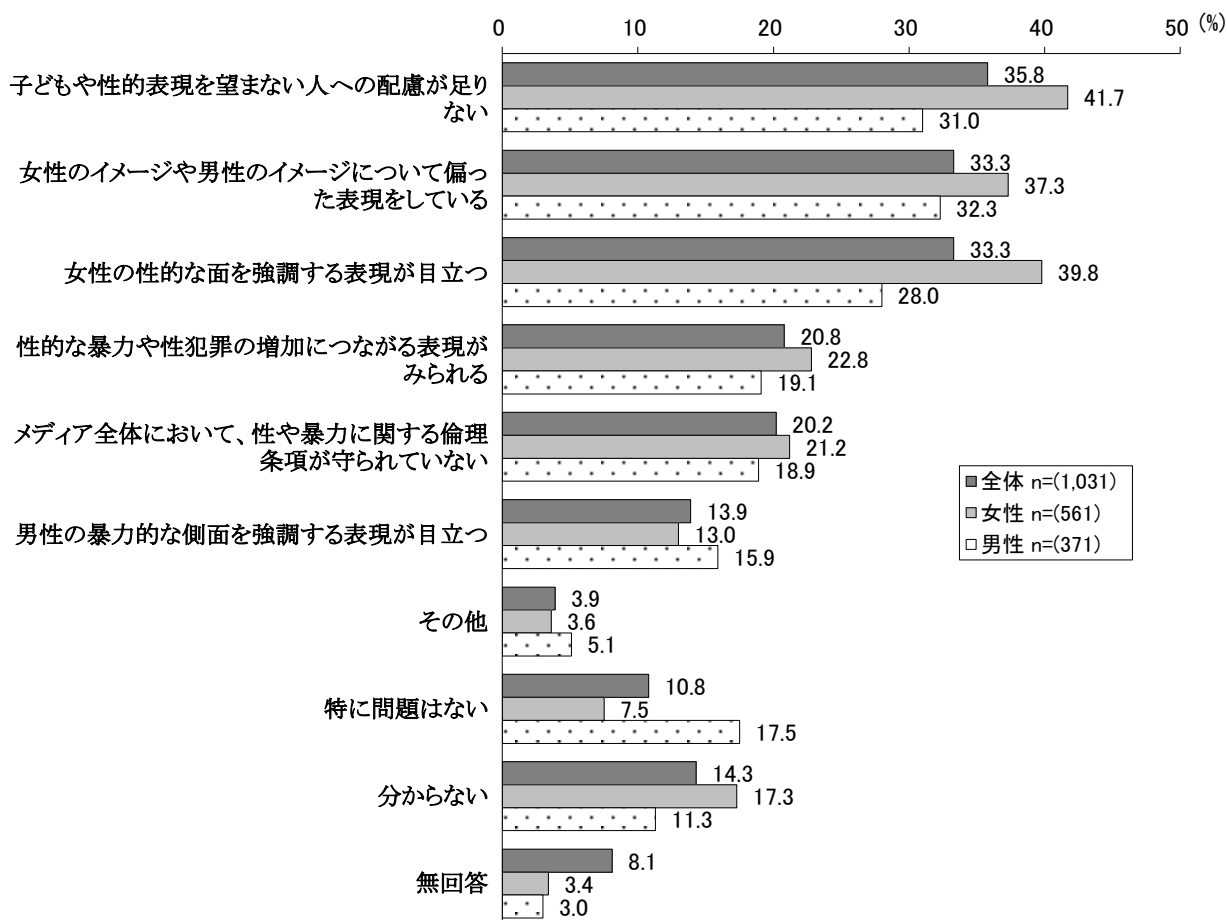
一方、支援や防止対策が『なされていない※2』という認識があるものは“インターネット上での誹謗中傷の書き込み等の対策”が73.1%と最も高くなっています。

※1 「十分に」なされている」と「ある程度」なされている」の合計

※2 「なされていない」と「あまり」なされていない」の合計

## 問27 メディアにおける性や暴力表現についての考え方

テレビ、ラジオ、インターネット、雑誌、広告などのメディアにおける性や暴力表現について、あなたはどのように感じていますか。(〇はいくつでも)



図表223 メディアにおける性や暴力表現についての考え方

### ○全体の傾向

「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が35.8%と最も高くなっています。次いで、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」が33.3%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「女性の性的な面を強調する表現が目立つ」が女性では39.8%、男性では28.0%と11.8ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。次いで、「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が女性では41.7%、男性では31.0%と、10.7ポイント女性の方が男性よりも高くなっています。

	全体	女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	女性の性的な面を強調する表現が目立つ	男性の暴力的な側面を強調する表現が目立つ	性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる	子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない	メディア全体において、性や暴力に関する倫理条項が守られていない	その他	特に問題はない	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	343 33.3	343 33.3	143 13.9	214 20.8	369 35.8	208 20.2	40 3.9	111 10.8	147 14.3	84 8.1	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	209 37.3	223 39.8	73 13.0	128 22.8	234 41.7	119 21.2	20 3.6	42 7.5	97 17.3	19 3.4
	女性10・20歳代	88 100.0	48 54.5	39 44.3	9 10.2	11 12.5	28 31.8	13 14.8	1 1.1	8 9.1	13 14.8	1 1.1
	女性30歳代	102 100.0	45 44.1	39 38.2	9 8.8	21 20.6	38 37.3	19 18.6	3 2.9	10 9.8	17 16.7	2 2.0
	女性40歳代	110 100.0	39 35.5	44 40.0	13 11.8	24 21.8	50 45.5	19 17.3	7 6.4	9 8.2	20 18.2	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	36 37.5	49 51.0	16 16.7	27 28.1	52 54.2	28 29.2	6 6.3	4 4.2	10 10.4	-
	女性60歳代	69 100.0	20 29.0	27 39.1	11 15.9	21 30.4	32 46.4	17 24.6	2 2.9	5 7.2	11 15.9	1 1.4
	女性70歳以上	94 100.0	20 21.3	24 25.5	14 14.9	23 24.5	33 35.1	22 23.4	1 1.1	6 6.4	25 26.6	14 14.9
	男性合計	371 100.0	120 32.3	104 28.0	59 15.9	71 19.1	115 31.0	70 18.9	19 5.1	65 17.5	42 11.3	11 3.0
	男性10・20歳代	54 100.0	21 38.9	16 29.6	8 14.8	7 13.0	11 20.4	6 11.1	2 3.7	11 20.4	7 13.0	-
	男性30歳代	68 100.0	24 35.3	17 25.0	5 7.4	11 16.2	16 23.5	9 13.2	5 7.4	18 26.5	10 14.7	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	26 33.8	24 31.2	20 26.0	12 15.6	31 40.3	15 19.5	7 9.1	17 22.1	2 2.6	-
	男性50歳代	66 100.0	21 31.8	17 25.8	10 15.2	21 31.8	19 28.8	11 16.7	4 6.1	8 12.1	8 12.1	2 3.0
	男性60歳代	48 100.0	14 29.2	16 33.3	6 12.5	11 22.9	23 47.9	14 29.2	1 2.1	7 14.6	4 8.3	-
	男性70歳以上	58 100.0	14 24.1	14 24.1	10 17.2	9 15.5	15 25.9	15 25.9	-	4 6.9	11 19.0	8 13.8
	無回答	99 100.0	14 14.1	16 16.2	11 11.1	15 15.2	20 20.2	19 19.2	1 1.0	4 4.0	8 8.1	54 54.5

図表224 メディアにおける性や暴力表現についての考え方（男女・年代別）

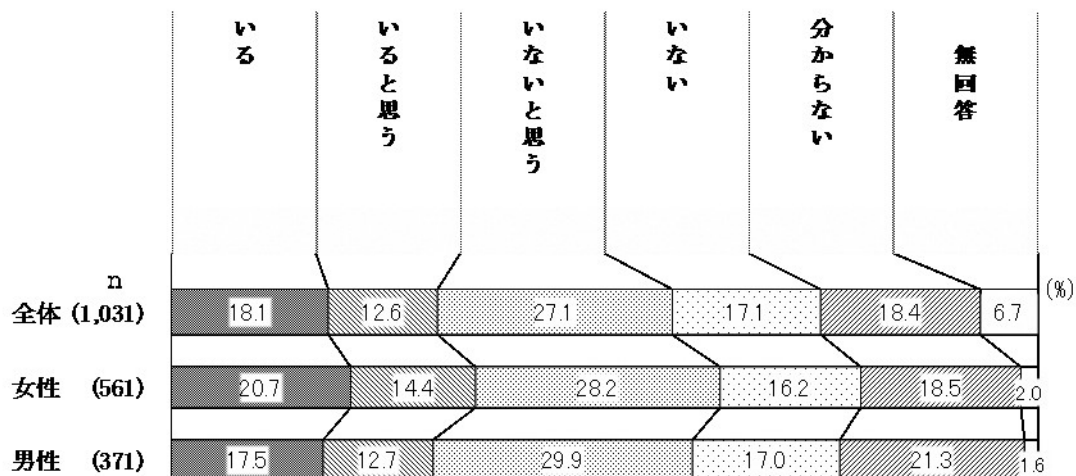
○男女・年代別の傾向

「子どもや性的表現を望まない人への配慮が足りない」が女性50歳代では54.2%、男性60歳代では47.9%と高くなっています。「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」では女性10・20歳代が54.5%と高くなっています。「性的な暴力や性犯罪の増加につながる表現がみられる」では男性50歳代が31.8%と高くなっています。

## 11 性の多様性について

### 問28 周囲のLGBTQ等当事者

あなたは、身近な人（職場の同僚、友人、親戚や家族、近所の知人）にLGBTQ等の人はいますか。（○は1つ）



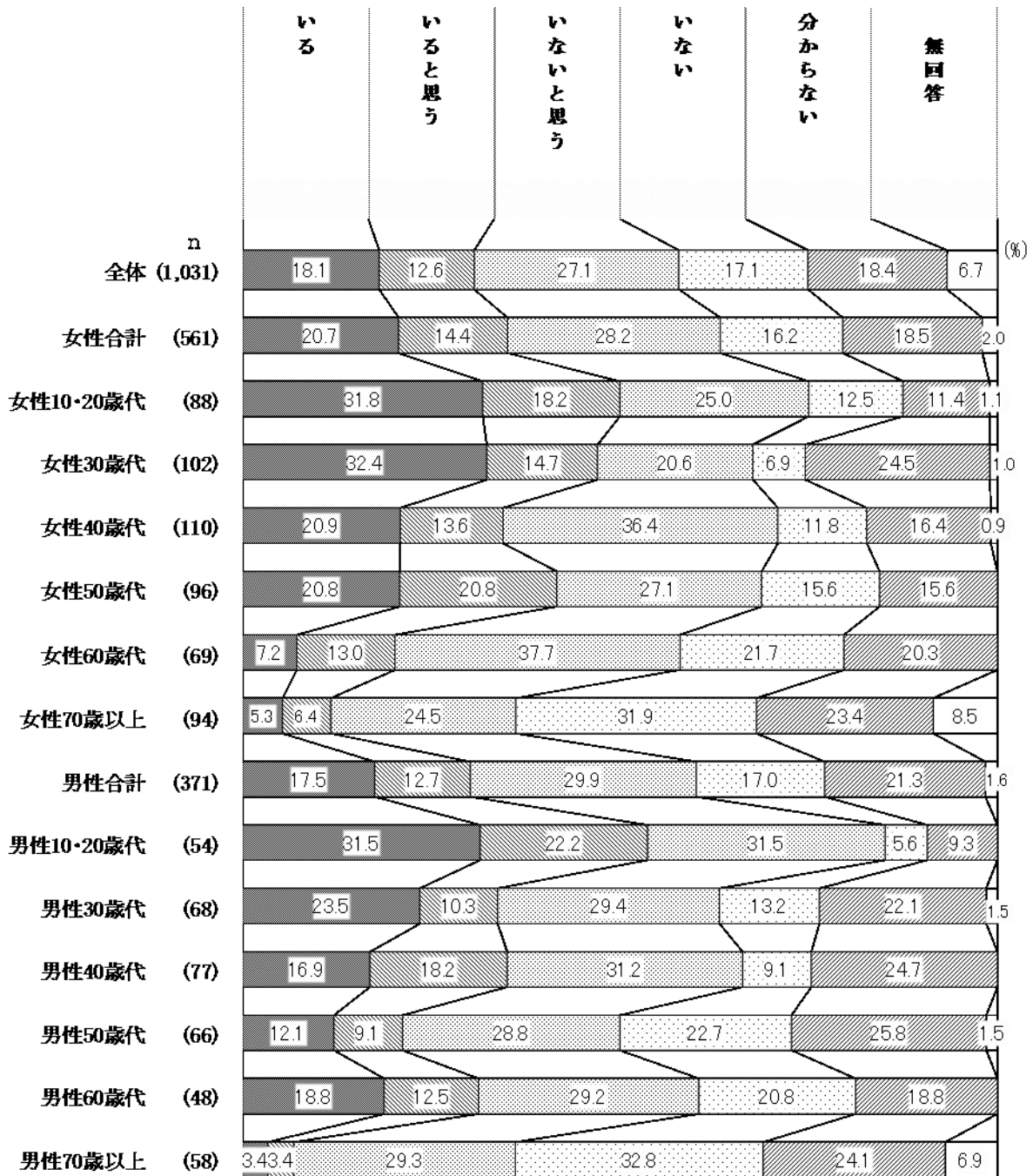
図表226 周囲のLGBTQ等当事者

#### ○全体の傾向

「いない」が17.1%、「いないと思う」が27.1%となっています。  
一方で、「いる」は18.1%、「いると思う」は12.6%となっています。

#### ○男女別の傾向

「いる」が女性では20.7%、男性では17.5%と女性の方が男性よりも3.2ポイント高くなっています。



図表227 周囲のLGBTQ等当事者（男女・年代別）

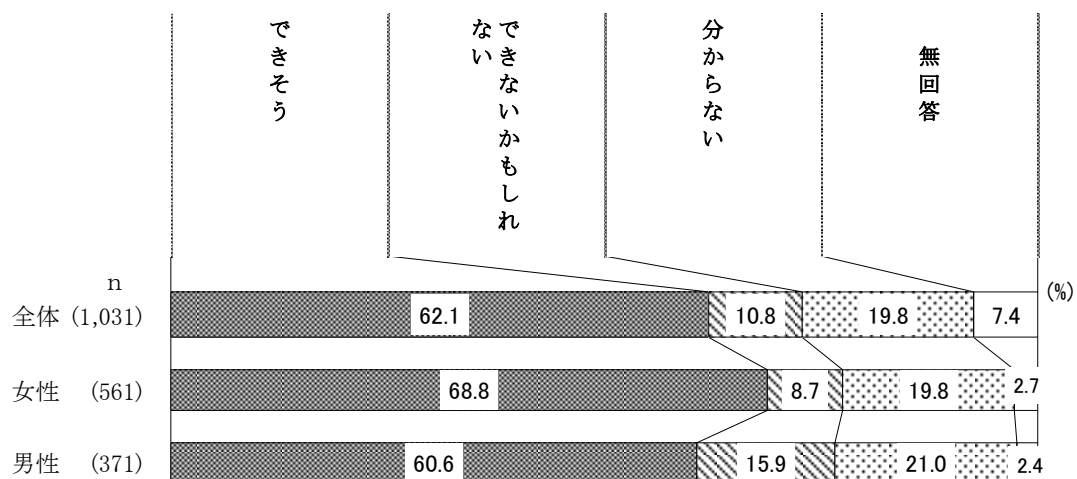
○男女・年代別の傾向

「いない」では、女性60歳以上と男性50歳以上で2～3割台と高くなっています。  
「いる」では、女性10～30歳代と男性10・20歳代が3割台と高くなっています。  
「いると思う」では、男性10・20歳代が22.2%と最も高くなっています。



## 問29 LGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応

あなたは、身近な人からLGBTQ等であることを打ち明けられた場合、これまでと変わりにくく接することができそうですか。(○は1つ)



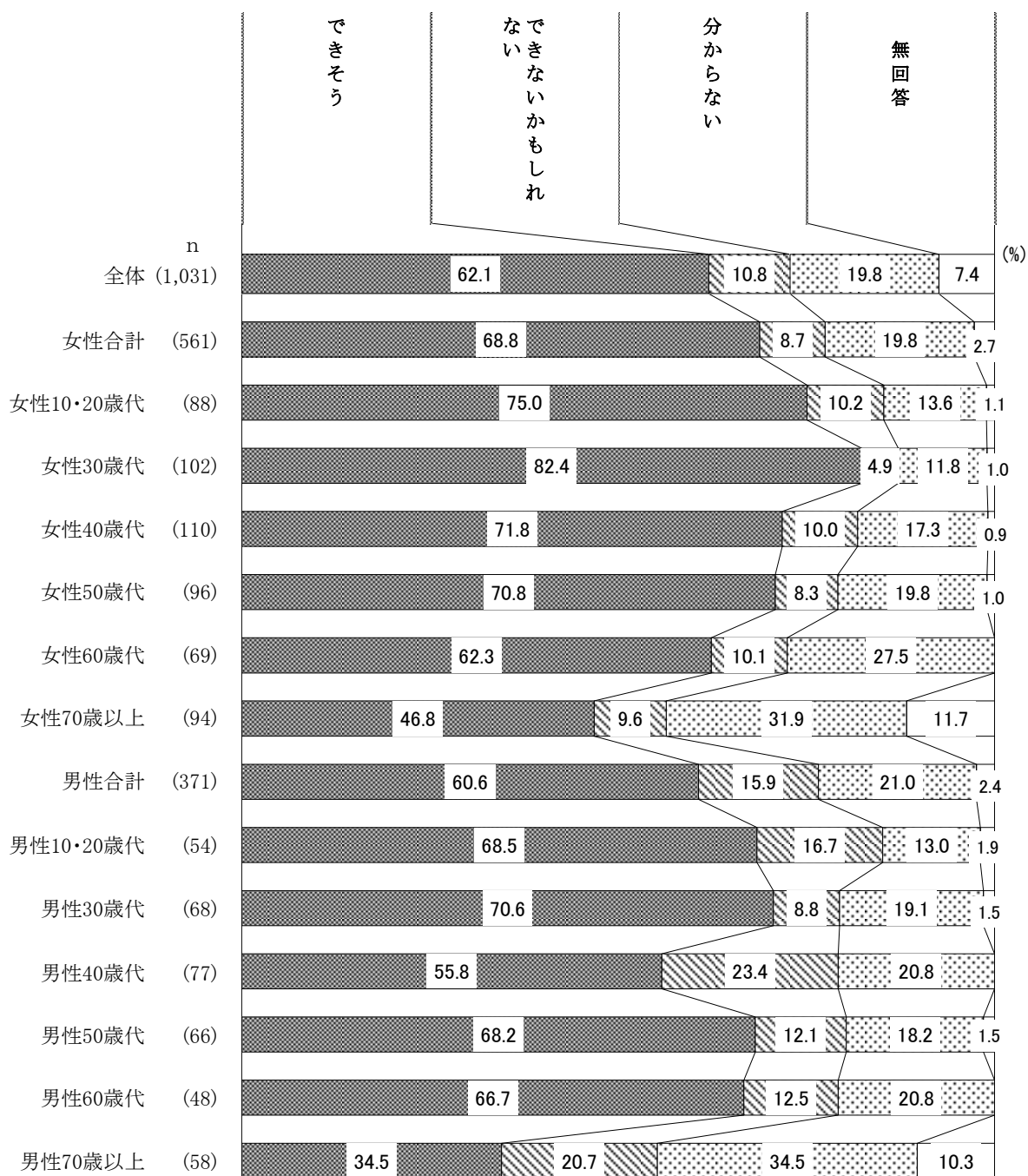
図表228 LGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応

### ○全体の傾向

「できそう」が62.1%と最も高くなっています。  
一方、「できないかもしれない」が10.8%となっています。

### ○男女別の傾向

「できそう」が女性では68.8%、男性では60.6%と女性の方が男性よりも8.2ポイント高くなっています。  
一方、「できないかもしれない」が女性では8.7%、男性では15.9%と男性の方が女性より7.2ポイント高くなっています。



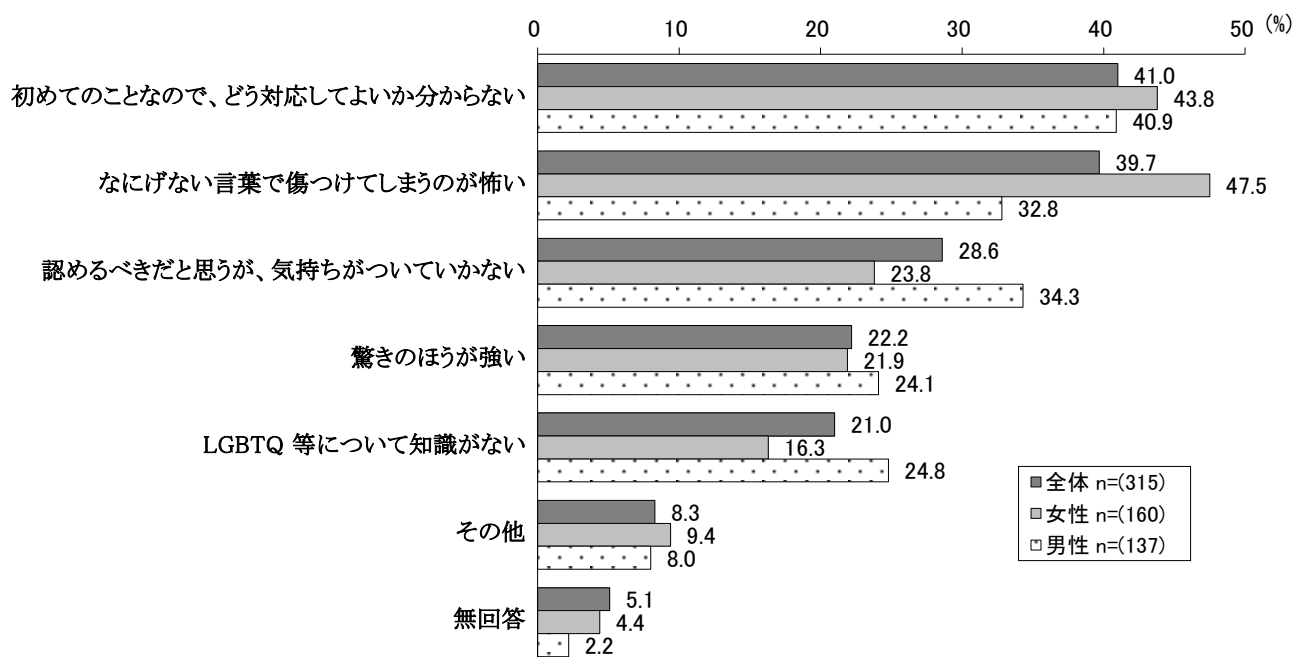
図表229 LGBTQ等であることを打ち明けられたときの対応（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「できそう」では、女性では10～50歳が7割を超え、特に30歳代が82.4%と高くなっています。男性では40歳代と70歳以上を除いた年代で6割を超え、特に30歳代では70.6%と高くなっています。「できないかもしれない」では、男性40歳代が23.4%と最も高くなっています。

## 問29-1 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由

【問29で「2. できないかもしれない」「3. 分からない」と答えた方のみご回答ください】  
それはなぜだと思いますか。(〇はいくつでも)



図表230 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由

### ○全体の傾向

「初めてのことなので、どう対応してよいか分からない」が41.0%と最も高くなっています。次いで、「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」が39.7%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」が女性では47.5%、男性では32.8%と女性の方が男性より14.7ポイント高くなっています。次いで、「認めるべきだと思うが、気持ちがついていかない」が女性では23.8%、男性では34.3%と男性の方が女性より10.5ポイント高くなっています。

	全体	LGBTQ等について知識がない	初めてのことなので、どう対応してよいか分からない	驚きのほうが強い	なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い	認めるべきだと思いが、気持ちがついていかない	その他	無回答	
全体	315 100.0	66 21.0	129 41.0	70 22.2	125 39.7	90 28.6	26 8.3	16 5.1	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	160 100.0	26 16.3	70 43.8	35 21.9	76 47.5	38 23.8	15 9.4	7 4.4
	女性10・20歳代	21 100.0	1 4.8	12 57.1	7 33.3	9 42.9	2 9.5	2 9.5	-
	女性30歳代	17 100.0	2 11.8	7 41.2	2 11.8	8 47.1	4 23.5	3 17.6	-
	女性40歳代	30 100.0	4 13.3	14 46.7	8 26.7	18 60.0	9 30.0	4 13.3	-
	女性50歳代	27 100.0	6 22.2	10 37.0	5 18.5	18 66.7	7 25.9	3 11.1	-
	女性60歳代	26 100.0	1 3.8	14 53.8	5 19.2	12 46.2	6 23.1	-	2 7.7
	女性70歳以上	39 100.0	12 30.8	13 33.3	8 20.5	11 28.2	10 25.6	3 7.7	5 12.8
	男性合計	137 100.0	34 24.8	56 40.9	33 24.1	45 32.8	47 34.3	11 8.0	3 2.2
	男性10・20歳代	16 100.0	3 18.8	7 43.8	5 31.3	5 31.3	4 25.0	1 6.3	-
	男性30歳代	19 100.0	6 31.6	9 47.4	4 21.1	11 57.9	7 36.8	3 15.8	-
	男性40歳代	34 100.0	6 17.6	13 38.2	10 29.4	9 26.5	13 38.2	2 5.9	-
	男性50歳代	20 100.0	3 15.0	9 45.0	5 25.0	10 50.0	6 30.0	3 15.0	-
	男性60歳代	16 100.0	5 31.3	5 31.3	3 18.8	2 12.5	6 37.5	2 12.5	-
	男性70歳以上	32 100.0	11 34.4	13 40.6	6 18.8	8 25.0	11 34.4	-	3 9.4
	無回答	18 100.0	6 33.3	3 16.7	2 11.1	4 22.2	5 27.8	-	6 33.3

図表231 打ち明けられた場合にこれまでと同様の接し方ができない理由（男女・年代別）

### ○男女・年代別の傾向

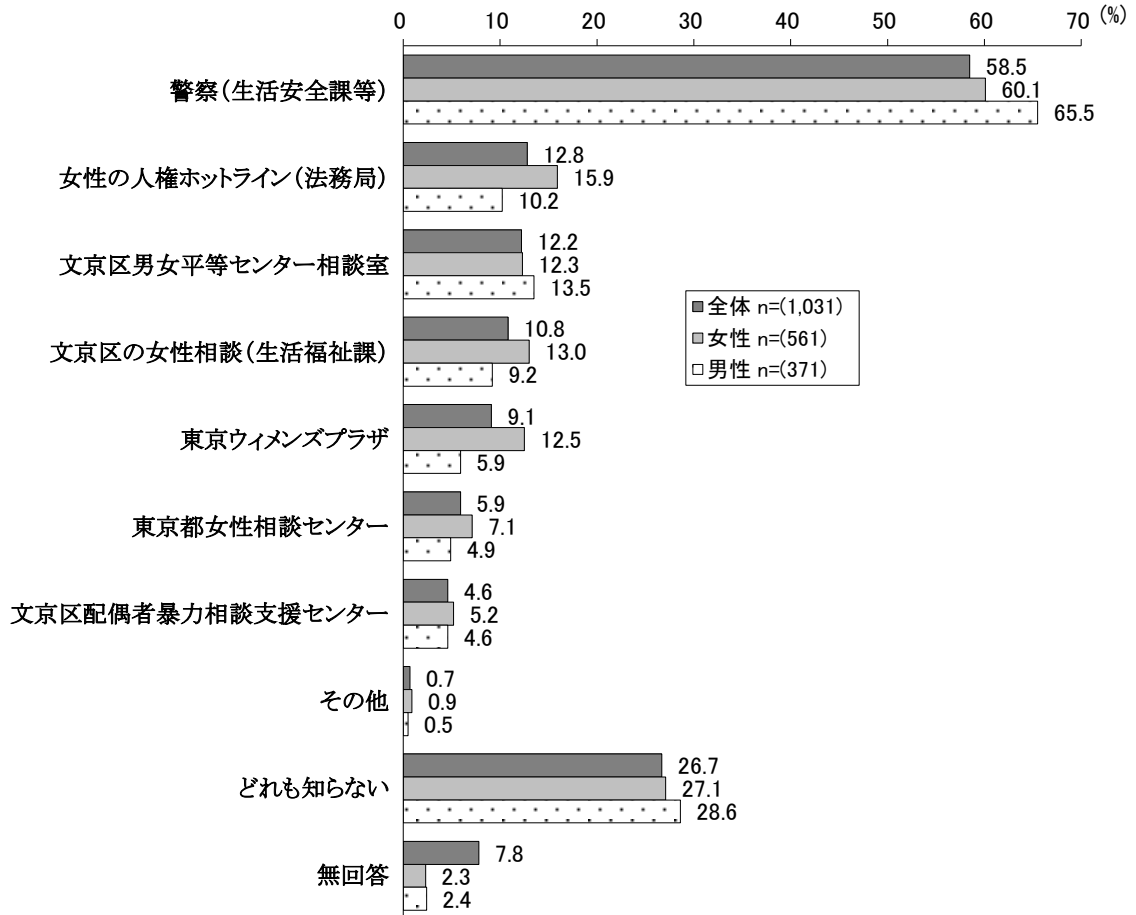
「なにげない言葉で傷つけてしまうのが怖い」では、女性40～50歳代が6割台と高くなっています。

「初めてのことなので、どう対応してよいか分からない」では、女性10・20歳代、女性60歳代が5割台と高くなっています。

## 12 暴力の防止について

### 問30 認知している公的なDV相談機関

配偶者・パートナー又は交際相手などからの暴力についての公的な相談機関として、知っているものはありますか。(〇はいくつでも)



図表232 認知している公的なDV相談機関

#### ○全体の傾向

「警察(生活安全課等)」が58.5%と最も高くなっています。次いで、「女性の人権ホットライン(法務局)」が12.8%となっています。

#### ○男女別の傾向

「東京ウィメンズプラザ」が女性では12.5%、男性では5.9%と女性の方が男性よりも6.6ポイント高くなっています。次いで、「女性の人権ホットライン(法務局)」が女性では15.9%、男性では10.2%と女性の方が男性よりも5.7ポイント高くなっています。

	全体	文京区の女性相談（生活福祉課）	文京区男女平等センター相談室	文京区配偶者暴力相談支援センター	警察（生活安全課等）	東京都女性相談センター	東京ウィメンズプラザ	女性の人権ホットライン（法務局）	その他	どれも知らない	無回答	
全体	1031 100.0	111 10.8	126 12.2	47 4.6	603 58.5	61 5.9	94 9.1	132 12.8	7 0.7	275 26.7	80 7.8	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 100.0	73 13.0	69 12.3	29 5.2	337 60.1	40 7.1	70 12.5	89 15.9	5 0.9	152 27.1	13 2.3
	女性10・20歳代	88 100.0	8 9.1	6 6.8	2 2.3	52 59.1	5 5.7	4 4.5	16 18.2	-	26 29.5	1 1.1
	女性30歳代	102 100.0	10 9.8	4 3.9	2 2.0	61 59.8	6 5.9	13 12.7	15 14.7	-	27 26.5	1 1.0
	女性40歳代	110 100.0	16 14.5	13 11.8	6 5.5	72 65.5	5 4.5	12 10.9	20 18.2	-	31 28.2	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	11 11.5	18 18.8	8 8.3	63 65.6	10 10.4	24 25.0	17 17.7	2 2.1	20 20.8	1 1.0
	女性60歳代	69 100.0	13 18.8	14 20.3	4 5.8	42 60.9	6 8.7	6 8.7	11 15.9	2 2.9	17 24.6	-
	女性70歳以上	94 100.0	15 16.0	14 14.9	7 7.4	46 48.9	7 7.4	10 10.6	9 9.6	1 1.1	30 31.9	9 9.6
	男性合計	371 100.0	34 9.2	50 13.5	17 4.6	243 65.5	18 4.9	22 5.9	38 10.2	2 0.5	106 28.6	9 2.4
	男性10・20歳代	54 100.0	5 9.3	7 13.0	1 1.9	36 66.7	2 3.7	1 1.9	6 11.1	-	13 24.1	-
	男性30歳代	68 100.0	10 14.7	5 7.4	5 7.4	43 63.2	3 4.4	2 2.9	6 8.8	1 1.5	24 35.3	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	8 10.4	12 15.6	4 5.2	48 62.3	4 5.2	8 10.4	7 9.1	1 1.3	27 35.1	-
	男性50歳代	66 100.0	5 7.6	9 13.6	2 3.0	46 69.7	7 10.6	5 7.6	10 15.2	-	16 24.2	1 1.5
	男性60歳代	48 100.0	3 6.3	9 18.8	4 8.3	33 68.8	1 2.1	5 10.4	7 14.6	-	12 25.0	1 2.1
	男性70歳以上	58 100.0	3 5.2	8 13.8	1 1.7	37 63.8	1 1.7	1 1.7	2 3.4	-	14 24.1	6 10.3
	無回答	99 100.0	4 4.0	7 7.1	1 1.0	23 23.2	3 3.0	2 2.0	5 5.1	-	17 17.2	58 58.6

図表233 認知している公的なDV相談機関（男女・年代別）

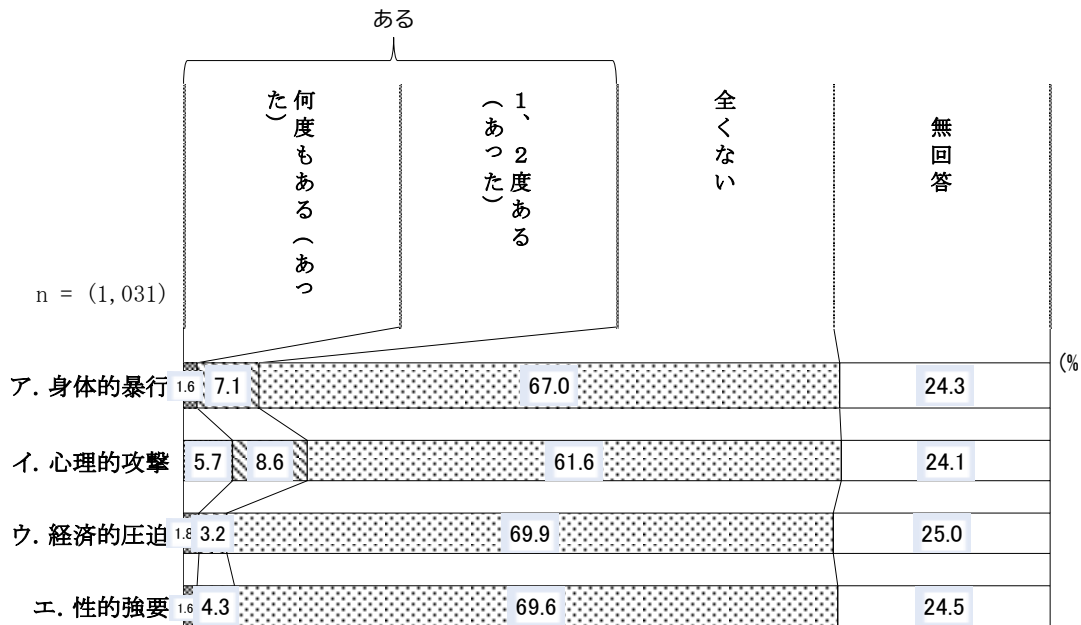
○男女・年代別の傾向

男女ともに「警察（生活安全課等）」が高く、男性50歳代では69.7%と最も高くなっています。次いで、「東京ウィメンズプラザ」が女性50歳代では25.0%と高くなっています。

問31 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験、加害経験

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手などとの間で、次のような行為を受けたり、行為をしたことがありますか。(ア～エのそれぞれについて、当てはまる選択肢に○を1つずつ)

《被害経験》

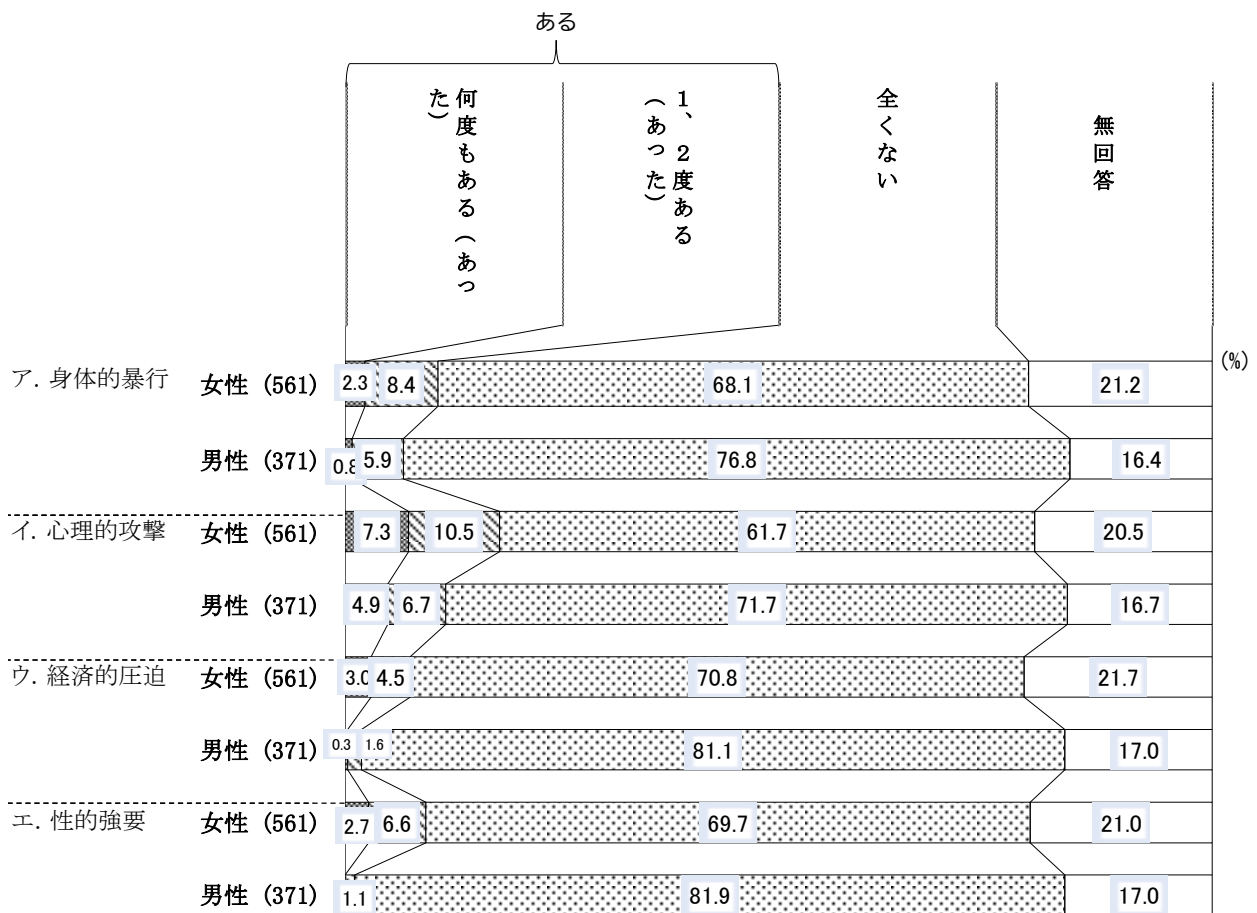


図表235 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験

○全体の傾向

「全くない」が全体的に6割以上と高くなっています。  
 一方、『ある※1』の中では、心理的攻撃が14.3%と高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計



図表236 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験（男女別）

### ○男女別の傾向

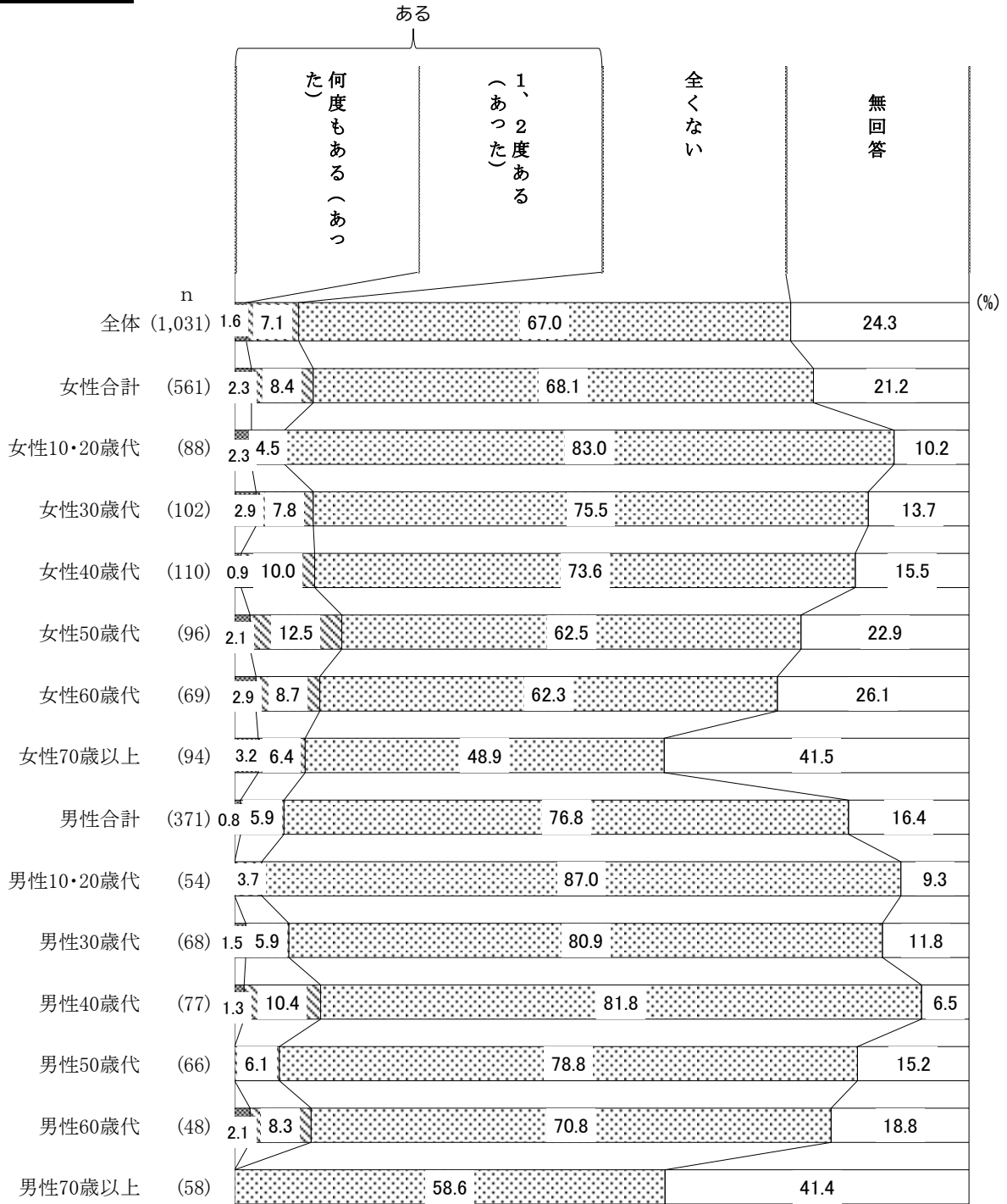
「全くない」が全体的に6割以上と高くなっています。

一方、『ある※1』の中で性的強要が女性では9.3%、男性では1.1%と女性の方が男性よりも8.2ポイント高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計



ア. 身体的暴行



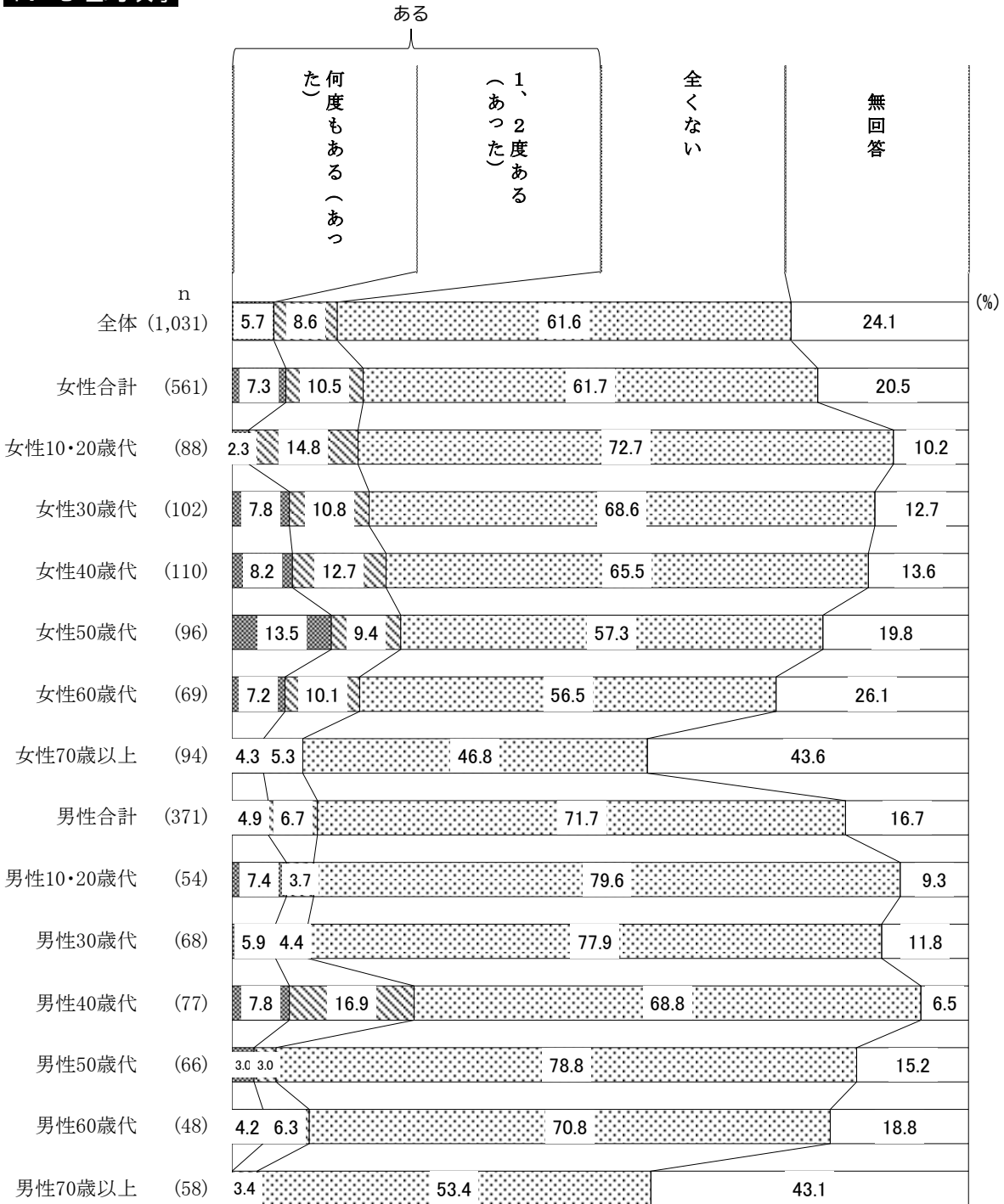
図表237 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験『ア. 身体的暴行』  
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

『ある※1』が女性50歳代では14.6%と最も高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計

イ. 心理的攻撃



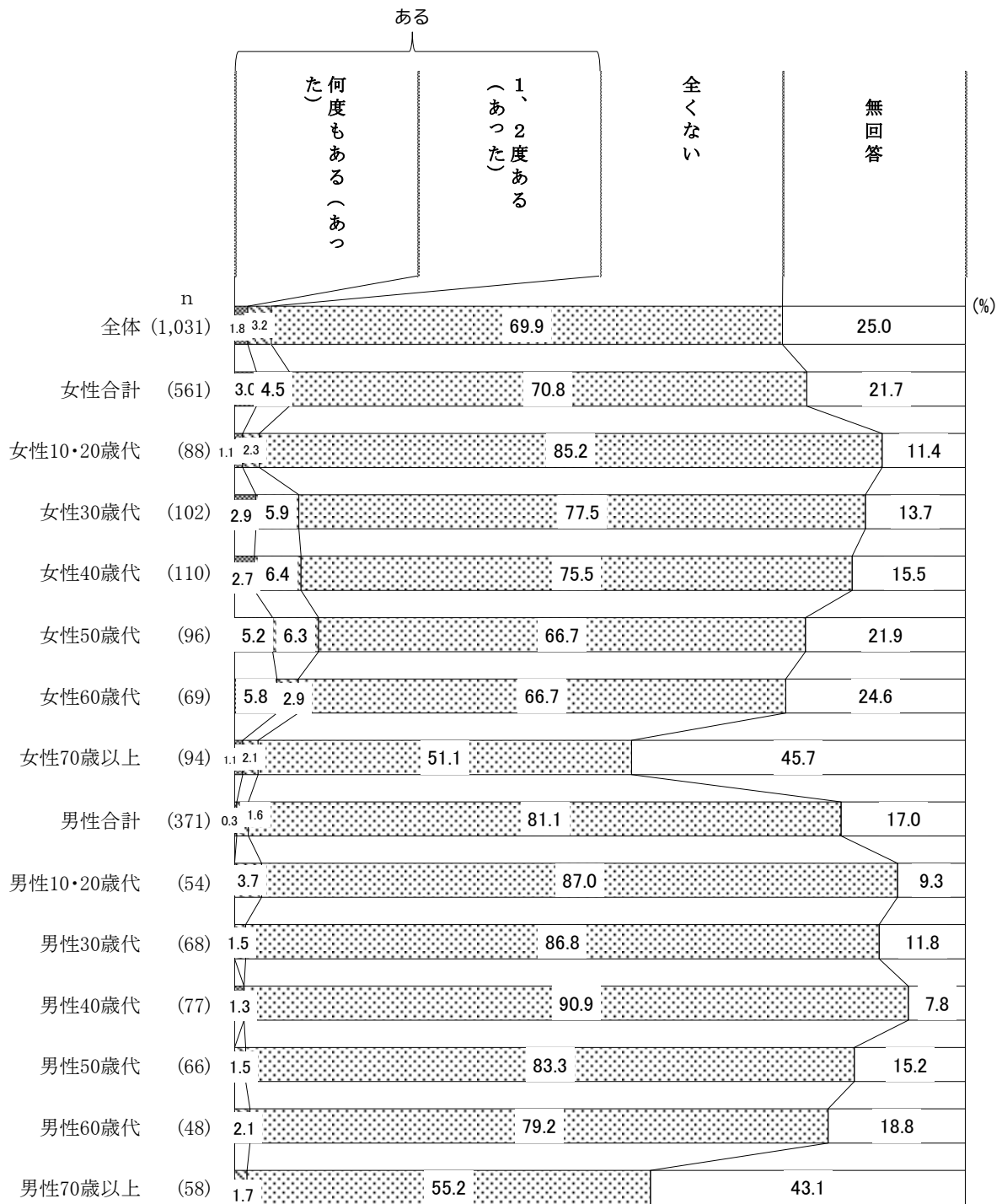
図表238 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験『イ. 心理的攻撃』  
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

『ある※1』が男性40歳代では24.7%と最も高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計

ウ. 経済的圧迫



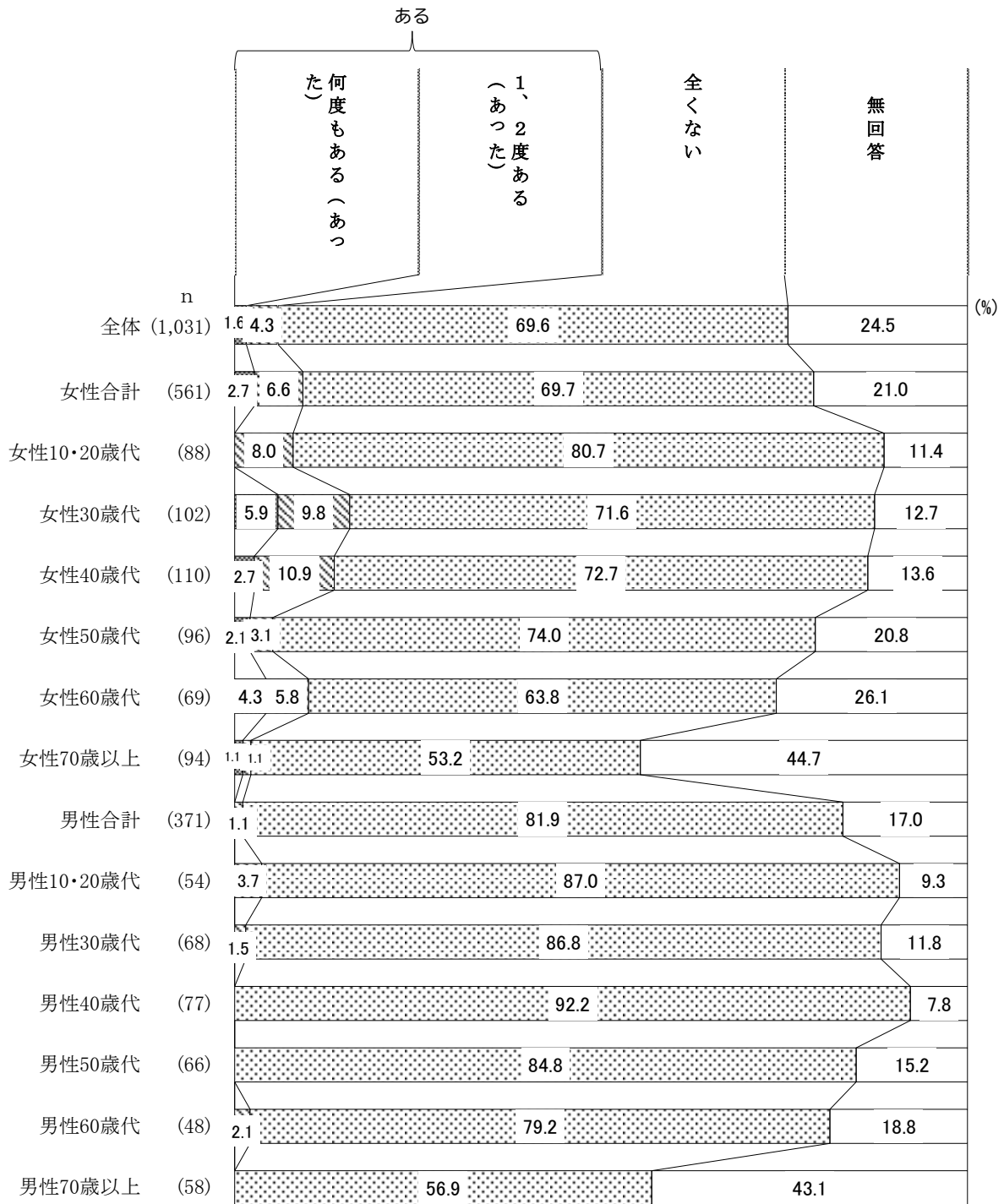
図表239 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験『ウ. 経済的圧迫』  
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

『ある※1』が女性50歳代では11.5%と最も高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計

工. 性的強要



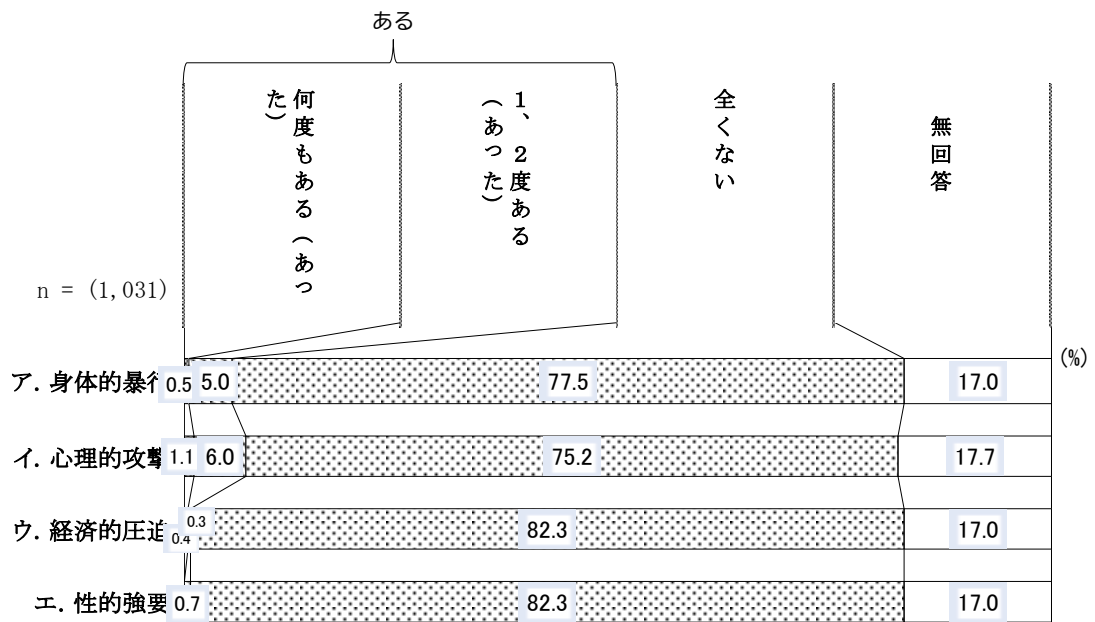
図表240 配偶者・パートナー又は交際相手などから被害を受けた経験『工. 性的強要』  
(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

『ある※1』が女性30歳代では15.7%と最も高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計

《加害経験》

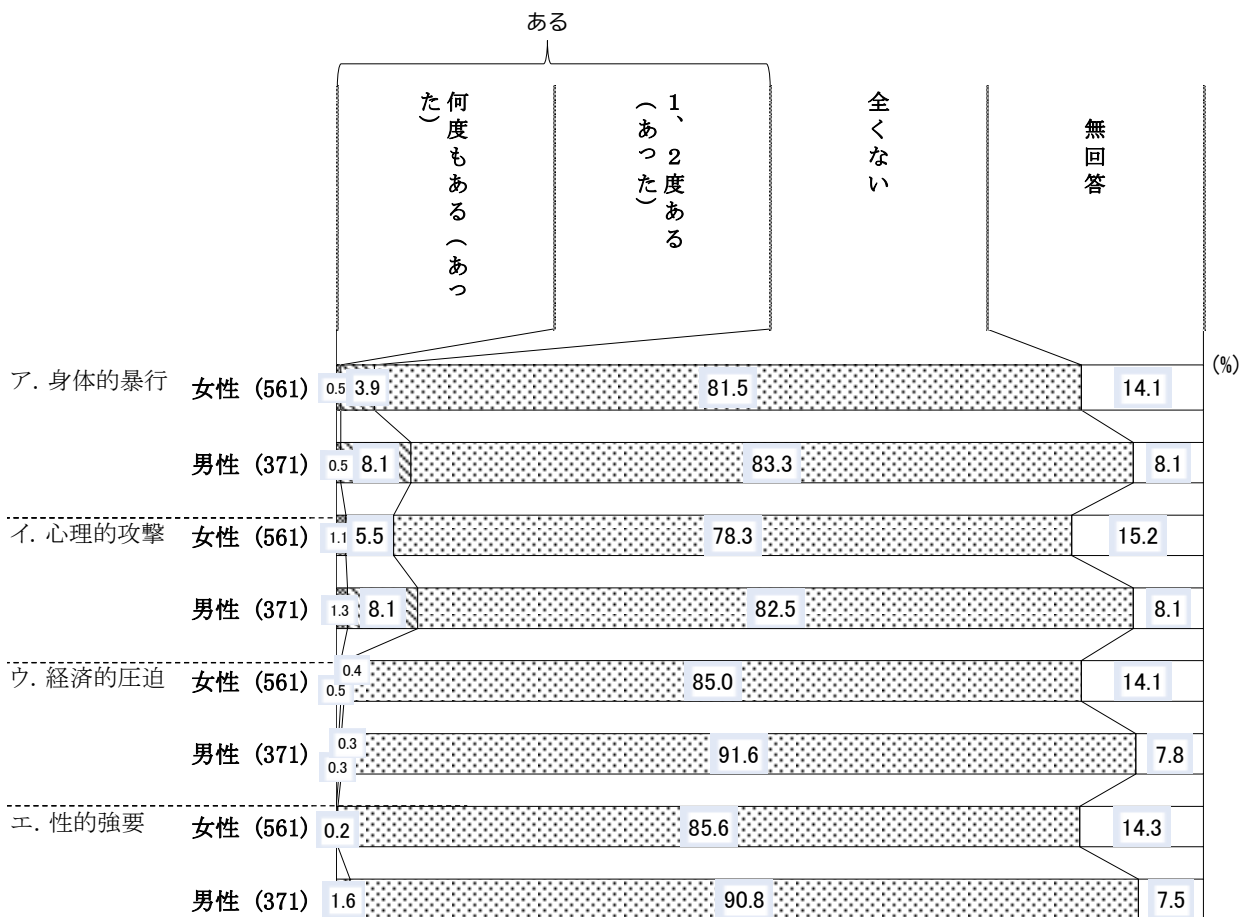


図表242 配偶者・パートナー又は交際相手などへの加害経験

○全体の傾向

「全くない」が全体の7割以上となっています。『ある※1』の中では、心理的攻撃が7.1%となっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計



図表243 配偶者・パートナー又は交際相手などへの加害経験（男女別）

○男女別の傾向

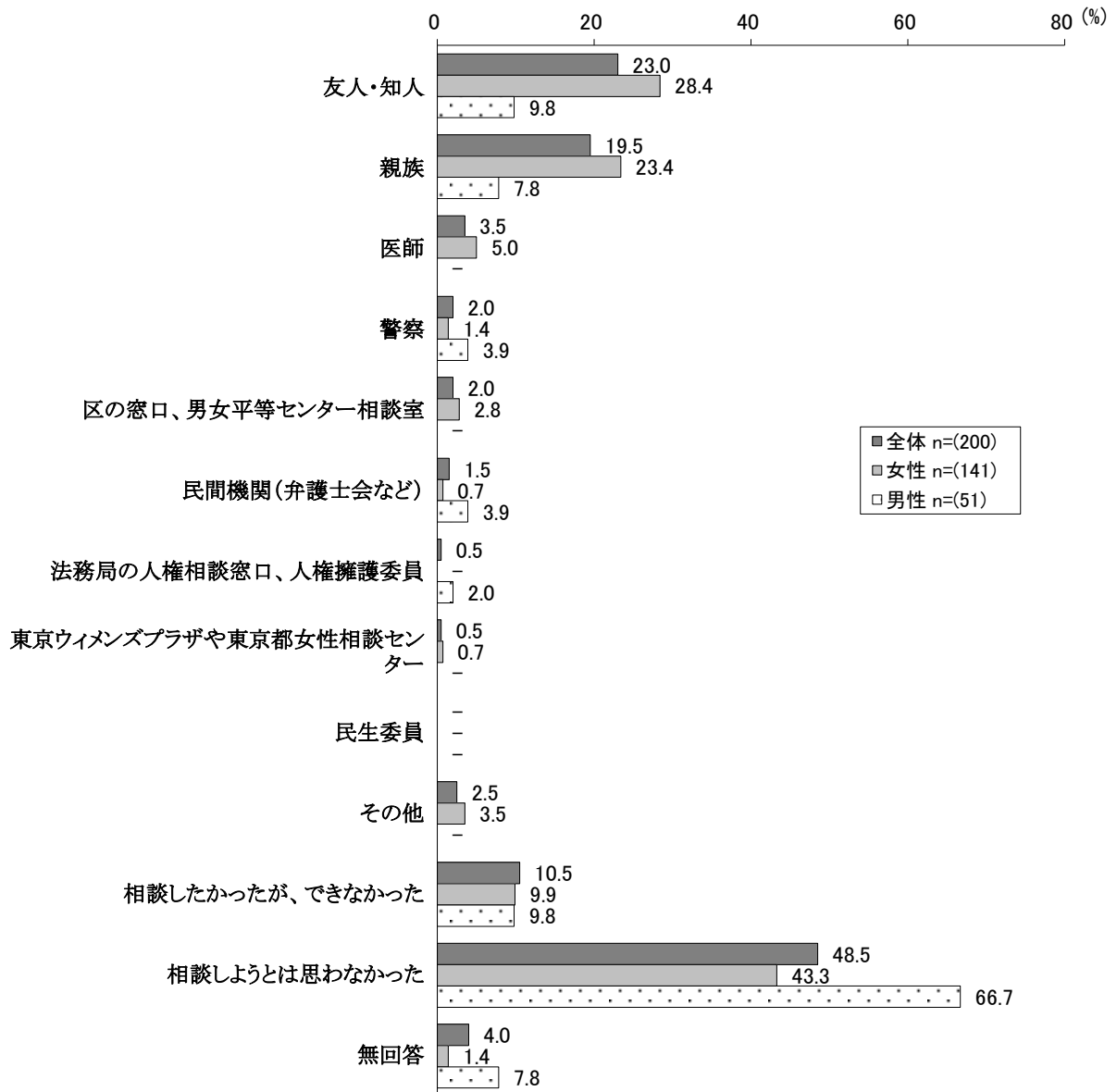
「全くない」が全体の8割以上を占めています。

一方、『ある※1』の中で、身体的暴行では女性が4.4%、男性が8.6%と4.2ポイント男性の方が女性よりも高くなっています。

※1 「何度もある(あった)」と「1、2度ある(あった)」の合計

問31-1 相談した相手(場所)

【問31のいずれかの行為を配偶者などから受けたことがある方のみご回答ください】  
 あなたが受けた暴力について、どなたかに相談したことはありますか。(〇はいくつでも)



図表249 相談した相手(場所)

○全体の傾向

「友人・知人」が23.0%と最も高くなっています。次いで、「親族」が19.5%と高くなっています。

○男女別の傾向

「友人・知人」が女性では28.4%、男性では9.8%と女性の方が男性よりも18.6ポイント高くなっています。「親族」が女性では23.4%、男性では7.8%と女性の方が男性よりも15.6ポイント高くなっています。

	全体	警察	法務局の人権相談窓口、人権擁護委員	東京ウイメンズプラザや東京都女性相談センター	区の窓口、男女平等センター相談室	民生委員	民間機関（弁護士会など）	医師	親族	友人・知人	その他	相談したが、できなかった	相談しようとは思わなかった	無回答	
全体	200 100.0	4 2.0	1 0.5	1 0.5	4 2.0	-	3 1.5	7 3.5	39 19.5	46 23.0	5 2.5	21 10.5	97 48.5	8 4.0	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	141 100.0	2 1.4	-	1 0.7	4 2.8	-	1 0.7	7 5.0	33 23.4	40 28.4	5 3.5	14 9.9	61 43.3	2 1.4
	女性10・20歳代	20 100.0	1 5.0	-	-	1 5.0	-	-	2 10.0	4 20.0	8 40.0	-	4 20.0	4 20.0	1 5.0
	女性30歳代	29 100.0	-	-	-	-	-	-	7 24.1	14 48.3	-	3 10.3	12 41.4	-	
	女性40歳代	34 100.0	-	-	-	2 5.9	-	-	8 23.5	7 20.6	-	2 5.9	18 52.9	1 2.9	
	女性50歳代	29 100.0	1 3.4	-	1 3.4	3 3.4	-	-	3 10.3	5 17.2	7 24.1	2 6.9	2 6.9	15 51.7	-
	女性60歳代	16 100.0	-	-	-	-	-	-	2 12.5	4 25.0	1 6.3	1 6.3	2 12.5	8 50.0	-
	女性70歳以上	13 100.0	-	-	-	-	-	1 7.7	-	5 38.5	3 23.1	2 15.4	1 7.7	4 30.8	-
	男性合計	51 100.0	2 3.9	1 2.0	-	-	-	2 3.9	-	4 7.8	5 9.8	-	5 9.8	34 66.7	4 7.8
	男性10・20歳代	7 100.0	-	1 14.3	-	-	-	-	-	-	2 28.6	-	-	3 42.9	1 14.3
	男性30歳代	9 100.0	1 11.1	-	-	-	-	-	-	1 11.1	-	-	-	8 88.9	-
	男性40歳代	19 100.0	1 5.3	-	-	-	-	2 10.5	-	2 10.5	2 10.5	-	2 10.5	12 63.2	1 5.3
	男性50歳代	6 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 33.3	4 66.7	-
	男性60歳代	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	7 87.5	-
	男性70歳以上	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 100.0
	無回答	8 100.0	-	-	-	-	-	-	-	2 25.0	1 12.5	-	2 25.0	2 25.0	2 25.0

図表250 相談した相手(場所)(男女・年代別)

○男女・年代別の傾向

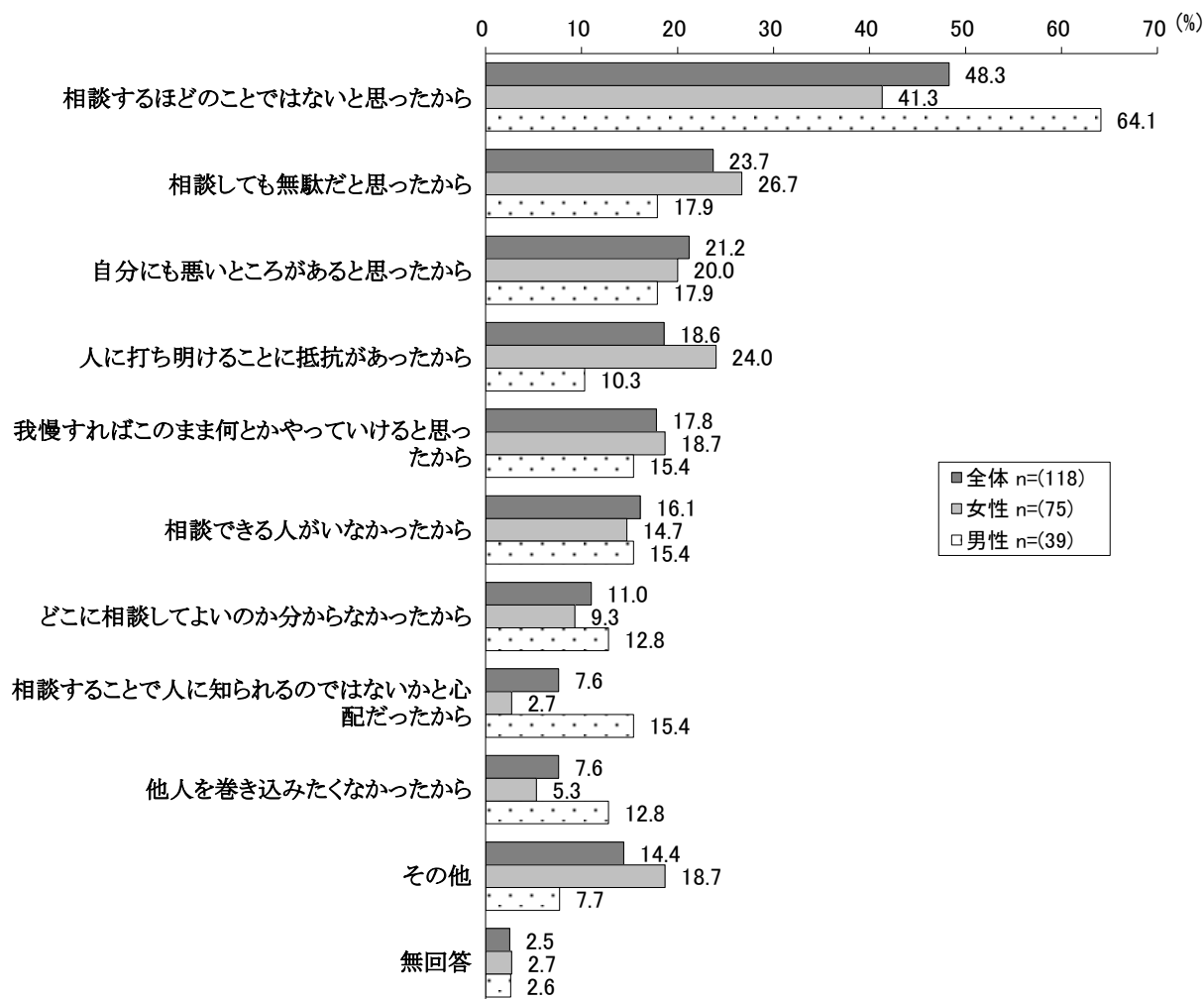
「相談しようとは思わなかった」が男性30歳代では88.9%と最も高くなっています。次いで、男性60歳代では87.5%と高くなっています。



## 問31-2 相談しなかった理由

【暴力の被害を相談できなかった、しなかった方（問31-1で11又は12を選んだ方）のみご回答ください】

相談できなかった、相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）



図表253 相談しなかった理由

### ○全体の傾向

「相談するほどのことではないと思ったから」が48.3%と最も高くなっています。次いで、「相談しても無駄だと思ったから」が23.7%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「相談するほどのことではないと思ったから」が女性では41.3%、男性では64.1%と男性の方が女性よりも22.8ポイント高くなっています。

	全体	相談できる人がいなかったから	どこに相談してよいか分からなかったから	相談することでは人配だつたか	人に打ち明けることに抵抗があつたから	相談しても無駄だと思つたから	我慢すればこのまま何とかやっつけていけると思つたから	自分にも悪いところがあると思つたから	他人を巻き込みたくなかつたから	相談するほどのことではないと思つたから	その他	無回答	
全体	118 100.0	19 16.1	13 11.0	9 7.6	22 18.6	28 23.7	21 17.8	25 21.2	9 7.6	57 48.3	17 14.4	3 2.5	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	75 100.0	11 14.7	7 9.3	2 2.7	18 24.0	20 26.7	14 18.7	15 20.0	4 5.3	31 41.3	14 18.7	2 2.7
	女性10-20歳代	8 100.0	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	2 25.0	2 25.0	-
	女性30歳代	15 100.0	2 13.3	-	-	4 26.7	4 26.7	3 20.0	2 13.3	1 6.7	9 60.0	-	-
	女性40歳代	20 100.0	3 15.0	2 10.0	-	5 25.0	6 30.0	3 15.0	4 20.0	-	8 40.0	7 35.0	-
	女性50歳代	17 100.0	3 17.6	1 5.9	1 5.9	3 17.6	4 23.5	3 17.6	3 17.6	-	7 41.2	3 17.6	2 11.8
	女性60歳代	10 100.0	1 10.0	2 20.0	-	3 30.0	4 40.0	3 30.0	3 30.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	-
	女性70歳以上	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	-	1 20.0	-	-
	男性合計	39 100.0	6 15.4	5 12.8	6 15.4	4 10.3	7 17.9	6 15.4	7 17.9	5 12.8	25 64.1	3 7.7	1 2.6
	男性10-20歳代	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	-	-	2 66.7	-	-
	男性30歳代	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	2 25.0	-	4 50.0	2 25.0	-
	男性40歳代	14 100.0	2 14.3	1 7.1	2 14.3	1 7.1	3 21.4	1 7.1	-	1 7.1	9 64.3	1 7.1	-
	男性50歳代	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	2 33.3	2 33.3	2 33.3	3 50.0	5 83.3	-	-
	男性60歳代	8 100.0	1 12.5	-	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	3 37.5	1 12.5	5 62.5	-	1 12.5
	男性70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	3 75.0	-	1 25.0	-	-

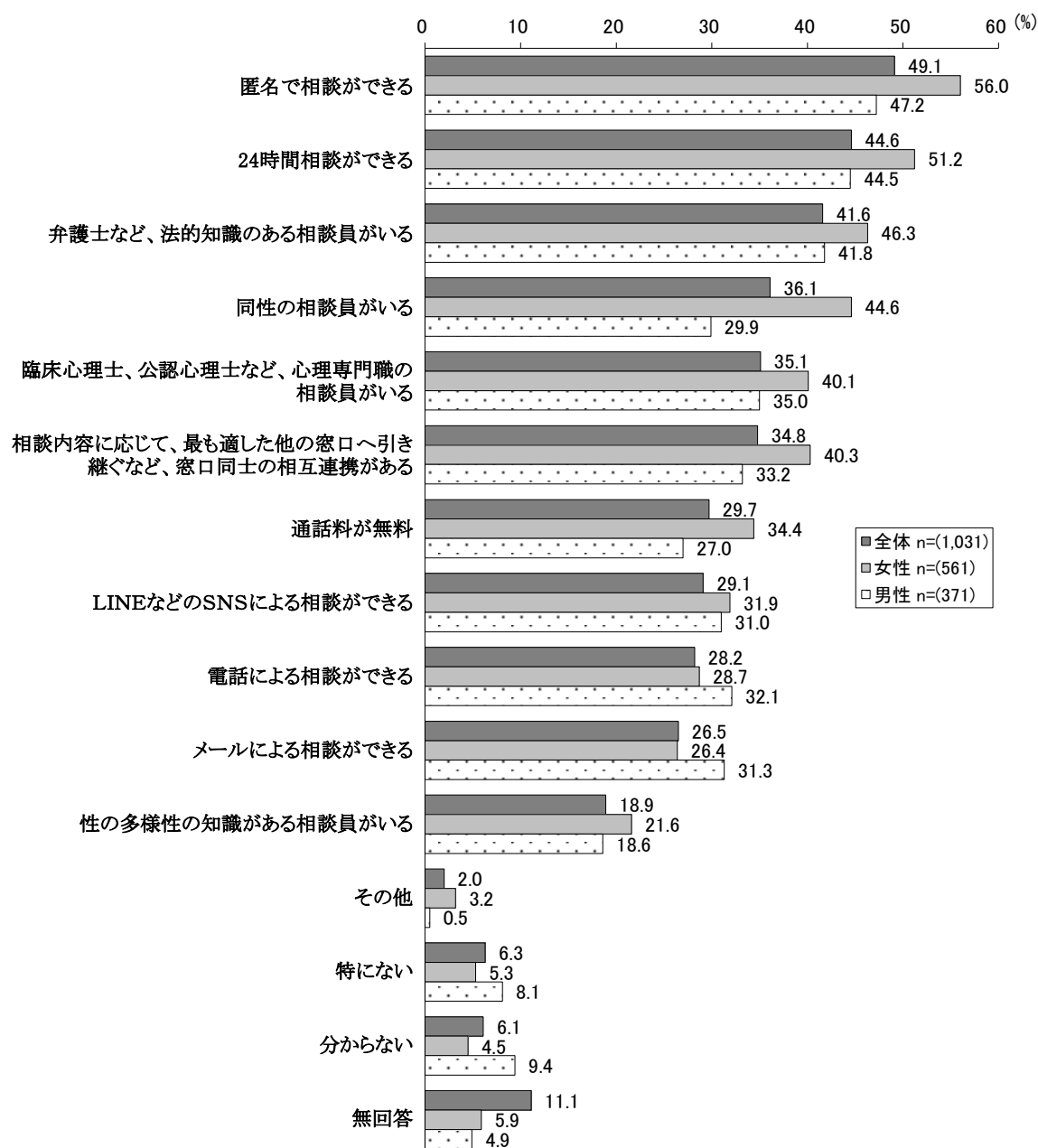
図表254 相談しなかった理由（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「相談するほどのことではないと思つたから」が男性50歳代では83.3%と高くなっています。次いで、男性10・20歳代では66.7%となっています。

## 問32 DV相談窓口に配慮してほしいこと

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)



図表257 DV相談窓口で配慮してほしいこと

### ○全体の傾向

「匿名で相談ができる」が49.1%と最も高くなっています。次いで、「24時間相談ができる」が44.6%と高くなっています。

### ○男女別の傾向

「同性の相談員がいる」が女性では44.6%、男性では29.9%と女性の方が男性よりも14.7ポイント高くなっています。

	全体	メールによる相談ができる	LINEなどのSNSによる相談ができる	電話による相談ができる	通話料が無料	24時間相談ができる	相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある	同性の相談員がいる	性の多様性の知識がある相談員がいる	匿名で相談ができる	弁護士など、法的知識のある相談員がいる	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる	その他	特になし	分からない	無回答	
全体	1031 100.0	273 26.5	300 29.1	291 28.2	306 29.7	460 44.6	359 34.8	372 36.1	195 18.9	506 49.1	429 41.6	362 35.1	21 2.0	65 6.3	63 6.1	114 11.1	
性年代別 (男女合計あり)	女性合計	561 100.0	148 26.4	179 31.9	161 28.7	193 34.4	287 51.2	226 40.3	250 44.6	121 21.6	314 56.0	260 46.3	225 40.1	18 3.2	30 5.3	25 4.5	33 5.9
	女性10・20歳代	88 100.0	22 25.0	45 51.1	23 26.1	33 37.5	55 62.5	33 37.5	52 59.1	26 29.5	51 58.0	36 42.0	37 42.0	1 1.1	8 9.1	1 1.1	-
	女性30歳代	102 100.0	37 36.3	58 56.9	37 36.3	43 42.2	69 67.6	51 50.0	54 52.9	33 32.4	65 63.7	53 52.0	50 49.0	4 3.9	2 2.0	1 1.0	2 2.0
	女性40歳代	110 100.0	33 30.0	31 28.2	32 29.1	42 38.2	57 51.8	40 36.4	57 51.8	24 21.8	73 66.4	57 51.8	48 43.6	5 4.5	4 3.6	4 3.6	1 0.9
	女性50歳代	96 100.0	30 31.3	26 27.1	26 27.1	36 37.5	45 46.9	50 52.1	39 40.6	23 24.0	58 60.4	48 50.0	42 43.8	6 6.3	1 1.0	3 3.1	5 5.2
	女性60歳代	69 100.0	11 15.9	12 17.4	19 27.5	21 30.4	33 47.8	27 39.1	24 34.8	10 14.5	31 44.9	38 55.1	31 44.9	1 1.4	3 4.3	6 8.7	4 5.8
	女性70歳以上	94 100.0	14 14.9	6 6.4	23 24.5	17 18.1	27 28.7	24 25.5	23 24.5	4 4.3	34 36.2	27 28.7	16 17.0	1 1.1	12 12.8	10 10.6	21 22.3
	男性合計	371 100.0	116 31.3	115 31.0	119 32.1	100 27.0	165 44.5	123 33.2	111 29.9	69 18.6	175 47.2	155 41.8	130 35.0	2 0.5	30 8.1	35 9.4	18 4.9
	男性10・20歳代	54 100.0	26 48.1	22 40.7	22 40.7	18 33.3	26 48.1	20 37.0	21 38.9	12 22.2	31 57.4	26 48.1	19 35.2	-	3 5.6	6 11.1	-
	男性30歳代	68 100.0	20 29.4	30 44.1	26 38.2	24 35.3	32 47.1	23 33.8	29 42.6	20 29.4	37 54.4	29 42.6	27 39.7	-	5 7.4	6 8.8	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	24 31.2	24 31.2	24 31.2	20 26.0	38 49.4	27 35.1	25 32.5	15 19.5	45 58.4	38 49.4	34 44.2	1 1.3	5 6.5	6 7.8	2 2.6
	男性50歳代	66 100.0	25 37.9	20 30.3	19 28.8	21 31.8	31 47.0	24 36.4	17 25.8	12 18.2	26 39.4	24 36.4	20 30.3	-	9 13.6	3 4.5	3 4.5
	男性60歳代	48 100.0	13 27.1	13 27.1	15 31.3	11 22.9	22 45.8	18 37.5	12 25.0	7 14.6	20 41.7	21 43.8	18 37.5	1 2.1	3 6.3	5 10.4	2 4.2
	男性70歳以上	58 100.0	8 13.8	6 10.3	13 22.4	6 10.3	16 27.6	11 19.0	7 12.1	3 5.2	16 27.6	17 29.3	12 20.7	-	5 8.6	9 15.5	10 17.2
	無回答	99 100.0	9 9.1	6 6.1	11 11.1	13 13.1	8 8.1	10 10.1	11 11.1	5 5.1	17 17.2	14 14.1	7 7.1	1 1.0	5 5.1	3 3.0	63 63.6

図表258 DV相談窓口に対応してほしいこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「メールによる相談ができる」では、男性10・20歳代が48.1%と最も高くなっています。

「LINEなどのSNSによる相談ができる」では、女性10～30歳代が5割台と高くなっています。

「通話料が無料」では、女性30歳代が42.2%と最も高くなっています。

「24時間相談ができる」では、女性10～30歳代が6割台と高くなっています。

「相談内容に応じて、最も適した他の窓口へ引き継ぐなど、窓口同士の相互連携がある」では、女性30歳代と50歳代が5割台と高くなっています。

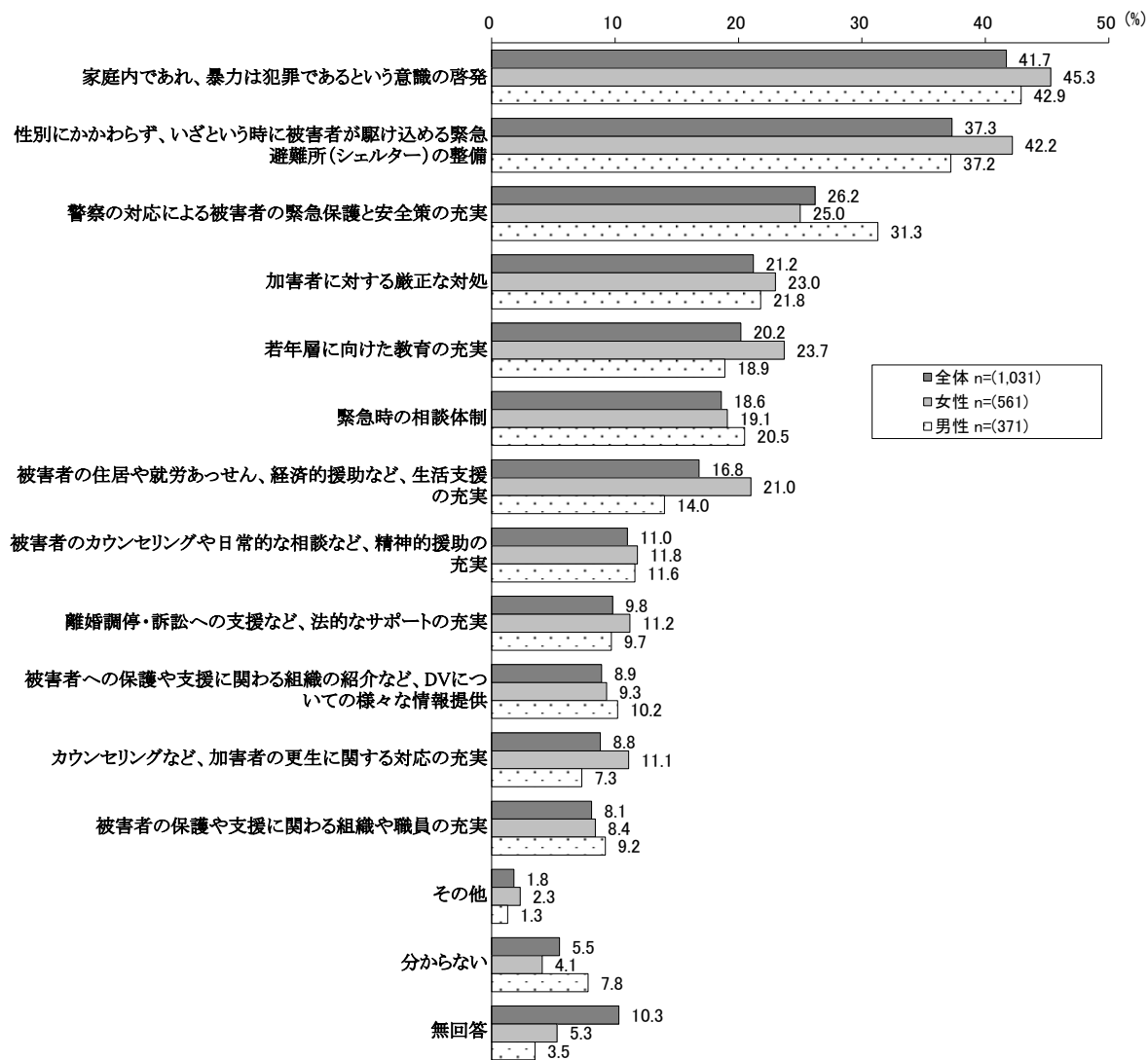
「同性の相談員がいる」では、女性10～40歳代が5割台と高くなっています。

「匿名で相談ができる」では、女性30～50歳代が6割台、男性10～40歳代が5割台と高くなっています。

「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」では、女性30～60歳代が5割台と高くなっています。

### 問33 DVに対する対策や援助として特に充実させる必要があるもの

あなたは、配偶者・パートナー又は交際相手からの暴力防止及び被害者支援のためにどのようなことを充実すべきだと思いますか。(〇は3つまで)



図表259 DVに対する対策や援助として特に充実させる必要があるもの

#### ○全体の傾向

「家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発」が41.7%と最も高くなっています。次いで、「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所(シェルター)の整備」が37.3%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「被害者の住居や就労あっせん、経済的援助など、生活支援の充実」が女性では21.0%、男性では14.0%と女性の方が男性よりも7.0ポイント高くなっています。

	全体	家庭内であれ、暴力は犯罪であるという意識の啓発	若年層に向けた教育の充実	被害者への保護や支援に関わる組織の紹介など、DVについての様々な情報提供	性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）の整備	警察の対応による被害者の緊急保護と安全策の充実	緊急時の相談体制	被害者の住居や就労あっせん、経済的援助など、生活支援の充実	被害者のカウンセリングや日常的な相談など、精神的援助の充実	被害者の保護や支援に関わる組織や職員の充実	離婚調停・訴訟への支援など、法的なサポートの充実	加害者に対する厳正な対処	カウンセリングなど、加害者の更生に関する対応の充実	その他	分からない	無回答	
全体	1031 1000	430 41.7	208 20.2	92 8.9	385 37.3	270 26.2	192 18.6	173 16.8	113 11.0	84 8.1	101 9.8	219 21.2	91 8.8	19 1.8	57 5.5	106 10.3	
性年代別（男女合計あり）	女性合計	561 1000	254 45.3	133 23.7	52 9.3	237 42.2	140 25.0	107 19.1	118 21.0	66 11.8	47 8.4	63 11.2	129 23.0	62 11.1	13 2.3	23 4.1	30 5.3
	女性10・20歳代	88 1000	43 48.9	28 31.8	7 8.0	44 50.0	21 23.9	16 18.2	13 14.8	10 11.4	5 5.7	10 11.4	22 25.0	4 4.5	- -	6 6.8	1 1.1
	女性30歳代	102 1000	45 44.1	29 28.4	12 11.8	46 45.1	26 25.5	19 18.6	25 24.5	11 10.8	11 10.8	10 9.8	28 27.5	18 17.6	3 2.9	2 2.0	2 2.0
	女性40歳代	110 1000	47 42.7	33 30.0	9 8.2	42 38.2	27 24.5	20 18.2	23 20.9	13 11.8	10 9.1	18 16.4	32 29.1	12 10.9	5 4.5	4 3.6	1 0.9
	女性50歳代	96 1000	40 41.7	15 15.6	12 12.5	45 46.9	30 31.3	19 19.8	26 27.1	10 10.4	8 8.3	12 12.5	24 25.0	16 16.7	5 5.2	1 1.0	3 3.1
	女性60歳代	69 1000	34 49.3	14 20.3	6 8.7	31 44.9	16 23.2	16 26.1	18 26.1	11 15.9	6 8.7	5 7.2	10 14.5	5 7.2	- -	5 7.2	3 4.3
	女性70歳以上	94 1000	45 47.9	14 14.9	6 6.4	28 29.8	19 20.2	17 18.1	12 12.8	11 11.7	7 7.4	8 8.5	13 13.8	7 7.4	- -	4 4.3	20 21.3
	男性合計	371 1000	159 42.9	70 18.9	38 10.2	138 37.2	116 31.3	76 20.5	52 14.0	43 11.6	34 9.2	36 9.7	81 21.8	27 7.3	5 1.3	29 7.8	13 3.5
	男性10・20歳代	54 1000	23 42.6	15 27.8	7 13.0	24 44.4	14 25.9	10 18.5	6 11.1	2 3.7	3 5.6	6 11.1	9 16.7	6 11.1	- -	3 5.6	- -
	男性30歳代	68 1000	25 36.8	14 20.6	5 7.4	29 42.6	19 27.9	11 16.2	10 14.7	11 16.2	4 5.9	10 14.7	15 22.1	9 13.2	1 1.5	4 5.9	1 1.5
	男性40歳代	77 1000	40 51.9	12 15.6	9 11.7	24 31.2	28 36.4	18 16.9	13 15.6	12 15.6	7 9.1	11 14.3	20 26.0	6 7.8	1 1.3	4 5.2	1 1.3
	男性50歳代	66 1000	26 39.4	13 19.7	7 10.6	24 36.4	27 40.9	13 19.7	8 12.1	5 7.6	8 12.1	2 3.0	16 24.2	3 4.5	2 3.0	5 7.6	3 4.5
	男性60歳代	48 1000	20 41.7	9 18.8	7 14.6	20 41.7	12 25.0	11 22.9	8 20.8	7 16.7	7 14.6	- -	8 16.7	2 4.2	1 2.1	5 10.4	1 2.1
	男性70歳以上	58 1000	25 43.1	7 12.1	3 5.2	17 29.3	16 27.6	13 22.4	5 8.6	5 8.6	5 8.6	7 12.1	13 22.4	1 1.7	- -	8 13.8	7 12.1
	無回答	99 1000	17 17.2	5 5.1	2 2.0	10 10.1	14 14.1	9 9.1	3 3.0	4 4.0	3 3.0	2 2.0	9 9.1	2 2.0	1 1.0	5 5.1	63 63.6

図表260 DVに対する対策や援助として特に充実させる必要があるもの（男女・年代別）

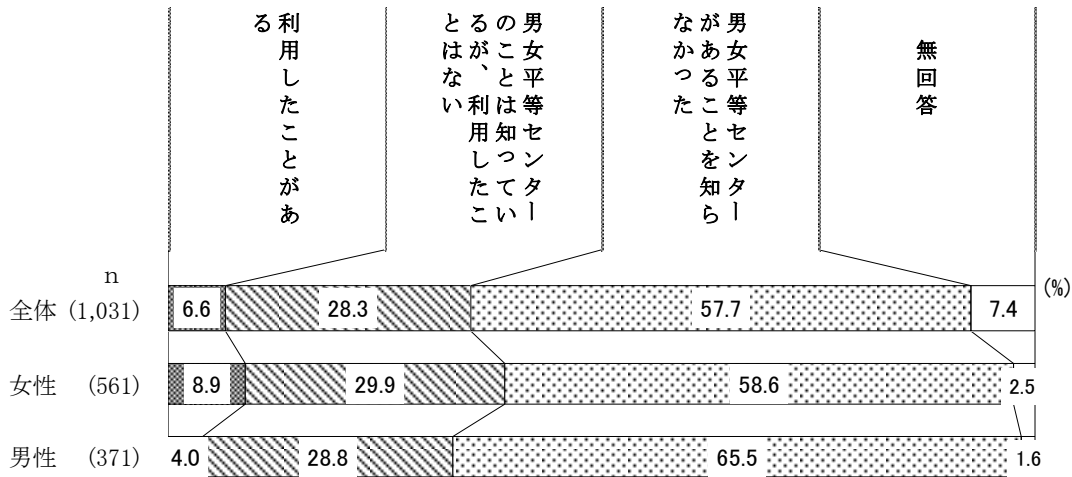
○男女・年代別の傾向

「性別にかかわらず、いざという時に被害者が駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備」では、女性10・20歳代が5割と高くなっています。

### 13 男女平等参画の推進施策・男女平等センターについて

#### 問34 男女平等センターの利用状況

文京区には、男女平等参画推進のための拠点施設として「文京区男女平等センター」(所在地：文京区本郷四丁目)があります。あなたは、文京区男女平等センターを利用したことがありますか。(○は1つ)



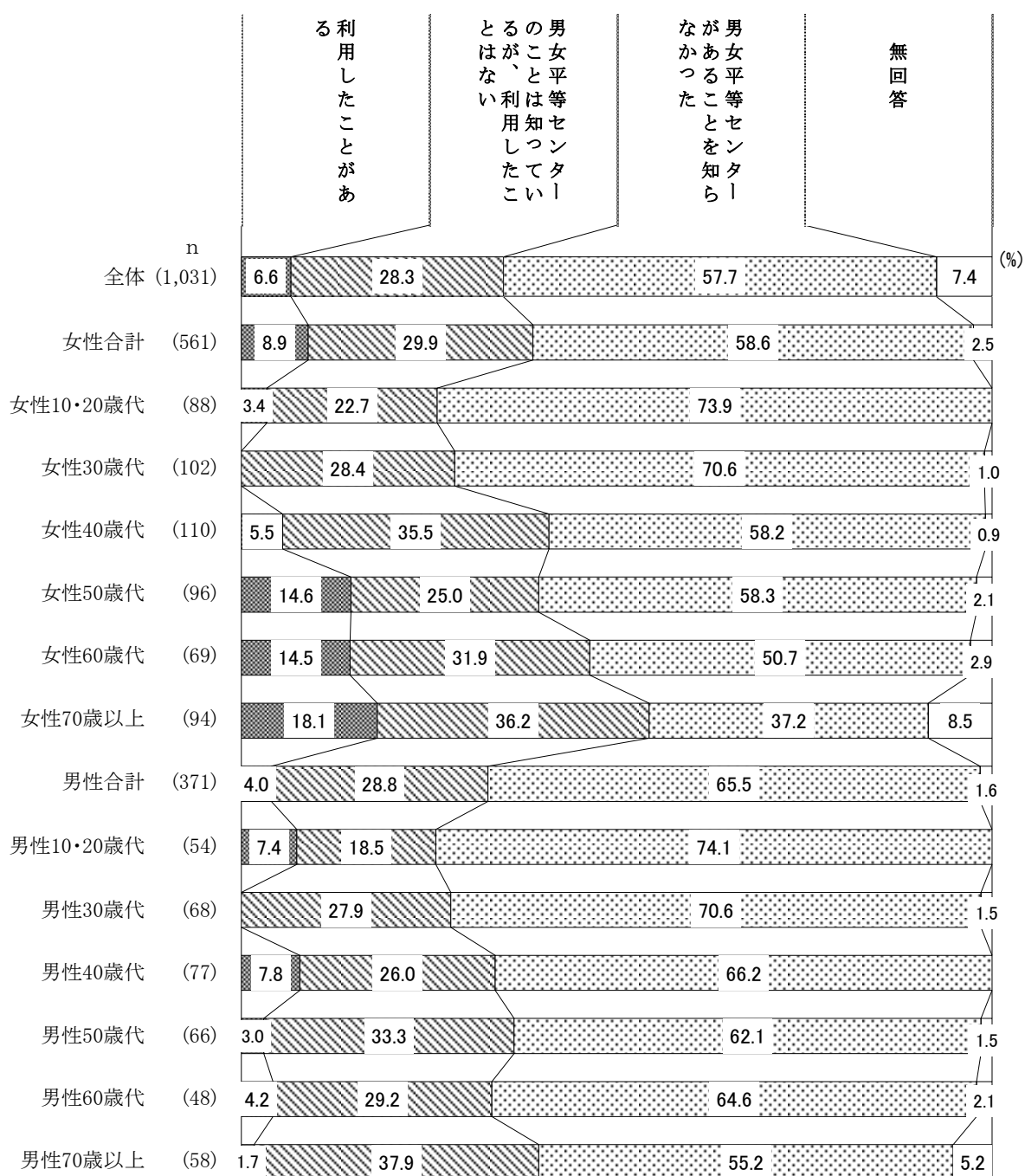
図表263 男女平等センターの利用状況

#### ○全体の傾向

「男女平等センターがあることを知らなかった」が57.7%と最も高くなっています。次いで、「男女平等センターのことは知っているが、利用したことはない」が28.3%となっています。

#### ○男女別の傾向

「男女平等センターがあることを知らなかった」が女性では58.6%、男性では65.5%と男性の方が女性よりも6.9ポイント高くなっています。



図表264 男女平等センターの利用状況（男女・年代別）

### ○男女・年代別の傾向

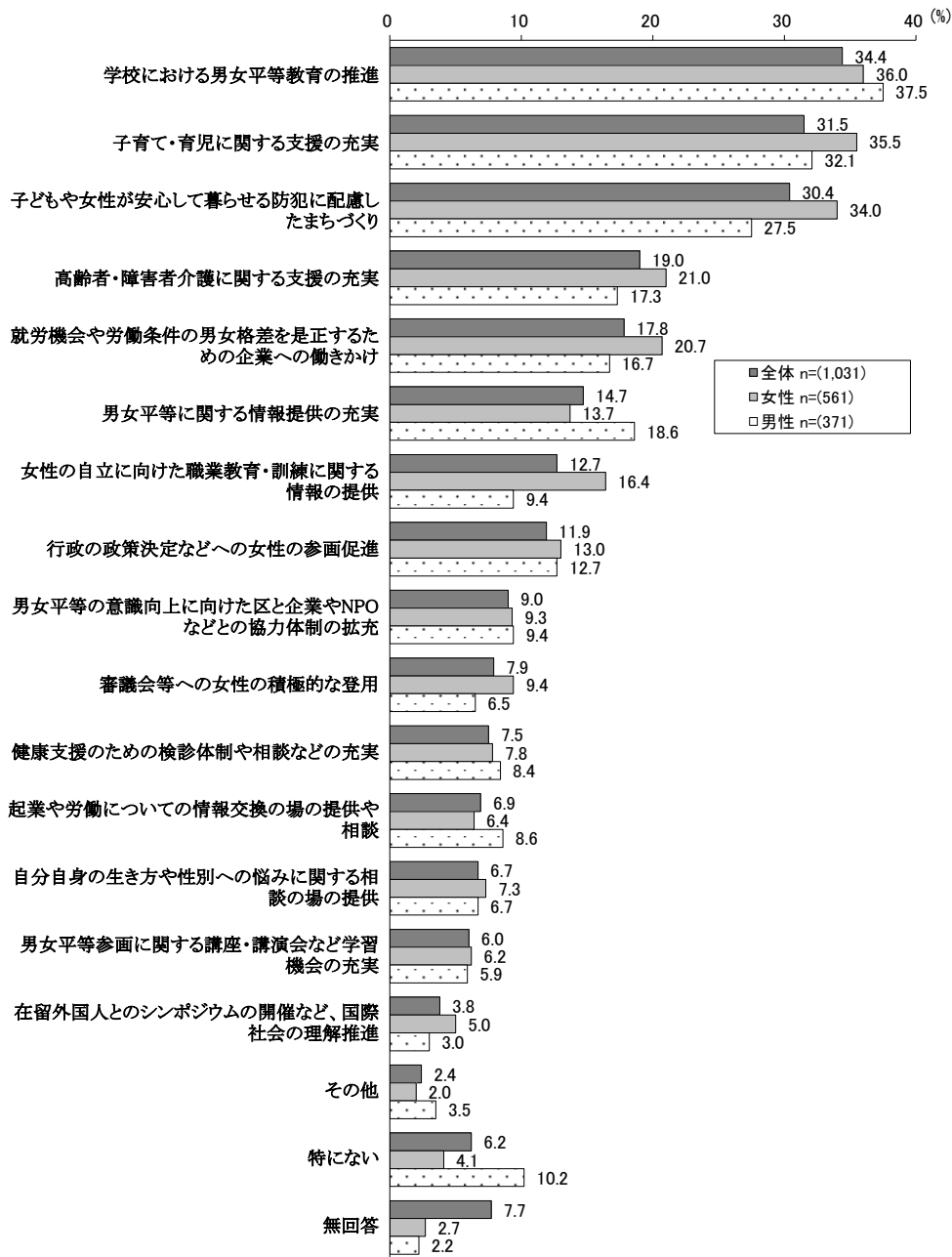
「利用したことがある」が女性50歳以上では1割台と他の年代よりも高くなっています。

「男女平等センターのことは知っているが、利用したことはない」が男性70歳以上では37.9%と最も高くなっています。また、「男女平等センターがあることを知らなかった」が男性10・20歳代では74.1%と最も高くなっています。



### 問35 男女平等参画社会を実現するために区が力を入れるべきこと

あなたは、男女平等参画社会を実現していくために、今後、文京区はどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。(〇は3つまで)



図表266 男女平等参画社会を実現するために区が力を入れるべきこと

#### ○全体の傾向

「学校における男女平等教育の推進」が34.4%と最も高くなっています。次いで、「子育て・育児に関する支援の充実」が31.5%と高くなっています。

#### ○男女別の傾向

「女性の自立に向けた職業教育・訓練に関する情報の提供」が女性では16.4%、男性では9.4%と女性の方が男性よりも7ポイント高くなっています。

	全体	学校における男女平等教育の推進	男女平等参画に関する講座・講演会など 学習機会の充実	男女平等に関する情報提供の充実	起業や労働についての情報交換の場の提供や相談	女性の自立に向けた職業教育・訓練に関する情報の提供	就労機会や労働条件の男女格差を是正するための企業への働きかけ	子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり	子育て・育児に関する支援の充実	審議会等への女性の積極的な登用	行政の政策決定などへの女性の参画促進	高齢者・障害者介護に関する支援の充実	健康支援のための検診体制や相談などの充実	自分自身の生き方や性別への悩みに関する相談の場の提供	在留外国人とのシンポジウムの開催など、国際社会の理解推進	男女平等の意識向上に向けた区と企業やNPOなどの協力体制の拡充	その他	特になし	無回答	
全体	1031 100.0	355 34.4	62 6.0	152 14.7	71 6.9	131 12.7	184 17.8	313 30.4	325 31.5	81 7.9	123 11.9	196 19.0	77 7.5	69 6.7	39 3.8	93 9.0	25 2.4	64 6.2	79 7.7	
性年代別 (男女合計あり)	女性合計	561 100.0	202 36.0	35 6.2	77 13.7	36 6.4	92 16.4	116 20.7	199 35.5	53 9.4	73 13.0	118 21.0	44 7.8	41 7.3	28 5.0	52 9.3	11 2.0	23 4.1	15 2.7	
	女性10・20歳代	88 100.0	34 38.6	3 3.4	10 11.4	6 6.8	11 12.5	23 26.1	31 35.2	40 45.5	11 12.5	12 13.6	8 9.1	3 3.4	10 11.4	7 8.0	5 5.7	-	5 5.7	-
	女性30歳代	102 100.0	47 46.1	2 2.0	12 11.8	8 7.8	21 20.6	26 25.5	34 33.3	52 51.0	8 7.8	7 6.9	11 10.8	6 7.8	2 2.0	11 10.8	2 2.0	3 2.9	1 1.0	
	女性40歳代	110 100.0	39 35.5	6 5.5	14 12.7	8 7.3	21 19.1	18 16.4	45 40.9	38 34.5	10 9.1	17 15.5	21 19.1	8 7.3	13 11.8	7 2.7	7 6.4	6 5.5	2 1.8	2 1.8
	女性50歳代	96 100.0	34 35.4	6 6.3	14 14.6	5 5.2	13 13.5	20 20.8	31 32.3	23 24.0	14 14.6	11 11.5	26 27.1	8 8.3	7 7.3	7 7.3	13 13.5	2 2.1	5 5.2	2 2.1
	女性60歳代	69 100.0	28 40.6	5 7.2	11 15.9	5 7.2	14 20.3	15 21.7	20 29.0	20 29.0	3 4.3	13 18.8	20 29.0	6 8.7	2 2.9	2 2.9	8 11.6	1 1.4	2 2.9	2 2.9
	女性70歳以上	94 100.0	20 21.3	13 13.8	16 17.0	4 4.3	12 12.8	13 13.8	29 30.9	26 27.7	7 7.4	12 12.8	32 34.0	11 11.7	3 3.2	7 7.4	8 8.5	-	5 5.3	8 8.5
	男性合計	371 100.0	139 37.5	22 5.9	69 18.6	32 8.6	35 9.4	62 16.7	102 27.5	119 32.1	24 6.5	47 12.7	64 17.3	31 8.4	25 6.7	11 3.0	35 9.4	13 3.5	38 10.2	8 2.2
	男性10・20歳代	54 100.0	20 37.0	5 9.3	5 9.3	5 9.3	5 9.3	8 14.8	19 35.2	17 31.5	2 3.7	7 13.0	2 3.7	2 3.7	7 13.0	2 3.7	2 3.7	-	1 1.7	9 16.7
	男性30歳代	68 100.0	31 45.6	-	11 16.2	6 8.8	4 5.9	10 14.7	23 33.8	30 44.1	5 7.4	10 14.7	7 10.3	5 7.4	3 4.4	2 2.9	5 7.4	4 5.9	4 5.9	1 1.5
	男性40歳代	77 100.0	34 44.2	6 7.8	10 13.0	12 15.6	8 10.4	12 15.6	21 27.3	34 44.2	6 7.8	9 11.7	9 11.7	6 7.8	5 6.5	1 1.3	8 10.4	3 3.9	8 10.4	-
	男性50歳代	66 100.0	20 30.3	4 6.1	18 27.3	6 9.1	7 10.6	8 12.1	16 24.2	16 24.2	4 6.1	9 13.6	15 22.7	5 7.6	6 9.1	4 6.1	6 9.1	2 3.0	8 12.1	1 1.5
	男性60歳代	48 100.0	14 29.2	3 6.3	13 27.1	2 4.2	3 6.3	14 29.2	10 20.8	12 25.0	1 2.1	9 18.8	14 29.2	7 14.6	1 2.1	1 2.1	8 16.7	2 4.2	4 8.3	2 4.2
	男性70歳以上	58 100.0	20 34.5	4 6.9	12 20.7	1 1.7	8 13.8	10 17.2	13 22.4	10 17.2	6 10.3	3 5.2	17 29.3	6 10.3	3 5.2	1 1.7	8 13.8	1 1.7	5 8.6	4 6.9
	無回答	99 100.0	14 14.1	5 5.1	6 6.1	3 3.0	4 4.0	6 6.1	20 20.2	7 7.1	4 4.0	3 3.0	14 14.1	2 2.0	3 3.0	-	6 6.1	1 1.0	3 3.0	56 56.6

図表267 男女平等参画社会を実現するために区が力を入れるべきこと（男女・年代別）

○男女・年代別の傾向

「子育て・育児に関する支援の充実」が女性30歳代では51.0%と最も高くなっています。次いで、「学校における男女平等教育の推進」が、男性30歳代では45.6%と高くなっています。また、「女性の自立に向けた職業教育・訓練に関する情報の提供」では女性30歳代・40歳代・60歳代では2割前後と高くなっています。「子どもや女性が安心して暮らせる防犯に配慮したまちづくり」では女性40歳代が40.9%と高くなっています。